

吾妻麻一 班
 附 吾妻の紹介

岩島風景

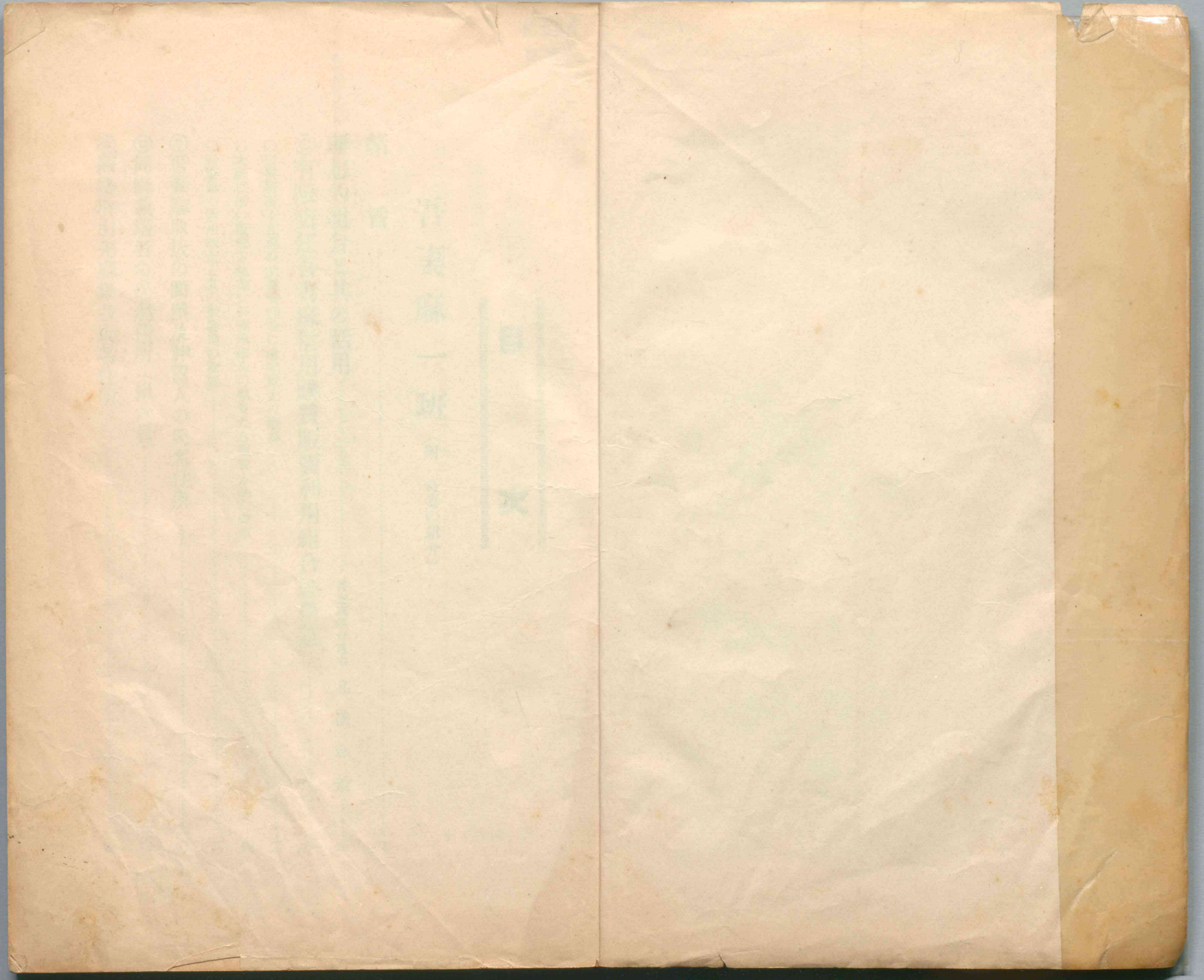
昭和四年十一月五日納本
 昭和四年十一月十日發行

横山



147127





Faint, illegible text visible on the left page, likely bleed-through from the reverse side. The text is arranged in several vertical columns and is too faded to be transcribed accurately.

8

K618
78Y

目次

吾妻麻一班 (附 吾妻の紹介)

緒言

理想的組合と其の活用 吾妻麻組合理事 丸橋春倭

◎有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合經營誌 一

○同事務所々在地の位置交通並に地勢風土の概要 二

○大麻従來の販賣方法並に吾妻麻組合の執りたる販賣方法の改革 四

○吾妻麻の需用狀況と其の製産地の概要 八

◎吾妻麻取扱の間屋及仲買人の氏名住所 一〇

◎同麻栽培者の氏名住所 (組合員) 一〇

◎販路取引先麻扱者氏名住所 一四

◎博覽會共進會出品者入賞氏名……………一六

◎麻織機織技術の傳習……………一七

○麻織物を創始するに至りたる動機……………一七

○大麻粕貫製法講習會開催に至りたる動機……………一七

○粕績製造講習會の狀況……………一九

○實地見學生派遣……………二一

○麻織物傳習の狀況……………二二

◎麻織物に對する本郡内の計劃紹介……………二四

◎大麻加工經濟競技會……………二九

◎吾妻大麻栽培及製造方法……………三四

◎大麻こぎ取り當時のスケッチ……………四一

◎吾妻蕎麥糠枕……………四二

◎有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合沿革史……………四四

一、設立前の社會經濟事情及産業狀態……………四四

二、設立の動機……………四四

三、設立の經過及變遷……………四五

四、設立を斡旋したる人物及其の略歴……………四五

五、設立後に起りたる内外事變の經過及其の組合に及ぼしたる影響……………四六

六、役員の変遷及特に盡力したる役職員の略歴……………四六

七、經營方法の変遷及特色並に經營設備の概要……………四九

八、本組合の受けたる賞状……………四九

◎吾妻麻組合大麻改良品評會概要……………五二

◎大麻栽培實驗談……………五七

◎製麻順序の句……………五八

◎吾妻郡温泉、名勝古蹟の紹介……………五九

◎吾妻の秋……………七七

◎天明の淺間山焼出し大變記……………七八

◎本郡に於ける産麻の由緒傳説……………八二

四

- ◎岩島八勝、其他及全國大麻栽培調査……………八三
- ◎温泉情緒、(四萬、川原湯、草津)……………八七
- ◎名物紹介……………九〇
- ◎群馬縣農事試驗場委託試驗成績……………九二
- ◎吾妻麻組合大麻取扱數量及價額表……………九九
- ◎同最近十ヶ年間各呼號別取扱數量及價額表……………一〇〇
- ◎同呼號別販賣價額表……………一〇一
- ◎吾妻郡大麻耕作反別及數量並ニ價額統計表……………一〇三
- ◎全國大麻栽培狀況調査表……………一一四
- ◎大麻栽培者及篤農家紹介……………一二二

目次 (終)

緒言

當地方製産ノ大麻ハ、全帝國中稀ニ見ルノ優良品質ト稱セラレ、本郡湧出ノ温泉ハ世界ニ於ケル最有効ナルモノ、一ト認メラル。斯ル優秀ナル物ノ産出スル土地、其ノ天然ト人工トノ如何ニ調和シ如何ニ發展シ如何ニ多クノ世人ニ利用セララルカ、顧テ此ノ點ニ向テ熟考スルニ、尙未ダ大ナル餘地ノ存スルアルヲ思フコト久シカリキ。今ヤ幸多數同感ノ士ノ力ヲ得、從來スル方面ニ盡クサレタル刻苦ノ量ノ幾分ヲ廣ク世ニ紹介スルト共ニ、將來益々研究ト活用ノ方途ヲ開キ、普ク江湖ノ指導ヲ仰ギ、以テ原料品質ノ真正ナル効果ヲ發揮シ、進ンデ人世ヲ益スルコトノ念多カラントコトヲ切ニ望ム。蓋此ノ編ヲ輯スル以所ナリ。

昭和四年十月

編者 謹識

ふ事になつて来る。そして心を持ち換へて、善い考を出して行けば、だん／＼よい方へ／＼と向つて行く事と思はれる。

悪い方へ／＼と考へて、無暗に偏して行つたならば、外の人との衝突は絶間が無い様になつて、自分で自分の信用を失ふ事も出来るのであるから、僅の氣の持ち様一つで結果は大きな差が出来て仕まふことに注意する事が肝心であります。

家長の方、主婦の方は此の按配をよく考へて、成るべく其の善化を計つて、家内一致して能率を増進させる事を心懸て行かれるれば、一年三百六十五日の間には、驚くべき効果、堆積される事と思ひます。

家内擧つて無駄を省約し、家内擧つて勤務に盡瘁し、借金の有る人は家内擧つて其の撲滅に努力し、借金の無い人は家内擧つて貯金して行つたならば、不景氣も追出す事が出来よう。やがて餘裕の爲に安定した家庭が築かれよう。

次に一村、一部落の内には、色々の境遇の人が有る。眞に同情すべき原因が有つて悲境の中に居る人、自分が放逸の爲に遂に悲境に立つ人、等々其の由て来る来る所にも大なる差別が有る。又よい境遇に居る人にも、指彈すべき行爲を敢て爲したる人、模範的の行動に出で來たる人、好運の爲に依る人等、之れ又種々なる色別けが出来るが、要する

に今の現在に依て考ふるに如かないのである。どう云ふ原因が有つて悲境になつても、どういふ譯があつて順境に立つても、その原因を尋ねるのは過去の問題で、現在及將來に向つての事が大切であると思ふ。

その將來を思ふとき、吾々は常に其の自己、自家の安定を計ると共に、其の郷村の安定、圓滿、幸福を願ふのであります。此の意志、此の希望は等しく何人にも有る共通な眞意ではあるまいか。

其の意味に於て之を調節し、向上せしめ、何人の家をも安全な住みよい家とし、快い村とし、人生の快味を享け得べきの方策として、産業組合を活用する事が最も適切で、最も理想であると思ふのであります。

産業組合を中心として、之に全力を注いで、始めて組合の能力が顯はれるのであります。

金融機關や、産業團體や、保險會社、事業會社、色々な機關は四圍を取り巻いて居りますが、眞に自己の爲になり、自己の郷村の爲になる組織の團體は、産業組合であると思ひます。産業組合は組合員たる各個々の人たちの表現した一つの人格であつて、其の組合の良し悪しや、規模の大小振不振は組合員の方々の意志に因つて來るのであります。其の主腦部にある理事者の良不良に因つて其の差別が大に異つて來ると思ふのであります。

組合員の方々は、此意味に於て一考を煩したい。そして之に共鳴して下さる方は、やがて理想的組合員であらうと思ひます。

◎理想的組合

人各々其の抱負が異り、考も色々でありますから、必しも共通的には参りませんが、出來得る事ならば組合と云ふ法律上の一個の人格を認めて、之を多數の方々の力に依つて立派にして見たい。そして其人格ある法人に十分働かせて見たい。そうして其の法人の信用を高め、押しも押されぬもの仕上りたい。只だ名前だけ立派でも押しがきかなければ何にもならない、信用がなければ何にもならない。押しがきくのも、信用が付くのも、其の内容のよいのと悪いのとできまると思ひます。内容の悪いと云ふのは要するに、組合員で居ながら組合の精神にならない人があつたり、自己本位で組合と云ふ頭にならない人が有るから、遂勝手の自利的になるのであり、又境遇がそうさせる場合もあるのでせう。でありますから、組合と云ふ一個の法人が働く場合には、せひ其の法人に共鳴して、多少自分の思ふ通りに往かないでも、將來の考を持ち、多數の組合員の爲を思ひ、又自分の人格を向上せしむる上に迄考を及ぼして、自ら組合を保護し安全に導く精神で、共鳴して下さつたならば、内容の悪い點は次第にとれて了ふと思ひま

故に組合を作つた組合員、組合に結ばつて居る組合員、組合を利用する組合員は、組合を中心として、組合を完全に發達させなければ已まないと云ふ決心で、組合の悪害となる根本を除去する事、組合の助長を保護する事、組合で出來べき事は成るべく利用して活用する事、組合の中心人物を選択し、又監視し、援助する事。

吾人が悲境に在るとき、之を救ふべき方法として共同共助を主眼として立脚した、産業組合によるの外ないと思ひます。組合は一時的の仕事ではありません。將來永久的に相互の安定を援助する團體であります。併しながら、組合員が其の精神を知らないで、外の銀行や會社と比べて、營利的に考へて居る事は、實に再考を願ひ度い事だと思ひます。組合員が一致し、其家族も一致し、組合理事者も一致した組合でなくてはならない。外の事は組合を完全に、立派にしてからの事。即ち『組合第一』と云ふ觀念を以て之を守り立てて行き、其の不備の點や、悪い所は組合員各自の考を容れて、多數の人の考を實行する様にし、誰もが自分の組合と云ふ頭になり、自分の組合は信頼が出来る、自分の組合だから成るだけ利用する、自分の組合だから遠慮なく云ふ、といふ様に、組合と組合員は一家同様に親しみ、信頼してこそ組合の眞の味ひ、眞の値うちはわかるのでありませう。

す。

夫から組合を立派にするには、組合員の方々の共鳴して居るのを、今一層家内の人々に迄及ぼして、一にも二にも組合を利用し、組合に依頼し、組合に貯金し、組合を我家同様に親しんで、此事は組合でやれとか、此事は組合のやり方がよくないとか、總て組合員でも、組合當事者でも同じ頭になつて、共同一致が實現するのです。

總てお互に愛すると云ふ事が、共同一致の元になります。愛する頭でやつた事は魂があります。魂のある仕事は何人にも認められ、必ず永遠に光輝があります。魂のない、愛のない、誠意のない仕事は、成功しません。誠意は吾々の骨子であり、誠意にして始めて人格が認められます。何も理想の組合と云つて取立て、云ふ事は出来ませんが、組合員が、愛と誠意を以て出来る丈け奮闘して下さい。そして出来る丈け貯蓄し、出来る丈け利用し、之を善用善化して行つたならば、必ず理想に近い組合が出来るのであります。

煎じ詰めれば理想組合、理想組合員と云つても組合員の方々の頭の持ち様一つであります。

◎有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合經營誌

本組合ハ明治三十七年五月二十日群馬縣知事ノ認可ヲ受ケテ角田忠三郎外二十六名ニ依リ組織シ其區域ヲ吾妻郡岩島村大字三嶋村トシ有限責任殖産共同購買組合ト稱シ目的トシテハ農事及生計ニ必要ナル物品ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコトヲ主眼トシ専ラ肥料米鹽ノ購買ニ努メタリ、出資一口ノ金額ハ五圓ニシテ明治三十七年度末組合員三十一人出資百十一口ナリ

明治四十年五月五日臨時總會ニ於テ區域ヲ岩島村一圓ニ擴張ノ決議ヲナシ同年六月二十六日認可セラレタルニ依リ實施セリ

明治四十三年十一月三日臨時總會ニ於テ定款ヲ變更シ生産販賣ヲ兼營スルコト、シ名稱ヲ有限責任岩嶋購買販賣生産組合ト改稱シ出資一口ヲ金六圓ト改メ其ノ必要ニ伴フ諸事項ヲ改正スル事ヲ決議シ明治四十四年一月十三日定款變更認可アリ茲ニ本組合名稱ノ改正ト共ニ販賣生産ノ事業ニ着手スルノ機運ヲ産ムニ至リ本組合が大麻販賣ニ指ヲ染ムルコトトナリタルナリ

明治四十四年大麻ノ販賣事業ヲ開始セリ
明治四十五年一月販賣事業規定ヲ制定シ大麻ノ品等呼號ヲ

定メ最優等ヲ吾妻錦、優等ヲ黃金、一等ヲ満月、二等ヲ山吹、三等ヲ黃鳥、四等ヲ紅葉ト稍スルコト、シ之ガ査定方法ハ検査人三名以上理事ト共ニ立會ノ上標準麻ヲ作り之ニ比較シテ検査人二名以上ノ検査ヲ以テ委託麻ニ呼號ヲ附スルコト、組合員ハ自己ノ製品ヲ純選シ品等ノ異ナルモノヲ混同セザルコト及製品ノ乾燥ヲ十分ニスルコト管理方法ヲ誤ラズンテ日光乾燥及貯藏水浸ニ注意スルコト製麻ハ三貫五百目ヲ一連トシテ出品委託スルコト等ヲ定メ獎勵方法トシテハ最優等品一連ニ付茶碗一個ヲ賞與シ専ラ從來ノ弊習ヲ改善スルノ方法ヲ建テタリ

同年十月需用地視察トシテ組合長丸橋春倭、理事小林初太郎ト共ニ山陰山陽東海道沿岸ノ大麻使用狀況ヲ調査シ大ニ得ル所アリタリ

大正二年度ヨリ年度ヲ四月一日ニ始メ三月三十一日ニ終ルコト、ナリタリ

大正四年四月二十九日定款中變更シ出資金一口ノ金額ヲ金拾圓ト變更決議ヲナシ五月十九日認可アリタリ

大正五年八月十七日定款變更ヲナシ信用事業兼營ヲナシ且ツ倉庫ヲ備ヘ之ヲ組合員ニ使用セシムルコト名稱ヲ有限責

任岩島麻信用販賣購買生産組合トスルコト等及之ニ伴フ改正ヲ決議シ大正五年九月十一日認可ヲ受ケテ茲ニ信用事業ヲ兼營スルノ機運ヲ迎ヘタリ

大正六年四月二十八日總會ニ於テ定款ヲ變更シテ大麻委託販賣ノ外買収販賣ヲナスコトヲ決議シ同年五月七日其認可アリタリ

大正七年三月十二日ヨリ十五日間本組合主催ヲ以テ大麻紮績製造講習會ヲ開キ修了者五十名ニ修業證書ヲ交附セリ

大正七年四月二十七日總會ニ於テ定款ヲ變更シ農業倉庫業法ニ依リ農業倉庫業ヲ營ムコト名稱ヲ有限責任岩嶋麻信用販賣購買組合トスルコト區域ヲ吾妻郡一圓トスルコト之ニ伴フ定款ノ改正等ヲ決議シ大正七年七月二十三日認可ヲ受ケ茲ニ吾妻郡全都ニ涉リ活躍スルノ自由ヲ得ルニ至レリ

大正八年十一月二十日總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ名稱ヲ有限責任吾妻麻信用販賣購買組合ト改メ總會ニ代フルニ總會ヲ以テスルコト並ニ之ニ附隨シタル事項ノ改正ヲナシ大正八年十二月八日認可ヲ受ケ同十二月二十日第一次總代ノ選舉ヲ行ヒタリ

大正十一年八月十六日臨時總代會ノ決議ニ依リ定款ノ變更シ有限責任吾妻麻信用販賣購買利用組合ト改稱シ九月十一日縣知事ノ認可ヲ得タリ

大正十二年十一月十日臨時總代會ノ決議ニ依リ定款變更名

草津温泉の合流したる下流に在りては酸味烈しく魚類は棲息せず、僅に其の合流點の上流又は吾妻川支流たる澁川名久田川、山田川等に魚類の棲息を見るのみなり

土地は平坦部少く山岳各所に隆起せるを以て林産物としては杉松樺落葉松柏等の用材及薪炭の産出を見、本郡産業の一半を占むるの状況なり、而して各山岳の間に散在する平坦部分は概して畑地にして田地は比較的少し、就中麻生産の中心地と目せらるゝ岩島村の如きは其大部分畑地にして田地は極めて稀なり、地質は黒色砂質粘土にして肥沃なり、坂上村、長野原町、原町等は岩島村に比し土質不平均にして肥沃ならざる所も少からず故に岩島村に於ける品質の大麻と比較して品位の劣れるも亦土質及地勢の關係に原因する所あるに非ざるか

本組合所在地の交通は鐵道便によれば澁川停車場へ七里を距るの地點にして、澁川よりは日蔭縣道と日向縣道との二つに別れ、原町にて合し草津街道を二里西に往く所、大字矢倉に下車すれば茲に麻組合従たる事務所あり、之より川を涉りて西南八町本組合事務所へ到る

澁川より日向道を往けば中之條迄電車あり、自動車は四萬温泉迄毎日數回を往復せり、中之條より原町迄は約三十町にて自動車の便あり

原町より川中行の自動車日に數回往復す、川中より川原湯

稱ヲ有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合トシ出資一口ノ金額ヲ金二十圓トナシ之ニ附隨シタル事項ノ改正ニ對シ同年十二月四日縣知事ノ認可アリタリ

大正十四年二月十五日臨時總代會ノ決議ニ依リ従タル事務所ヲ吾妻郡岩嶋村大字矢倉甲六百四番地ニ置クコトニ定款變更シ同年三月三日縣知事ノ認可アリタリ

有限責任吾妻麻信用販賣購買利用組合事務所所在地の位置、交通、並に地勢風土の概要

置、交通、並に地勢風土の概要

本組合の事務所は左の二箇所に設置せり

主たる事務所

群馬縣吾妻郡岩島村大字三島三千五百六十五ノ一番地

従たる事務所

群馬縣吾妻郡岩島村大字矢倉甲六百四番地

農業倉庫は主たる事務所所在地に在り瓦葺二階建々坪三十坪一棟及瓦葺二階建七坪一棟

吾妻郡は群馬縣の北部に位し東に利根郡群馬郡南に碓氷郡西に長野縣北に新潟縣と隣接し高山及深谷多く本郡を西より東に貫通する河川を吾妻川とす、此河川は水路峽谷を走れるを以て灌漑の用に供せらるゝこと極めて少く加ふるに

草津等へ自動車の便あり

又信越線輕井澤驛より草津電車あり草津より中之條又は澁川行にて自動車に搭じ矢倉下車すれば麻組合に到着に便なり

荷物の運搬は澁川驛迄貨物自動車の便あり、澁川より鐵道便となる

金融機關は中之條町に株式會社中之條銀行あり、上毛銀行は澁川町に本店を置き、原町に其の支店を設け専ら金融の便を計りつゝあり

本郡に於ける重なる市街は、中之條町、原町、長野原町、草津町にして中之條町に區裁判所、縣立農業學校、稅務署、營林署あり、原町に警察署、縣立高等女學校、あり、長野原町に警察署、區裁判所出張所あり、草津町に有名なる草津温泉あり、暑中來浴者多し、四萬温泉、澤渡温泉、川原湯温泉、萬座温泉、鳩の湯温泉、川中温泉、鹿澤温泉、花敷温泉、湯ノ平温泉、松ノ湯温泉等皆本郡に存在し常に浴客を送迎しつゝあり

本郡に於ける氣候は嚴寒酷暑の感劇しく盛夏は蒸熱の日多く、華氏九十度乃至百度に達する事決して珍らしからず、冬期は西北風強く二十度以下に降る事少からず

唯盛夏大麻栽培季節は暴風雨の突發せざる限りは概ね風少きを以て大麻の栽培に適當なり、之れ四圍の連山の爲に恰

も摺鉢の中にあるが如き状態なるを以て強風を避るに便なるに依るならん

次に本郡の交通は汽車便としては、信越線又は兩毛線により上越線に合し、澁川停車場より電車又は自動車により中之條町、又は原町に至り夫より草津へ交通の自動車あり中之條よりは、四萬温泉、澤渡湯泉への自動車あり、又信越線輕井澤驛に下車すれば之より草津電鐵にて草津温泉へ直通す

草津よりは、萬座、花敷、應徳、湯の平の温泉へ通するの道あり、川中松の湯、川原湯は原町より草津迄の通路の中間にありて自動車の便あり、一日數回の定期運輸にして旅客の便利を計りつゝあり。文明の餘澤は年一年と進みて、吾妻の地も今や帝都に接近しつゝあるの感あり

◎販賣事業の経過

◇大麻従來の販賣方法並に吾妻麻組合の執りたる販賣方法の改革

吾妻郡に於ける大麻の生産は最近のものに非ずして二三年前以前より既に栽培をなしたるものゝ如し然れども其の産額の少きと交通の不便なるに因り其の需用地との密接なる關係を生ずるを得ず僅に栃木縣の麻商人に依りて他府縣に移出せられ栃木麻と見做されて使用せられたるやの形跡

り、而して其の結果は組合員が品質本位となり需用地に於ては本組合の呼號を信頼して、現品を見ずして其の呼號を以て取引を行ふに至れり

又販路の擴張をなして生産品の停滞せざることに重きを置き各需用地へ生産状況を報知し親密なる關係を結ぶ事に苦心し今や吾妻麻の特質は漸次各地に知られ、需用先は組合活動前の數倍に擴大せられ組合員は云ふ迄もなく組合員外と雖も間接に組合の効果に浴するに至り、大麻生産者の享くる利益は多大なるものあり

而して従來の取引に當りには不同品の混入、不向品の混合等にて需用先の不便少からざりしも吾妻麻組合の改革方法に依り品質の不同又は不向品の混入をなすもの少く需用地に於ても信頼を厚くするに至れり、又品質本位に依り優良品獎勵をなしたる結果組合の技術向上して優良麻の生産額は著しく増加するの状勢なり

吾妻麻組合は肥料の共同購買をなし適當なる配合肥料を使用せしめたる結果品位の良好なるものを産出する生産者亦著しく増加せり、従來金融のために低價に取引を餘儀なくしたる大麻生産者は本組合に於て金融をなし農業倉庫に於て寄託を受ける爲に甚しき不平等なる價格を以て無謀の取引をする事なきに至れり

將來の計劃としては、大麻の栽培、刈取、浸湯、乾燥、管

あり又、品位混交して一定のものを使用するに不便なる弊害ありて爲に價格の向上を阻害されたる事も少からず

新潟縣、富山縣、石川縣等の麻商人は年々原産地たる本郡へ來り數十日間を本郡の麻商人、麻問屋等に止宿し製造人の各戸に就き買出につとめたり故に製品滞積したる場合には、頗る低廉なる價額を以て賣却する者少からず、又商人多數の場合には豫想外の高値取引を來す場合もあり、生産者は其製品を販賣するに當りては投機取引の感を抱くに至り不安定の念に驅らるゝに至れり、之れが爲に或者は品質良好なるにも拘らず、金融上の都合に依りて非常なる低價に賣却し、或者は品質粗悪なるも販賣時期の好き爲に却つて高價に販賣すると云ふ有様にて、不平等の取引は決して珍らしからぬ現象であつた、之れが爲に各生産者の意志は製品の上に重きを置かずして、販賣の巧拙に腐心するが如き投機心を起すに至り、之を此儘に放任すれば本郡特産としての大麻は遂に品質を粗暴に失せしめ、需用者の減退すべきは明かにして、本邦産業上に及ぼす損失又少なからざるものあり

茲に於て吾妻麻組合は、明治四十四年大麻販賣の事業に着手し弊害の改善をなすべき第一歩として品質の統一を計り其用途の如何を調査して生産麻を査定し之に等級を設けて呼號を付し、生産者の覺醒と需用者の安心とを求めんとせり

理、加工、等に一層の研究を重ね、極力其の品質向上に努めんとす

又大麻を原料として之に加工し織物又は網糸となし直ちに使用せしめ得らるゝ程度のものを作り之を需用先へ販賣するの豫定にして、本計劃は實に製麻業の發展策としてのみに非ずして之が實現の曉には本郡の工業として經濟上に及ぼす影響頗る多大なるものあるを豫測するに難からざるなり

大正十年七月三十日吾妻麻組合臨時總會に於て販賣規定を定め現行方法に改訂せるものを記して參考に供せんとす

◎有限責任吾妻麻信用購買販賣利用

組合販賣事業規定

第一章 豫備調査

- 第一條 本組合ハ毎年八月十日迄ニ組合員各自ノ大麻作付反別、被害ノ有無、收買豫定ヲ報告セシメ其ノ産額ヲ豫メ調査スルモノトス
- 副産物並ニ加工品ニ付テハ組合長必用ニ應ジ組ニ委託シテ之ガ調査ヲナスモノトス
- 第二條 本組合ハ毎年八月二十日迄ニ大麻生産地ノ狀況、大麻需用地ノ狀況、需用先ノ増減等ヲ調査シテ之ガ其年

度ニ於ケル販賣ニ對スル策ヲ講ズルモノトス

第二章 品位査定

第三條 本組合ニ検査人五名ヲ置キ標準麻ヲ作ル品位査定ハ三名以上ノ立會ヲ以テ決ス

賣品ノ査定ハ二名以上ノ検査ヲ以テシ検査ヲ遂ゲタルモノニハ必査定票ヲ附スベシ査定票ニハ検査人ノ認印ヲ押捺スベシ

第四條 本組合ニ於テ販賣スル物品ニハ検査人二名以上ノ捺印及左記品等呼號ヲ表示シタル査定票アルニ非ザレバ賣ニ任ゼザルモノトス

一、吾妻錦特等

二、吾妻錦

三、黄金上

四、黄金

五、満月

六、山吹

七、黄鳥

八、紅葉

九、等外

第五條 検査人ハ本組合ノ囑托ニ依リ就任シ組合員中ヨリ之ヲ選任スルモノトス

検査人ハ本組合長ノ證明書ヲ携帶スルモノトス

第三章 委託

第六條 組合員ハ其生産シタル大麻ニ付理事ノ決定シタル最低數量及最高數量ノ範圍ニ於テ組合員義務委託トシテ指定ノ期間内ニ出麻スルモノトス但シ被害其他特別ノ事

各戸ニ付本組合長ノ囑托シタル買収員ヲ派出シテ買収スルコト但買収員ハ検査人中ヨリ選任ス

第五章 販賣

第十三條 組合ハ需用者ノ要求セル品位ノモノカ委託品中ニ存在セル場合ハ其過半數ハ委託品中ヨリ其他ハ買収ヲ以テ充ツルモノトス

第十四條 市價ガ本組合秘定價格ト著シキ相違アル場合ニ限り前條ノ按配ニ依ラザルコトヲ得

但シ何レノ場合ト雖モ委託品中ニ適品存在セルトキハ其需用ノ三割以上七割以下ノ範圍ニ於テ之ヲ販賣品ニ加フベキモノトス

第十五條 販賣品ハ検査員ノ査定票ヲ附シ査定番號ヲ附シ査定票帳ニ記載シテ之ヲ販賣ス

第十六條 販賣品ノ代金ハ現金取引トス但シ組合長ノ認メタル保證人アルトキハ二十日以内ニ限り利息ヲ徴シテ代金ノ仕拂ヲ延期スルコトヲ得

第十七條 代金ノ二割以上ヲ送金シタルモノニ限り荷爲替付ニテ送品スルコトヲ得、但シ該品ヲ引取ラザルトキハ相當損害辨償スベキ旨豫メ注文書ヲ徴スルコト

第十八條 販賣ハ居拂トシ荷造費及運賃ハ買主ノ負擔トス
第十九條 委託品ハ需用主ノ希望ニヨリテ之ヲ入札販賣トナスコトヲ得但其方法ハ組合長之ヲ定ム

由ニ依リ著シク製品ニ故障アリタルトキハ此限りニ非ラス

第七條 組合ハ販路ノ狀況ニ依リ組合員委託麻ノ受付ヲ制限シ前條ノ範圍外ニ渉ル委託ハ之ヲ別扱トスルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於ケル精算方法ハ義務委託ヲ先ニシ別扱ヲ後ニス

第八條 委託シタル大麻ハ査定シタル等級ニ從ヒ内渡金ノ額ヲ定メ組合ニ揭示ス

第九條 委託シタル大麻ハ每五、十、ノ日ニ之ヲ検査シ等級及數量ヲ査定シ委託者ニ告知ス

第十條 委託麻ハ凡テ當組合倉庫へ集メ其ノ間ノ經費ハ委託者ノ負擔トス

第四章 買収

第十一條 組合ハ販路需用者ノ要求アル場合ノ外ハ買収ヲ行ハザルコト

第十二條 買収ハ左ノ方法ノ内組合長ニ於テ時々之ヲ定メテ實行ス

一、入札、豫メ買収數量及品位ヲ指定シテ組合員ニ期日ヲ定メテ入札セシメ落札者ニハ期間内ニ現物ヲ搬入セシメ検査ノ上之ヲ引取り同時ニ代金ノ仕拂ヲナスコト

二、買収員派出、所要ノ品位及數量價額ヲ示シテ組合員

第二十條 組合ハ販賣品ニ付常ニ秘定價格ヲ決定シ之ヲ標準トシテ組合長ノ決裁ヲ以テ販賣ス

第二十一條 秘定價格ハ組合長ト秘定委員ノ合議ヲ以テ隨時之ヲ定メ其年度内ハ公表セザルモノトス

第二十二條 秘定委員ハ二名トシ理事監事中ヨリ一名、總代中ヨリ一名、總代會ニ於テ投票ヲ以テ選舉シ其ノ任期ヲ一ケ年トス

第六章 附則

第二十三條 大麻又ハ其副産物ノ賣買營業ヲナスモノハ検査人、買収員、秘定委員トナルコトヲ得ズ

第二十四條 大麻ノ副産物並ニ加工品ニ付テハ凡テ本規定ヲ適用ス、但適用スル能ハザル事情アルトキハ組合長之ヲ決定ス

此の規定は數次の改訂を加へて、現に行ひつゝある方法なるか、豫備調査は現に實行し、義務委託は年に依りて行ひつゝあり、買収の方法は近時はあまり行はず、秘定價格は現に専任理事、組合長の任意定むる所に於て時々市價に順應して之を定むるを便なりとし、之を一任して實行しつゝあり組合は品質改善の必要を痛切に認めたるを以て毎年初期の大麻製造期に組合員を一巡して其の製造上の注意をなし、一面其の年の豊凶良否を鑑別して豫定計劃を立つるの資料となしつゝあり、又加工競技會、製品々評會を開きて

其の製品向上を誘導するに努むるものなり

◎吾妻麻の需用状況と其の製産地の概要

本組合の大麻需用地は、北海道、東海道、畿内、山陰道等を主とし其の他各地に涉りて多少の取引を行ひつゝあり本組合は組合員の製麻につき其の格付をなすに當り最も必要なる條件は生産者の技術に依る優劣と管理の良否によりて製品に及ぼす用途の適不適を考查し検査人に於て品等呼號を附す

今左に其の格付に依る品等呼號及び其の用途並に需用地及び生産地方の概要を記して参考に資せんとす

第一 (呼號) 吾妻錦

本組合製麻格付に於ける最優等品にして其の用途は上等の漁網糸、鯉、鯛、鯖等の釣糸、麻織物用原料上等紮績帳綴糸、弓弦、挿鳥用霞網糸夏洋服地原料、祝賀贈答品、高等裝飾用、等にして之が需用地は、織物原料用として富山縣、石川縣、奈良縣等に販路を有し、漁業用としては、三重縣、千葉縣、静岡縣、宮城縣、愛媛縣、富山縣等へ販賣し、弓弦用としては縣内、埼玉縣、東京府等へ販賣せり賣他少量づゝは各府縣へ販賣す而して吾妻錦は、之を特等

第三 (呼號) 満月

本組合製麻格付に於て一等品なり、其の用途は中等紮績、漁網用糸、蚊帳原料用糸、疊縁原料糸、家庭日用品、等にて之が需用先は愛知縣、富山縣、奈良縣、島根縣、新潟縣、三重縣、山口縣、静岡縣、愛媛縣、宮城縣、青森縣、等へ販賣せり満月階級の麻は年産額四千貫内外にして、岩島村原町、坂上村の三ヶ町村より製出せらる

第四 (呼號) 山吹

本組合製麻格付に於て二等品の麻なり、其の用途は漁網用糸、蚊帳原料糸、暖簾繩、莖縦糸、馬具疊縁原料糸、家庭用等にして之が需用地は新潟縣、三重縣、愛知縣、千葉縣、静岡縣、東京府、神奈川縣等へ販賣せり

山吹階級の麻は年産額三千貫内外にして、岩島村原町坂上村の三ヶ町村より製出す

第五 (呼號) 黄鳥

本組合製麻格付に於ける三等品にして、其の用途は漁網用糸、蚊帳原料糸、蠶網原料糸、細繩、馬具、眞繩、家庭用等なり、需用地の重なるものは縣内、及愛知縣、新潟縣、千葉縣、鳥取縣、富山縣等なり

黄鳥階級の麻は年産額二千貫内外にして岩島村、坂上村、原町の三ヶ町村より製出す

第六 (呼號) 紅葉

及並等に區別し、特等は引力、色澤、纖維に獨特の優美強靱なるものを選び、他に類似なきものにして其産額極めて少く一ヶ年間に百貫以内の産出に止まるものなり、之れが産地は、本郡岩島村大字三島の一部落に限れり、並等のものは其産額五百貫内外にして、岩島村大字三島、大字厚田の二大字より生産し、他の大字より産出する量は極めて少し、又従來の經驗に徴するに右二大字以外より産出したるものは、製麻の當時は色澤品位に於て大差なきが如きも、翌春に至り梅雨の期節を経れば色澤を失ひ、引力減退し品質惡變するの虞れあり、故に本組合は最優等品の査定に當りては、管理、加工、生産地等を調査し、需用先に於て欠點を來さざらんことに注意し、以て本組合員製麻の眞價を墜さざらんことに腐心するのである

第二 (呼號) 黄金

本組合製麻格付に於ける優等品にして其の用途は上等の麻布用紮績、漁網用糸、夏洋服地原料、祝賀贈答品、弓弦、魚釣糸等に用ひらるゝものにして之が需用地としては、富山縣、奈良縣、石川縣、島根縣、三重縣、新潟縣、千葉縣、山口縣、静岡縣、愛媛縣、宮城縣、東京府、縣内等へ販賣す、黄金階級の麻は其の産額三千貫内外にして、岩島村に於ては各大字より製出を見るも、他の町村に在りては原町の一部より僅少の産出あるの外其の製出を見ざるなり

本組合製麻格付に於ける四等品にして其の用途は繩用、網用、眞繩用、馬具、家庭用等にて需用先は縣内及東京府、愛知縣、新潟縣、千葉縣、鳥取縣等へ販賣せり

紅葉階級の麻は年産額千貫内外にして岩島村、原町、坂上村の三ヶ町村より製出す

第七 (呼號) 長野原(三原麻とも云ふ)

本組合製麻格付に於ける等外品にして其の用途は良きものにおいて眞繩となるも、大部分は網用なり、又馬具用として用ひらる、需用先は、縣内及愛知、三重、東京等の各府縣なり

等外階級の麻は年産額二千貫内外にして長野原町坂上村、六合村等より製出す、而して此の麻は管理加工の方法粗放にして到底岩島村産出のものと比較する能はず、本組合は近き將來に於て根本的改善の方法を以て優良なる製麻を産出すべく漸次之れが改良方法の講究を怠らざるなり

次に生産額及用途等に就ては、概要なる數字及記載にて必しも正確なりと言ふ能はざるも、當事者の見込より推定して之を記したるものなれば、其道に忠實なる各位は研究調査の結果正鵠なる材料を持たるゝ方は、本組合に通告して其の正しきに近き記事又は數量を示されん事を懇願してやまず

茲に附記して大方の御指導に俟つものなり

◎吾妻麻取扱の間屋及仲買人の指名

住所

○問屋

吾妻郡岩島村大字三島 小池 爲重郎
 同郡 同村大字岩下 西山 佛輔
 同郡 同村大字三島 湯浅 富太郎
 同郡 同村大字岩下 西山 三治郎
 同郡 同村大字三島 湯浅 安太郎
 同郡 同村同大字 丸橋 丑太郎

○仲買

吾妻郡岩島村大字岩下 富澤 與平
 同郡 同村大字矢倉 齋藤 謙平
 同郡 同村大字三島 小池 傳十郎
 同郡 同村大字郷原 松井 嘉善
 同郡 同村大字岩下 中島 豊治郎
 同郡 同村大字三島 松井 兵策
 同郡 同村大字三島 丸橋 仁作
 同郡 同村大字矢倉 渡重 太郎

◎吾妻麻栽培者の氏名住所(組合員)

◎岩島村

○大字郷原

○大字矢倉

堀込 壽作 根津 浦芳
 關野 德十郎 中島 治平
 山崎 榮太郎 木暮 寅一郎
 山崎 安彌 松井 庄藏
 小池 藤治 山崎 安彌
 上原 助太郎 中村 秀吉
 關原 孫太郎 宮崎 源三郎
 湯本 多四郎 湯本 多四郎
 加藤 孫三郎 上原 清四郎
 小池 嘉三郎 湯本 治之吉
 渡本 治之吉 片貝 龍太郎
 片貝 五三郎 片貝 七三郎

○大字岩下

○大字松谷

春原 織平 竹内 亮作
 小淵 米十郎 西山 松八
 富澤 祐次郎 野口 高次郎
 富澤 勘四郎 山本 金次郎
 富澤 甲子郎 富澤 實十郎
 富澤 要作 片貝 磯吉
 片貝 清作 片貝 巳之作
 片貝 宇之八 日野 國太郎
 町田 新重 山野 丑藏
 町田 甚作 日野 森太郎
 日野 浦吉 山野 丑五郎
 山野 芳松 山野 延藏
 片貝 今朝次郎 片貝 英一
 富澤 清雄 小林 清司
 水出 喜市 水出 治作
 水出 重次郎 小池 慶治郎
 水出 伊太郎 小池 喜作
 田村 鐵五郎 野口 浦十
 小林 滋次 田村 民吾

○大字三島兩部

松井 兵策 丸橋 祐一
 田中 長次郎 小林 康太郎
 篠原 喜藏 篠原 三壽造
 篠原 一治 篠原 榮次郎
 篠原 德重 小池 富次郎
 小林 載次郎 小池 富次郎
 小林 金三 小池 富次郎
 小林 雄三郎 小池 富次郎
 小林 佐平 高橋 榮作
 田中 善治 田中 千代治
 小田 幸藏 西山 里治
 豐田 孫平 西山 嘉三郎
 豐田 廣三郎 西山 嘉三郎
 田中 類吉 小西 國松
 小淵 茂平 小西 和重郎
 小林 衆八 小西 牛五郎
 小池 福太郎 西山 利作
 橋爪 房吉 水出 辨治郎
 水出 金作 丸橋 彌吉

○大字厚田

浦野 政四郎
石村 仲次郎
石村 功平
高橋 泰十郎
高橋 嘉喜太
高橋 茂理
高橋 幸作
高橋 安壽
高橋 嘉九治
高橋 彦治郎
高橋 仙市郎
武井 利馬造
高橋 仙三郎
高橋 英太郎
高橋 友吉
高橋 傳三郎
上原 清十郎
上原 角治郎
上原 此八
石村 市作
上原 與五郎

石村 榎太郎
石村 善作
高橋 八上吉
高橋 清太
高橋 半三郎
高橋 照三郎
高橋 公治
高橋 傳作
高橋 儀作
高橋 勝太郎
武井 源重郎
高橋 祥壽
高橋 茅三
高橋 福次郎
高橋 安衛
石村 重平
上原 淺五郎
石村 理喜三
上原 熊五郎
上原 佐藏
石村 泰三郎

○大字原町

小泉 喜一
小泉 延治郎
中澤 平吉
小泉 久作

○大字川戸

上原 瀧治郎
大前 茂助
山口 元平

赤澤 荒太郎
本多 喜一郎
本多 文十郎
本多 安三郎
宮崎 丑十郎
宮崎 九藏
上田 周吉
關口 勝藏
茂木 實次郎
茂木 定吉
綿貫 建司
綿貫 覺治

小泉 甚作
一場 啓四郎
一場 謹吾
山田 龍太郎
前田 淺治郎
關口 嘉十郎
關口 市三郎
朝比奈 春藏
太田 萬作
宮崎 秀雄
關口 熊太郎
角田 末吉
兒玉 寅吉
茂木 金四郎
小林 秀吉
茂木 筆作

○大字三島東部

田中 宇吉
丸橋 啓治郎
水出 與平治
田中 林八郎
橋爪 藤吉

田中 松太郎
橋爪 歌治郎
丸橋 孫十郎
丸橋 重八
丸橋 仁作
篠原 樂次郎
小池 菊十郎
小池 良吉
小林 泰助
丸橋 嘉吉
丸橋 直八
小池 丈十郎
小池 春次郎
角田 源治郎
角田 喜市
前田 滿五郎
小池 森吉
高橋 晋八
丸橋 富五郎
丸橋 政次郎
丸橋 和吉

丸橋 政重郎
小池 茂平
丸橋 丑太郎
高橋 友十郎
浦野 郡次
小林 儀八
小林 寅吉
小會根 玉三郎
高橋 松信
湯淺 忠三郎
湯淺 安治郎
湯淺 太平
高橋 賢治
高橋 周八
高橋 鎌三郎
高橋 豐平
高橋 祥十郎
高橋 慶治郎
角田 伊三郎
小池 和市
湯淺 富太郎
高橋 午次郎

小池 和一
丸橋 寅作
小池 作太郎
小池 角三郎
浦野 榮八
高橋 梅太郎
中會根 儀三郎
高橋 治作
高橋 重次郎
片貝 丑之助
片貝 市五郎
高橋 力松
高橋 啓作
小林 庄吉
山口 玉八
高橋 茂八
篠原 稔
加邊 伊太郎
小池 佐傳次
湯淺 春吉
湯淺 安太郎
浦野 富十郎

◎長野原町

宇林 町田源十郎
篠原平次郎
篠原熊一
小林新太郎
篠原折平

篠原鍋吉
篠原清次郎
市村壽萬吉
市村長七
篠原源次郎

◎大字大戸

湯淺 衆三郎
田中利三郎
田村德重
湯淺豐文
小原源一郎
上原太十郎

湯淺朝治郎
新井乙松
湯淺儀平
上原周太郎
綿貫襲作
上原明七

◎大字大柏木

高橋 甚三郎
加部利三郎
山田周六
加部國三郎
霞彌源
蜂須賀七重

佐藤茂作
山田岸雄
加邊新十郎
加部泰五郎
蜂須賀滿義
蜂須賀巳之作

◎販路取引先麻取扱者（麻組合取引関係）

蜂須賀 升吉
蜂須賀 新一郎
加邊 保十郎
加邊 鍋市
加邊 友安
蜂須賀 久保松
蜂須賀 紋三郎
蜂須賀 茂三郎
加邊 わか

◎福井縣

今立郡栗田部村二九號二八
栗田部町

◎奈良縣

奈良市元林院町
山邊郡波多野村菅生

◎三重縣

志摩郡波切村
宇治山田市河崎町五一三
志摩郡安乘村
度會郡神社町
桑名南魚町

◎石川縣

宇野 重右衛門
橋本 商店

中川 政七
井上 才光

濱口 理一
竹村 勘太郎
鈴木 源松
西村 房吉
櫻井 貞一郎

羽咋郡加茂村

七尾町作事町通

羽咋郡西海村

七尾町字塗師町三四

羽咋郡西海村

◎新潟縣

佐渡郡羽茂村

佐渡郡羽茂村

刈羽郡田尻村字安田

三條一ノ町

長岡市表一町目角

柏崎町本町三丁目

佐渡郡夷町

柏崎町

刈羽郡安田驛前

◎静岡縣

沼津市仲町

沼津市本町字魚町二二六

榛原郡御前崎村

◎栃木縣

栃木町

◎群馬縣

羽茂村信用購買販賣組合

海老名 忠三郎

本間 梅吉

田中 平吉

岩崎 善太郎

瀧澤屋 商店

本間 ヲツ

卷淵 傳助

相澤 榮太郎

池與 商店

中山 清作

狹間 寅吉

大貫 定衛

多野郡萬場町大字萬場

勢多郡北橋村大字八崎

◎神奈川縣

藤澤町

足柄下郡前羽村前川三三六

◎宮城縣

仙臺市新河原町一二

◎埼玉縣

本庄町

◎鹿児島縣

大島郡天城村平土野

◎長崎縣

壹岐郡箱崎村大字瀬戸浦字惠美須

◎富山縣

氷見郡氷見町

◎千葉縣

安房郡船形町

同郡館山町沼一〇三六

君津郡竹岡村

夷隅郡大原町小濱

◎富山縣

福光町

黑澤 龜治

越後屋 巳之吉

梶莊 商店

大會根 糺三郎

菅野 喜太郎

武正 千代治

山崎 久

馬渡 龜太郎

中尾 新右衛門

鈴木 勝太郎

吉田 千之助

石崎 淺吉

山口 若松

船岡 嘉市

同 片村 嘉一
 同 瀨能 源四郎
 小杉町 老田 勝之助
 西礪波都石動福町 山本 茂之
 高岡市中島町五九七 伊勢清 商店
 (外略之)

吾妻麻の名譽を發揚する爲に調査したるもの

一、明治十四年開催の第二回内國勸業博覽會へ出品し入賞したるもの左の如し

大麻 (銅牌) 丸橋 忠七
 同 (同) 丸橋 勝太郎

一、明治二十六年宇都宮市に開催の共進會へ出品して入賞したるもの左の如し

大麻 二等 石村 横太郎
 同 三等 丸橋 藤五郎
 同 四等 石村 三治郎
 同 六等 石村 源十郎

一、第三回内國勸業博覽會へ出品し入賞したるもの左の如し

大麻 三等(銅牌) 小池 甚三郎
 同 (同) 丸橋 忠七

一、第四回内國勸業博覽會へ出品し入賞したるもの左の如し

し 大麻 三等(銅牌) 丸橋 七藏

同 (同) 小池 初藏

一、第五回内國勸業博覽會入賞者左の如し

大麻 二等(銅牌) 石村 源五郎
 同 三等(銅牌) 丸橋 庄吉
 同 (同) 小池 忠三郎
 同 (同) 高橋 仙重郎
 同 褒狀 石村 横太郎
 同 同 石村 源十郎
 同 同 丸橋 和吉

一、山梨縣主催一府四縣聯合共進會へ出品し入賞したるもの左の如し

大麻 二等(銀牌) 小林 初太郎
 同 三等(銅牌) 小池 忠三郎
 同 四等 丸橋 富五郎

一、長野縣主催府縣聯合共進會へ出品して入賞したるもの左の如し

大麻 二等(銀牌) 高橋 嘉仙
 同 三等(銅牌) 石村 源十郎
 同 四等 石村 源五郎

一、群馬縣主催府縣聯合共進會に於て入賞したるもの左の如し

大麻 二等(銀牌) 小林 初太郎
 同 三等(銅牌) 一場 啓四郎
 同 (同) 高橋 嘉仙
 同 四等 水出 與平治

一、平和記念東京博覽會出品者の入賞左の如し

大麻 銀牌 高橋 福次郎
 同 銅牌 一場 啓四郎
 同 同 石村 駒太郎
 同 褒狀 高橋 茂理
 同 同 小池 茂平
 同 同 高橋 仙市郎
 同 同 丸橋 和吉

一、埼玉縣主催關東府縣聯合副業共進會へ出品し入賞したるもの左の如し

大麻 一等(金牌) 丸橋 春倭
 同 二等(銀牌) 角田 喜市
 同 (同) 丸橋 勝十郎
 同 三等(銅牌) 高橋 平十郎
 同 四等 丸橋 政次郎
 同 同 石村 駒太郎

◎麻織物機織技術の傳習

○麻織物を創始するに至りたる動機
 本組合が麻織物を創始するに至りたるは昭和二年五月十二日未曾有の大霜害に逢ひ、産業の維持開發に努め其の應急救済の策を立て、農村副業の振興を計るべく縣農務課副業主任技師中澤孝氏の斡旋努力に依り農林省の補助を受けて奈良縣へ實地傳習婦を派遣し、習得したる技術を郷里の村娘婦女に傳習して漸次其の普及に務めつゝあり、而して大正七年本組合主催大麻紮績講習會を開きて其技術を講習したるが今回の麻織物創始に當り非常に有効なる遠因となれる事を特記し其の紮績講習狀況を記して參考に供せん

○大麻紮績製法講習會開催に至りたる動機
 岩島村の産業は養蠶業を次での収入は大麻である其の大麻を更に加工して販出したならば其の工賃は岩島の收入となり婦女子が冬期間の副業として普及したならば岩島村の經濟上に産業上に多大な好結果を得られるではないかと、其の研究調査をする爲に視察を行ひ、其の成績有効と思つたなら更に講師を聘して講習をなし一般婦女子の技能を養成したらよろしくはないかと云ふ意味の下に村長小池甚一郎氏は丸橋組合長へ協議をかけられて其の結果各其の實地に視察をすべく理事小林初太郎組合長丸橋春倭の兩名は大正

七年二月十日より十九日迄十日間に涉りて富山縣、石川縣、京都市、大阪市、奈良縣等を巡り大麻の加工状態並に販路の状況、産業上の視察を遂げたり

○富山縣小杉町戸波町、高島與十郎氏方にて紮の實施視察をなす

室は窓より明りを取り老女、家婦之を副業とするなり

○かせの作り方繼ぎ合せは大差なし、車の巡り方は五遍づゝよりをかける事

○車輪巾二寸五分位、心十文字ニタ通り、裏の長さ三尺、立ち約一尺二寸、ツム約一寸のすぢかへ

○紮の長さ、丈け三尺八寸(一尺九寸のカセ棒ニテ一周)十三回を一巻とし、四巻を一讀とし、十讀を一撰とす

産地 小杉近傍三四里より紮を産し海岸よりは平横のツヅネを産す

原料 大麻百匁より二十紮を得るものを普通とす

副業 一戸にて一臺又は二臺の績車にて農閑の時を利用す

○石川縣廳を訪ひ麻に付て聞きたる要項次の如し石川縣の麻織物は、羽咋、高濱、志ヶ浦、安部太能登部より産す

産額は年三萬匁にて四十萬圓に達すと云ふ

販路は京都を主として大阪地方へ販出す

○石川縣物産陳列館を視察したり

能登土布 白緋 一反 金九圓二十錢

○紮績製造講習會の狀況

大正七年三月十二日より三月二十六日に至る十五日間岩島村役場を借受け大麻紮績講習會を開設した、出席者は七十七名、八日間以上の出席者には講習證書を授與した、講習證書を受けたるもの五十名で、原町三名、草津町一名も之に加はつた、講師は奈良縣添上郡東山村大字北野中辻コヨ中谷ナラの兩先生で何れも熱心に教授した

講習中參觀者多數で、他町村より長野原町助役、原町助役坂上村助役、中之條稅務署長、郡よりは郡長、青柳郡農會技手、縣よりは詫摩理事官、反町屬、加藤屬等の視察あり第一回開催としては非常の成功と云ふべし

○講習證書授與式

大正七年三月二十七日岩島村役場に於て講習生五十名に證書を授與す當日の式辭及答辭講習生の氏名左の如し

○式辭

歐洲戰亂起リテヨリ既ニ數年ヲ算シ今ヤ其ノ區域ハ擴大シ其ノ餘波ヲ蒙リタル吾帝國ノ將來ヲ望メハ實戰ヲ俟タスシテ經濟戰上ニ至大ノ變化ヲ齎シ吾農村維持ノ上ニ大打擊ヲ與フルナキカ之レ實ニ考慮スヘキノ秋ナリ

吾人素ヨリ淺學不才ニシテ之カ農村ノ將來ヲ知ルノ明ナシト雖ヲ年來ノ自信ヲ枉ケスシテ吾農村維持力ニ資スヘキノ

同 鑄綿 一反 金五圓三十錢

○奈良縣廳を訪ひ麻に付き聞きたる要項左の如し

紮尺 一千八百尺(一ガセ) 三匁ヨリ四匁

價十五錢ヨリ二十錢

一把大麻百三十五匁にて三十カセ乃至五十カセを得るものである

産額 是迄年額七千匹の麻布を産出したるも昨年(大正六年)より増額して九千匹乃至一萬四の産出を見るに至る價額二十四五萬圓、其の内手續の麻布十萬圓に達すると云ふ

原料 大麻を用ゆる事上州麻八十駄を使用すると云ふ、此原料代約二萬圓なり

麻布の産出地は全國中沖繩、富山、福井、新潟、奈良、石川の六縣なりと云ふ

以上は同縣廳で中臺技師の談なり

○視察員は歸村後其の調査の結果奈良縣の紮績製法を學ぶの得策なる事及大麻加工に依り原料に對する七倍の加工費を得るに至る事等を報告し本村に於て講習會を開催する事に決し小池村長の熱心な努力で本縣より奈良縣廳に依托して原産地より講師二名を招聘するを得たるは本事業の幸とする所である

途ヲ講セントシ茲ニ本村特産トシテ誇ルニ足ルヘキ大麻ノ研究ヲ怠ラサリシニ小池村長又大麻加工ノ農閑副業ニ適シ産業發展策ノ一トシテ之ヲ習得セシムルノ意アリ茲ニ於テ本村有力者ト謀リ本組合主催ノ下ニ大麻紮績講習會ノ開催ヲ見ルニ至レリ本講習ハ三月十二日以來三月二十六日ニ至ル十五日間ニシテ講師ハ遠ク奈良縣ヨリ聘シ講習生ハ會期中七十七名ヲ算シ岩島村原町草津町等ノ講習生ヲ得テ講師ノ熱誠ナル指導ト講習生ノ熱心ナル練習トハ相俟テ豫期以上ノ好成绩ニテ會期ヲ終リ本日ヲ以テ其ノ講習證書授與式並ニ講習會ノ閉會式ヲ舉行ス

幸ニ郡長閣下ヲ始メ來賓各位多數ノ臨席ヲ辱フシ主催者ノ光榮トスル所ナリ

茲ニ吾人ハ本講習カ産業ノ將來ニ貢獻スル所甚大ニシテ本郡副業發展上ニ新記録ヲ作ルノ導火線トセシムルニハ一ニ來賓有力家諸君ノ御援助ニ俟タサルヘカラサルヲ確信シ希クハ本講習ヲシテ有功ニ之ヲ完成セシムルノ機運ニ向ハンメンコトヲ誠心誠意懇願シテ以テ式辭トナス

大正七年三月二十七日

大麻紮績講習會主催者

岩島麻信用販賣講習生産組合

組合長

丸橋春倭

○答辭

大正七年三月十二日ヨリ開會セル第一回大麻納續講習會々期終リテ告ケテ本日之カ閉會並ニ講習證書ノ授與式ヲ舉ケラル郡長閣下並ニ來賓各位ノ臨場ヲ得タルハ講習生一同誠ニ光榮トスル所ナリ會期中講師ノ熱誠ナル指導ニ依リ習得セル技術ヲ練習シ益々技能ノ發達ヲ期シ來賓各位ノ御後援ニ背カサランコトヲ謹テ答フ

大正七年三月二十七日

講習生總代

小池 とう

○講習證書は左の様式にて講習生に授與した

講習證書

吾妻郡 何町村

氏 名

右者有限責任岩島麻信用販賣講習生産組合開催ノ第一回大麻納續講習會ニ於テ大麻納續製法ノ講習セシコトヲ同組合長ノ薦告ニ依リ之ヲ證ス

奈良縣添上郡東山村

講師

中辻 コヨ

同

講師

中谷 ナラ

大正七年三月二十七日

吾妻郡長正七位

藤崎 正義

○講習生の氏名

- 大字三島 丸橋 きち (慶應三年生)
- 同 田中 もり (元治元年生)
- 同 水出 ひろ (明治八年生)
- 同 高橋 こう (明治二十七年生)
- 同 上原 さと (明治三十三年生)
- 同 中島 しめ (明治三十三年生)
- 同 一場 まつ (明治三十七年生)
- 大字厚田 野口 いそ (文久元年生)
- 大字岩下 宮崎 よつ (明治三十三年生)
- 大字矢倉 丸橋 きた (明治三十一年生)
- 大字三島 小池 とつ (明治三十一年生)
- 同 角田 せき (明治三十二年生)
- 同 角田 たつ (明治三十年生)
- 原町川戸 立川 たつ (明治二十九年生)
- 原町 小林 かね (明治二十九年生)
- 大字三島 角田 みね (明治二十九年生)
- 同 角田 やま (明治三十年生)
- 同 小林 たま (明治二十九年生)
- 同 眞田 ちかの (明治三十一年生)
- 大字厚田 片山 とよ (明治三十六年生)
- 大字三島 上原 たま (明治三十年生)
- 大字岩下 町田 せん (明治三十年生)
- 同 山野 ふで (明治三十一年生)

- 大字郷原 關 ちよ (明治三十七年生)
- 大字三島 石村 ぬい (明治三十五年生)
- 大字岩下 山野 とく (明治三十一年生)
- 同 山野 なを (明治二十六年生)
- 同 富澤 いま (明治二十八年生)
- 同 浦野 むら (明治六年生)
- 同 富澤 イマ (明治三十二年生)
- 大字郷原 關 つる (明治三十七年生)
- 大字矢倉 小池 リヤウ (明治三十二年生)
- 大字三島 石村 いそ (明治四年生)
- 大字岩下 日野 ゆう (明治二十三年生)
- 大字三島 丸橋 たけ (明治二十三年生)
- 大字岩下 日野 はる
- 大字矢倉 加藤 つる (明治三十七年生)
- 大字岩下 清水 ひさ (明治三十七年生)
- 同 山野 しま (明治三十四年生)
- 大字矢倉 小池 マツ (明治九年生)
- 大字岩下 木暮 きい (明治二十七年生)
- 大字三島 丸橋 かや (明治三十六年生)
- 草津町 關口 義雄 (明治十八年生)
- 大字三島 丸橋 ぬい
- 大字松谷 町田 ふみ (明治三十二年生)

- 大字岩下 日野 いち (明治三十一年生)
- 大字三島 田中 けん
- 同 角田 むよ (明治三十二年生)
- 大字岩下 木暮 せき (明治三十五年生)
- 同 日野 やす (明治十六年生)
- 大字三島 小林 とみ (明治二十六年生)

○實地見學生派遣

岩島村長は本事業の爲に金壹百圓を補助して以て其の發達助長に後援せらる茲に於て本組合は前記講習者中より事情の許すものを四名囑托して更に一層の研究熟練をなすべく遠く奈良縣へ派遣せんとし同地方へ出張を囑托したり派遣する見學生としては

- 岩島村大字岩下 富澤 いま
- 同 小林 たま
- 同 大字三島 小池 とう
- 同 上原 さと

四月十日組合長丸橋春倭及組合員湯淺富太郎の引卒を以て出發し日程稍々遅延して四月十四日奈良縣添上郡東山村字北野中辻定次郎氏方へ止宿し講師中辻コヨ、中谷ナラ兩先生に教を乞ひ且又附近の見學をなすこととなり、見學生は同所に十四日より三十日迄實地見學納續の製造を練習し技術頗る上達せり

引率者組合長は歸途に就き同郡月ヶ瀬村字長引中嶋藤四郎氏方の麻織物製織を視察す

○麻織物業中嶋藤四郎氏方視察の要領

篋は六十五度を用ひ、壹匹の縦糸として四十総を用ゆ

織質 一匹三圓より四圓位にて此の工程一週間を要す、一

匹は巾一尺五寸三分丈け六丈とす

晒方、奈良市奈良阪、矢野晒工場、に於て引受け晒專業を

以て營業とす

サイメイ取り 麻布の縦糸を經臺にて經、フノリを以て櫛

にてとかす事を云ふ

横紹 七十五度のオサを用ひ一匹九十総を要し一日一丈位

織る事を得ると云ふ、織質一匹七圓五十錢乃至八圓にて

工程十日を要すと云ふ

縦紹 八十度の篋を用ゆ、縦横かせを用ひ縦用かせ百三十

五匁なり

度、篋の一度は十六羽を云ふ、麻総の太きものは五十度の

篋を用ひ、中位のものには五十五度の篋を用ひ一紹四匁三

分位、細きものは八十度位の篋を用ひ一紹二匁八九分位

のものを用ゆ

晒質、一匹に付八十錢位なり

績、一匹の横に百三十五匁を要す

高貴の御用に供するハンカチーフはカラムンシ百五十度の篋

にて一総を績み質四十五錢なり織質は一匹につき金五十圓なりと云ふ

納は検査役を設けて製造者を巡視しカセ棒の尺を検査し筋の数を検査す

四月二十八日副組合長理事菅谷勘三郎氏は群馬縣農會技手

小林好三郎氏と共に産業視察を兼ね見學生歸村迎の爲に出

張せり、同氏は四月三十日奈良縣添上郡東山村北野へ着し

五月一日同地出發京都名古屋東京を経て五月五日無事歸郷

す

◎麻織物傳習の狀況

昭和二年七月二十日大麻加工の狀況を視察する爲縣農務課

技師副業主任中澤孝氏と本組合丸橋組合長とは千葉縣館山

町青田千之助氏の麻繩工場を視察し尙館山水産學校を視察

夫より船形町鈴木勝太郎氏方にて漁具需用狀況を聴き歸郷

す

同年八月二十日第二次の視察として富山縣福光町に至り製

織の狀況を實地に視察し夫より同縣氷見町に至り大麻の需

用狀況を調査し歸途長野縣に於ける大麻生産地を視察して

歸郷す

縣副業主任技師中澤氏は是非共大麻加工の實現を計りたし

との意志を以て奈良縣添上郡月ヶ瀬村石打井本留藏氏方へ二

名の女子を派遣し麻布機織の技術を修得さすべく麻布商中川政七氏に囑托して之を實現せり、派遣せられたる女子は左の二名なり

吾妻郡岩島村大字三島三千五百七十一番地

小林 たま

明治二十九年六月十日生

同郡同村大字同百五十番地

丸橋 いう

明治四十四年十二月四日生

昭和二年十一月二十八日出發十二月一日より傳習に着手し

翌三年一月二十五日迄傳習を受けたり

歸郷後實地の技術を練習し且つ講習會を開きて之を希望者に教授したり

一、本年度の傳習したる機織の種類は左の如し

一、縦亞麻紡 横本麻 生布着尺物 並巾 四匹

二、歸郷後實際に練習したるものは左の如し

一、縦亞麻紡 横本麻 生布着尺物 並巾

二、縦玉糸、横本麻 着尺物 並巾

三、縦本麻績麻、横本麻 着尺物並巾

○第二回麻織物傳習の爲本縣より派遣せられ昭和三年十月二十三日吾妻麻信用購買販賣利用組合常任理事角田喜市氏に引率せられたる傳習生小林たま、丸橋いうは奈良縣添上

郡月ヶ瀬村へ同行し同村到着同月二十五日中川政七氏の斡旋に依り教師林タガノ氏方に宿泊す今回は縣よりの希望に依り洋服地廣巾物の傳習を中川氏工場に於て授けらる、講習要領左の如し

機織臺は前年と異り今年普通當地方言バツタンを使用し經糸は亞麻紡績奈良縣にて云ふ六十五度の物を使用し廣巾中二千八十筋を要す、緯糸は大麻平総を以て織上るものとす、此整經の長さ六丈四尺巾二尺二寸織上長さ五丈八尺五寸となれり、十月二十五日講習目的地に到着二十六日より開始し二十七日糸繰及整經を終り二十七日より四日間前年に習ひサイメン及其他織始めの準備をなす十一月一日は村社祭典につき休業し十一月二日より四日間第二匹目のサイメン及其の他の準備をなす、十一月六日より初回一疋分織初めたるに本年は廣巾物なる關係上非常なる困難を來し初日約三尺位なるも徐々に慣れて能率も向上し一日約八尺迄を織上るを得たるもたま／＼曠古の御大典に際し其の期間中謹んで休業す然して織上期日は十一月二十五日にて織始めより實に十三日間を要せり次に一日休養して十一月二十七日第二匹目を織始めたるに機織の技術向上したるを以て一日の功程最高一丈最低五尺位の程度にて九日目の十二月五日織上を了せり

次に綿物研究の爲め實地視察及編組等に付林先生及前年の

師井本先生等につき教授を受け實地研究の爲十二月十一日より縞布の準備に取り掛り糸練整經、サイメン等をなす此の間十日間を費す、然るに最早講習期間も切迫したる折から、岩島村農會技術員富澤清十郎氏迎の爲出張せられたるを以て織り上る事を得ず十二月二十五日郷里へ歸る依て整經をしたる縞織物は其後吾妻麻組合より奈良縣添上郡月瀬村なる中川氏工場へ依頼し之を取寄せて自村にて織上を了したり

○歸村の後地方婦女子に其の技術を傳習せしむる爲に傳習所を開きたり期間は三十日間にして講師は小林たま、丸橋いの二名にて期間中出席したる講習生は九名なり傳習中製造したる織物は左の如し

- 一、麻平絹 二百六十匁
- 二、麻絹物 二 反
- 三、半綿生布 二 匹

◎麻織物機織の順序

原料 縦糸は大麻紡ぎたる麻を用ゐ、一匹百三四十匁位、横糸は大麻の平績を用ゐ、一匹百三四十匁位
糸練、原料とする縦糸は亞麻紡績糸の六十度のもので又は本麻紡ぎたるものを用ひ之を十六框に繰り經臺に掛けるのである

經臺 一回廻り六丈の長さなれば六十度を経るには六十回を要するのである、經るときにあぢを拾ふ、此あぢに三つの呼方を以てする、麥あぜと云ふは二本づゝ拾ふあぢにて米あぜと云ふのは一本づゝ拾ふあぢなり度あぜと云ふのは十六本づゝ即ち壹度分づゝ拾ふあぢにて斯く稱ふるなり、經たる縦糸は之を真中から切り一度分づゝ毎結にするなり

之をあり箆(荒い箆)にかけてチギリ棒に巻く
サイメン取り、次に衣桁臺に掛けてサイメン箆に通す、又毎結をなし、ハタ草をかへチギリ棒に結び付けサイメン臺に掛けサイメンを取るサイメン取りとは、先づフノリ二十五匁を水にとかし、適當の工合に煮立て、之を機に糸に塗り付けて櫛を以てとがすのである、サイメンを取る時あぢを二回拾ふ、サイメンを取りたる後衣桁臺に掛けてモチリと織箆に通して機臺に掛け織るものなり

緯糸、はつねと稱し苧桶に入れ置き、其の糸口より逆にならぬ様に、臍巻車にて臍に巻く、臍に巻くには、苧桶へ米糠少量を蒔き、少しの重りになるものを置き、一方に金だらいに水を入れ其の中を通して巻付け、之を梭に入れて織るものなり

麻織物に對する本郡内の

實業補習學校染織科に於て實行せるが今其の報告書の概要を録して参考に資せんとす

○大正六年五月

岩島村産大麻試験織 原町立實業補習學校染織科

名稱 夏洋服地綿麻交織

原料 經糸六十番瓦斯糸、筋糸、大麻撚糸緯糸大麻手

紡捻ナン糸

製織者 温習生

小林 かね

大麻試験織ノ趣意

吾カ吾妻郡ハ山間僻陬ノ地ナルヲ以テ蠶蠶ノ主要稼業ノ外男子ハ薪炭ノ製作運搬ノ業アリト雖モ女子副業トシテ適當ナルモノナク近來有志ノ種々ノ論スルモノアレトモ直ニ全部ニ普及シテ適當ト認ムヘキモノナク各其ノ方法ニ苦ムモノノ如シ

顧ミルニ本郡ハ主要物産トシテ農蠶業相當ニ發達シ種々改善ノ結果漸ク可及的加工品ノ生産物ヲ輸出スルニ至リ其ノ産額モ亦漸次増進シツ、アルハ喜フ可キ傾向ナリトス加フルニ中部地方ニハ最モ精良ナル大麻ヲ産シ年々北越其他ニ半製品ノ儘取出シ年次増殖ヲ見ルハ本郡産業上慶費スヘキ事ナリトス

然ルニ近年紡織術ハ日進月歩ノ勢ニテ社會ノ需用ニ應シ新案織物續出スルノ有様ナリ今ヤ歐洲戰亂ハ益々擴大シ軍需

計劃紹介

○岩下の人富澤甲子郎氏は身心を之に傾注して麻織物の開發に貢獻す其他丸橋丑太郎氏増田瀧藏氏等の苦心、其他數氏の研究少からず

◎本郡特産麻の加工に付き早くより其の開發に努力せられたるもの少からざりしが、曩に本村出身前草津高等小學校長たりし武井源重郎氏は、岩島副業の開展を計り、且つ岩島大麻の改善を計る爲に、苦心し明治四十三年已に大麻製織を創意し、其の管理の下に製造したる織物を聯合共進會へ出品し左の通り名譽の褒状を受けられたるは、同氏の名譽のみならず、本郡麻織物を創造せられたる着眼に敬意を表せざる可らず

群馬縣吾妻郡岩島村

武井源重郎

麻綿交織 四等賞褒状

審査長正五位勳五等 岡田鴻三郎

右群馬縣主催一府十四縣聯合共進會審査長ノ薦告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治四十三年十一月十日

農商務大臣正三位勳一等 男爵大浦兼武

◆本郡に於ける大麻製織の試みは既に大正六年五月原町立

品(麻織物)ノ注文盛ニシテ用途擴張セラレ原料ノ不足ヲ來シ未會有ノ高値トナリ益々中部人士ノ奮起スヘキ機運ニ相遇セルモ全國比類ナキ性狀ノ大麻ノ生産地ニ係ハラズ只夕房狀ノ麻ヲ販出轉賣シ一部ノ利益ニ安ンジ未ダ一品モ加工品ノ輸出ヲ見ザルハ殖産興業上誠ニ遺憾ニシテ是ガ研究ヲナシ加工品ノ販出ヲ計ルハ本郡ノ最大任務タル事ナリトシ又吾ガ補習學校ノ事業ノ主目トセザル可カラザルナリ依テ吾ガ校ハ今回大麻試驗ノ新項目ヲ設ケ其費用ヲ計上シ幸ニ通過セシテ以テ岩島村大麻ノ豐富ナル原料ニテ比較的入り易ク且流行ノ廢退少キ織物ノ新研究ヲ始メ以テ漸次纖維工業ノ基礎ヲ造ラント欲スルハ吾ガ補習學校染織科設立ノ主意ト目的トニ叶ヒ一面ニハ半年以上收益ナキ婦女子ノ一大活動ヲ起サシメ民福ヲ増進セシムルハ最モ急務ニシテ又永遠ノ事業タルコトヲ痛切ニ認メ是ガ研究ニ着手シタルモノナリ

大麻ノ用途

大麻ハ通風性ニ富ミ且柔軟性ヲ帯ビ水氣ニ觸レ腐蝕シ難キヲ以テ從來ノ手紡又ハ器械紡績ニヨリ糸條トナシ夏用ノ生片蚊帳帆布又ハ撚リテ疊糸疊線及繩、水管、火浣布其ノ他下等服地ニ使用セラル

大麻ノ性狀

大麻ハ普通麻(アサ)ト稱スル麻草ヲ水ニ浸シ外皮ト幹トヲ

除去シタルモノニシテ我國ニテハ野州麻(量ニ於テハ最も多シ)有名ナリ麻ニハ帶茶褐色ト帶黃白色ノ二種アリ前者ハ纖維強ケレドモ色ヲ帯ビ後者ハ稍白色ナレドモ纖維弱シ此ノ植物ハ一年草ニシテ元來熱帶地方ノ原産ナリ即チ印度並ベルシヤ地方原産ナレドモ今ヤ到ル處ニ培養セラレ露國亞米利加、伊太利等ノ各地ヨリ産出ス大麻ノ纖維ハ亞麻(リンネル用)ト同様ナル醱酵法ニヨリ得ラルル大麻ノ種子ヨリ油ヲ製造スルコトヲ得ルガ故ニ大麻培養ノ副産物トシテ製造セラレ大麻纖維ハ亞麻纖維ニ比較シテ區別スルコト困難ナレドモ、纖維ノ尖端亞麻ハ尖レドモ大麻ハ稍々圓形ニシテ亞麻ニ比シ稍々不透明ナリ而シテ中心ノ髓ハ識別スルコト困難ナリ大麻ハ純ナルセルロースノミナラズシテ蠟脂肪、其ノ他ノ不純物ヲ含有ス大麻ハ木綿又ハ亞麻ヨリ吸濕物ニ富ミ木綿ニ比較スルニ同ジ状態ニ於テ六プルセント(百分ノ六)大麻ハ八プルセント(百分ノ八)ノ濕氣ヲ吸收ス大麻ノ公許水分ハ十二プルセント(百分ノ十二)ト定メラル

大麻ノ精練晒白法

從來行ハルルモノハ左ノ如クニシテ主ニ生片其近江上布其ノ他ノ硬味アル麻織物ノ晒白法ナリ

大麻ハ木綿ニ比シ不純物ヲ含有スルコト多量ニシテ且ツ酸及アルカリニ對スル性質ニ於テモ纖維ヲ脆弱ナラシメ易キ

故ニ其精練及晒白ノ困難ナルハ當然ノ事ナリトス

第一、一割ノ炭酸ソーダノ溶液中ニ煮沸スルコト三四時間

ニシテ後チ水洗ス可シ

第二、トワドル〇、五度ノ漂白粉溶液中ニ浸漬スルコト一

時間ニシテ後水洗スベシ

第三、トワドル一度ノ硫酸稀溶液中ニ浸漬スルコト一時間

ニシテ後チ水洗スベシ

第四、再ビ二乃至五ベルセントノソーダ液中ニ一時間煮沸

シ更ニ第二第三ノ工程ヲ行ヒ水洗シ乾燥セシムルニアリ

以上ノ方法ニヨリ仕上リタルモノハ半晒トシ更ニ之ノ工程

ヲ反復シ四分ノ三晒トナシ更ニ之ヲ一週間草叢ニ晒シ一日

四五回水ヲ掛ケ本晒トナス

第二、晒白法ハ次ノ如シ

先ヅ清水ニテ洗ヒ石灰水ニテ五六時間許リ煮沸シトワドル

二度ノ稀鹽酸中ニ浸スコト二三時間ニシテ再ビ清水ニテ洗

ヒ淨メ炭酸ソーダヲ以テ五六時間煮沸ス此ノ間麻ヲ上下ニ

反轉シ攪拌シ後チ水ニテ洗フベシ斯クシテトワドル半度ノ

晒白粉溶液中ニ浸スコト四五時間ヲ經テ水洗シ後チトワド

ル二度ノ硫酸中ヲ通過セシメ水洗シ後チ炭酸ソーダニテ煮

沸スルコト二三時間ニシテ又晒白粉ノ稀溶液ニ浸シ後チ之

ヲ水洗乾燥セシムルモノトス此ノ方法ハ稍々手數ヲ要スル

コト多シト雖モ標白シタルモノハ實ニ雪ノ如クニシテ光澤

ニ富ミ他ノ方法ニ依リ標白シタルモノニアラズ然レドモ原料ノ良否ニ依リ一割乃至三割ノ練リ減リヲ生ズルモノナリ

試驗用原料

經糸 (六十番瓦斯糸(一総四匁長サ八百四十碼))

大麻撚糸 (網造用ノモノ)

耳糸 二十番カタン糸

緯糸 岩島村三島産一等大麻房狀ヲ綿糸十六番片撚糸

位ノ大キサニ裂キ其ノ兩端ヲ引キ揃ヘ撚リ合ゼ一方ノ糸

條ニ撚付ケ是ヲ連續シタルモノヲ用ユ

以上ノ原料ヲ製織設計スルコト左ノ如シ

一、密度、箴ハ鯨尺一寸間六十八羽立ノ竹箴ニテ幅一尺五

寸五分ニシテ經糸一目ニ二本入リトス

但シ大麻撚糸ハ一目一本入リトス

一、整經尺、鯨尺二丈二尺トス

一、機、臺、普通ノ手機ニシテ經糸ノ堅張六尺ニテ一尺六

寸ノバツタンテ用ヒ、手投杼ヲ用ヒ製織ス

一、裝置ハ左圖ニ示スガ如シ

圖面ハ省略ス

以上ノ設計ニヨリ試驗ノ織物ハ長サ一丈七尺、幅一尺五寸

ノモノヲ得タリ

而シテ茶褐色ヲ帯ビ布面全體ニ毛羽アリテ硬度ヲ有シ粗雜

ノモノナルモ特種底味アル光澤ニ富ミ新奇ノ綿麻交織ヲ得

タリ

準備及製織ノ操作上特ニ困難シタル點

(一)房狀ノ大麻ヲ手紡シタルモノナレバ糸條ニ撚付ケタル先端ハ管卷ノ際左手ニテスコギ寄セラレ一部ヲ破壊シ操作上困難ヲナセリ

(二)連續糸條ヲ積重シタルモノナレバ纖維ノ割レタルモノニ突キ合ヒ他ノ糸ヲ添上シ管卷ニ困難ヲナセリ

(三)硬度強キヲ以テ管ノ山ヲ破壊シ管ノ解舒ヲ妨グル恐アルヲ以テ堅固ニ管卷スレバ(一)及(二)項ノ困難ヲ益々増大シ管方ノ速度ヲ加減シ適度ノ堅サニ管卷セザル可カラザルコトヲ切ニ覺ヘタリ

(四)製織ニ於テ大麻ノ糸條ハ杼壁ノ小穿ヲ通り急速ニ回轉セラレテ自然ニ糸條ノ抱合ヲ裂キ搦ミ付キ緯糸打込ニ手間ヲ要シタリ

以上ノ欠點ト困難ヲ緩慢ナラシメンガ爲メ各項ニ對シ左ノ方法ニヨリ操業セリ

(一)項ニ對シテハ兩端ノ撚付ケタル先端ヲ下方ニ向ケ管卷ヲナセリ

(二)項ニ對シテハ大麻ノ積重セルモノト管卷機トノ距離ヲ遠クシ管卷キタリ

(三)項ニ對シテハ管卷ニ際シ多數ノ綾ヲナサシメ卷キタリ(四)項ニ對シテハ管上ニ突出セル毛羽ヲ切り取り打込ミタ

右ノ手段ニヨリ多少ノ欠點ヲ防止シ得タリト雖モ尙ホ充分ナル方法ト云フ能ハズ是等ハ多數製織ノ場合必ズ製産上重大ノ問題ニシテ閑却ス可カラザル事項ニシテ漸次研究ヲナス可シ然レドモ前記ノ欠點ヲ少カラシメ操業ヲ容易セシムル手段トシテハ第一ニ手紡シタル大麻糸條ノ抱合ヲ破壊セシメザル様粘着性ノ糊ニテ撚糸タル部分カ又ハ全體ニ付ケ手紡ノ糸ヲ綾ヲナサシメ小粹又ハ其ノ他ノモノニ卷キ付クル方法ヲナサバ大體ニ於テ除去スルヲ得可ト信ズルモノナリ

原料費用類	
經糸六十番瓦斯糸二十總代金九拾錢	
經糸大麻撚糸總	代金六拾八錢
耳糸カタン糸貳箇	代金拾六錢
大麻手紡糸百四十匁	代金貳圓也
合計金參圓七拾四錢	

整理(織物仕上)

織上ゲタルモノハ類節ヲ取り、アルコール焰火ニテ毛羽ヲ燒キ是ヲ山田郡桐生町大字新宿兩毛整織會社ニ於テ精練晒白及整理ヲナサシメタリ

結論

第一回試驗ノ成績ハ純白ニシテ且ツ光澤手觸リ等良好ナル織物ヲ得タリ從來市場ニ散見スル生片及夏洋服地ハ硬度甚

○思ふ如くに生活せずして、得る如くに生活せよ(希臘俚諺)

○熟慮は智恵の親なり(英國俚諺)

◎大麻加工濟濟競技會

昭和四年九月二十五日第一回製麻競技會を岩島村大字三島小林泰助氏宅に開會す

- 一、第一回製麻競技會要領
- 二、場所、岩島村大字三島小林泰助氏宅
- 三、申込資格、年齢男女ヲ問ハズ各組委員長ノ推選者ニ限ルコト
- 四、申込期日、昭和四年九月二十日締切
- 五、競技方法、水柄一ツヲ以テ實技ヲ行ヒ能率試驗(即チ品質數量時間ノ三項目)ニ依リ優良者ニ賞與ヲナスコト(水柄ハ同一品質ニテ同一量目トシ當方ニテ準備スルコト)

- 但其方法ハ現場ニ於テ指示スルコト
- 六、器具ハ自己所持ノモノヲ持參スルコト
 - 七、時間割ハ前日迄ニ各出技者へ通知スルヲ以テ其時間ヨリ一時間前ニ現場へ出席セラル、コト
 - 八、審査ハ縣副業主任技師臨場シ審査員ハ組合検査員中

シク折目小皺ヲ生ジテ手觸及光澤面白カラザレドモ該試驗品ハ從來品ニ比シ新奇ナル織物タルコトト信ズ去レバ此ノ特種ナル織物ヲ夏洋服ニ適當ナル組織ト柄合ヲ撰ミ一般ニ販賣ノ方法ヲ講ジナバ必ズヤ世人ノ嗜好ス可キモノト信ズ故ニ有志ニ謀リ資ヲ投ジ大麻手紡工場ヲ設ケ整一ナル原料ニテ夏洋服地又ハ他ノ織布ノ製織ヲナシ徐々ニ販路ノ擴張ニ務メナバ此ノ織物ノ發展容易ナルコトト信ズルモノナリ尙此ノ大麻織試驗ヲ各種ニ就キ施行シ一般ノ報告ヲナサント欲ス

希望

本試驗ニ於テ本校設備ノ機臺ハ不完全ノ舊式高機ニテ遺憾ナガラ洋服地トシテノ所要幅二尺ノモノヲ製織シ能ハズ今後該試驗ヲ繼續施行スルニハ二尺巾新式高機臺ノ購入ヲ切ニ希望スルモノナリ

以上

大正六年五月二十八日

原町實業補習學校

染織科

河添文藏

金言

○富を利用するを得る人にして、始めて富めりと謂ふべきなり(ホレーズ)

○鐵の熱するに當りて之を打て(ジョンウエプスター)

ヨリ選定ス

其他ハ當日當事者ニ付キ開合セラル、コト

○審査長派遣方申請ヲ九月二十一日群馬縣知事へ提出ス

○競技出席申込ハ二十八名ニシテ九月二十一日付ヲ以テ時

間割ヲ各出技者へ通告ス

◎競技會當日は總ての用意を十分に整ひ、競技場は一回六

人づゝの實技をなす設備をなし、競技に用ふる剥麻は一

人分づゝ蠶籠に乗せ、夫れに番號を付し受付と同時に座

席番號と剥麻番號を抽籤せしめ第一席六人は午前九時四

十六分に始めたり

審査長地方農林主事副業主任小松碧殿は開始前に臨場し

左の要領につき出技者に訓示をなして號令の下に開始せ

り

○製麻經濟競技要項(當日揭示シタリ)

一、製麻材料は程五百匁の剥苧を各人に組合より供給す

二、競技並に審査方法

一、與へられたる材料を製麻す

二、審査は左の各項を參照して製品販賣により所得の最

も多きものを最高とし以下順位を定む

(イ) 所要時間の長短

(ロ) 製麻量目の多少(乾燥後秤量す)

(ハ) 品質の良否(組合等級に依る)

(ニ) 販賣價額(時價により評價す)

(ホ) 一時間の所得額多少

第一席に於ては其の所要時間左の如し

分 秒

五六、二〇 矢倉 加藤 丑太郎

六一、二〇 同 上原 益太郎

六五、一〇 三島 丸橋 寅作

七九、一〇 矢倉 渡 巳一郎

八〇、五五 三島 高橋 廣三郎

八一、〇五 矢倉 小池 里五郎

第二席は午前十一時十三分開始其の所要時間は左の如し

(但し第二席より都合にて十人を一席として之を行ひた

り)

分 秒

六二、五六 岩下 片貝 春一

七一、四〇 同 片貝 英一

七五、〇〇 三島 高橋 信治

七八、〇〇 三島 高橋 多治見

八二、一〇 同 高橋 半三郎

八四、一〇 同 林篠 幸三郎

八五、〇〇 同 高橋 政一

八六、四〇 同 高橋 初三郎

八六 四五 同 丸橋 富重

八七、一〇 岩下 片貝 芳雄

第三席は午後一時十七分開始其の所要時間は左の如し

分 秒

六二、三〇 三島 湯 淺 薫

六三、四一 同 丸橋 勝十郎

六六、四六 同 小池 秀雄

六九、一七 同 丸橋 泰造

七一、〇〇 同 高橋 良八

七四、一〇 川戸 朝比奈 良平

七四、三〇 岩下 町田 虎一

七五、四八 三島 丸橋 和造

八九、一〇 川戸 太田 梅吉

九二、〇〇 同 宮崎 乙巳

第四席は午後一時五十八分開始其の所要時間は左の如し

分 秒

六九、〇〇 三島 小池 仲太郎

八二、三五 同 丸橋 寛司

○乾燥の後之を秤量し、品質検査を遂けたる順位は次の

如し

順位 評價(一匁ニ付)

一 四十匁 片貝 春一

(ニ) 販賣價額(時價により評價す)

(ホ) 一時間の所得額多少

第一席に於ては其の所要時間左の如し

分 秒

五六、二〇 矢倉 加藤 丑太郎

六一、二〇 同 上原 益太郎

六五、一〇 三島 丸橋 寅作

七九、一〇 矢倉 渡 巳一郎

八〇、五五 三島 高橋 廣三郎

八一、〇五 矢倉 小池 里五郎

第二席は午前十一時十三分開始其の所要時間は左の如し

(但し第二席より都合にて十人を一席として之を行ひた

り)

分 秒

六二、五六 岩下 片貝 春一

七一、四〇 同 片貝 英一

七五、〇〇 三島 高橋 信治

七八、〇〇 三島 高橋 多治見

八二、一〇 同 高橋 半三郎

八四、一〇 同 林篠 幸三郎

八五、〇〇 同 高橋 政一

八六、四〇 同 高橋 初三郎

八六 四五 同 丸橋 富重

八七、一〇 岩下 片貝 芳雄

第三席は午後一時十七分開始其の所要時間は左の如し

分 秒

六二、三〇 三島 湯 淺 薫

六三、四一 同 丸橋 勝十郎

六六、四六 同 小池 秀雄

六九、一七 同 丸橋 泰造

七一、〇〇 同 高橋 良八

七四、一〇 川戸 朝比奈 良平

七四、三〇 岩下 町田 虎一

七五、四八 三島 丸橋 和造

八九、一〇 川戸 太田 梅吉

九二、〇〇 同 宮崎 乙巳

第四席は午後一時五十八分開始其の所要時間は左の如し

分 秒

六九、〇〇 三島 小池 仲太郎

八二、三五 同 丸橋 寛司

○乾燥の後之を秤量し、品質検査を遂けたる順位は次の

如し

順位 評價(一匁ニ付)

一 四十匁 片貝 春一

以上吾妻錦特等ニ編入シ得ルモノト認ム左ノ七點ハ

吾妻錦並等ニ編入ノモノト認ム

六十五匁 上原 益太郎
 六十五匁 渡已 一郎
 六十五匁 高橋 廣三郎
 六十五匁 高橋 多治見
 六十五匁 林篠 幸三郎
 六十五匁 高橋 初三郎
 六十五匁 片貝 芳雄

此の審査は検査人五名の立會を以て執行したり
 ○次に秤量検査の成績は次の如し

五八〇	朝比奈良平	五五五	丸橋 寅作
五八〇	渡 巳一郎	五四五	丸橋 富重
五七五	片貝 芳雄	五四〇	小池 仲太郎
五七〇	高橋 良八	五四〇	小池 秀雄
五六五	丸橋 寛司	五四〇	丸橋 勝十郎
五六五	太田 梅吉	五二五	加藤 丑五郎
五六〇	高橋 廣三郎	五二五	丸橋 泰造
五五五	高橋 信治	五二五	小池 里三郎
五五五	林篠 幸三郎	五二〇	町田 虎一
五五〇	片貝 英一	五二〇	丸橋 和造
五五〇	上原 益太郎	五一〇	高橋 半三郎
五五〇	宮崎 乙巳	五〇五	高橋 多治見

五〇〇 湯淺 薫 四八〇 片貝 春一
 五〇〇 高橋 初三郎 四八〇 高橋 政市
 ○製出したる量目を品位價額に計算して之を一時間の價額に換算したる金額左の如し

一〇三二	丸橋 寛司(34)	同	高橋 信治(24)
一〇二二	丸橋 富重	同	高橋 良八(32)
一〇一九	丸橋 寅作	同	高橋 廣三郎(26)
一〇九八	丸橋 多治見	同	丸橋 勝十郎(26)
一〇七七	丸橋 幸三郎	同	丸橋 泰造(22)
一〇七二	丸橋 初三郎	同	丸橋 寅作(52)
一〇六二	丸橋 芳雄	同	丸橋 和造(28)
一〇五二	丸橋 多治見(34)	同	丸橋 益太郎(30)
一〇四二	丸橋 初三郎(32)	同	丸橋 重(28)
一〇三二	丸橋 寅作	同	丸橋 富重(28)
一〇二二	丸橋 多治見	同	丸橋 和造(28)
一〇一七	丸橋 幸三郎	同	丸橋 益太郎(30)
一〇一四	丸橋 初三郎	同	丸橋 重(28)
一〇一〇	丸橋 芳雄	同	丸橋 和造(28)
一〇〇九	丸橋 多治見(34)	同	丸橋 益太郎(30)
一〇〇八	丸橋 初三郎(32)	同	丸橋 重(28)
一〇〇七	丸橋 寅作	同	丸橋 和造(28)
一〇〇六	丸橋 多治見	同	丸橋 益太郎(30)
一〇〇五	丸橋 幸三郎	同	丸橋 重(28)
一〇〇四	丸橋 初三郎	同	丸橋 和造(28)
一〇〇三	丸橋 芳雄	同	丸橋 益太郎(30)
一〇〇二	丸橋 多治見(34)	同	丸橋 重(28)
一〇〇一	丸橋 初三郎(32)	同	丸橋 和造(28)
一〇〇〇	丸橋 寅作	同	丸橋 益太郎(30)

ては其の効果少からざるべし

七二〇	丸橋 寛司(34)
六九一	高橋 政市(24)
六七七	高橋 半三郎(29)
六七六	宮崎 乙巳(25)
六七六	渡 巳一郎(19)
六六六	太田 梅吉(24)
六五五	高橋 廣三郎(26)
六三八	片貝 芳雄(17)
六〇八	片貝 幸三郎(28)
六〇八	林篠 幸三郎(28)
五九六	高橋 多治見(34)
五九六	高橋 初三郎(32)
五三二	高橋 初三郎(32)

本競技は原料を最優等品より採りたるを以て其の競技の結果が品位の差を十分に發揮する事を得ざるやの感あり、時間にて最も早きものは五十六分二十秒、最も遅きもの九十二分、此の差額三十五分四十秒なるは大に考究の餘地あり、又量目にて最多五十八匁、最少四十八匁、即ち十匁の差額を見る、之れ其の製麻の製品に及ぼす影響と如何なる關係を有するかを研究するを要する、品位に至りては時間と數量との關係以外技術の巧拙熟練の如何も加味せられ平常の物と競技のものとの相違せる爲に本能を發揮せずして決せられたるものなきにしも非ざるべし、本競技も更に回を重ねて其の方法を考究し、斯道向上の資料となるに於

◎吾妻大麻栽培及製造方法

一、沿革變遷の概況

本郡内に於ける大麻栽培の沿革は確實なる記録なく不明なるも最近のものに非ずして二、三百年以前より既に栽培せられ漸次産額も増加し來るも養蠶業の發達と蒟蒻栽培とに依り大正九年以來徐々として減少し大正十五年に至りては反別、數量共約半減せるの悲境に至れり。

然るに最近に至り蒟蒻粉の低落と相俟て繭價も次第に低落したるも之に反して大麻相場は幾分宛の高値を辿りつつあるを以て大麻栽培者も活氣付き昭和三年度より漸次耕作反別の増加せる傾向を示せり

二、氣 候

大麻は温帯の地に栽培するものにして成熟期短く我地方に於ては播種後收穫期迄百八日乃至百十五日間を要す

大麻の栽培と降霜とは密接の關係あり、春季晚霜の來らざる時は大麻の成育極めて良好なり、又霜に次で恐るべきは降雹、暴風雨。温度の變化等なり、播種後收穫期迄に温度激變して俄に低下する時は成育を一時妨ぐる事あり。又五

に之を有するが故に、窒素肥料の施肥を怠らざる可からず

四、肥

料(施肥量一段歩當り)

一、打肥、打肥は一月より三月中旬迄に降雪の際人尿、若くは人糞尿を畑一面に撒布打肥するものにして、都合二回乃至三回とす、人尿は其の儘、人糞尿は四升を二斗位に稀薄にして二石四斗位を施すものとす

二、掛肥、掛肥とは畑耕耘の際厩肥の未熟なるものを、鋤込むを云ふ、一反歩に付き百五十貫位のものとし、第三回耕耘の時鋤込むものとす

三、元肥、元肥とは播種の際に肌肥とするものにして、左の二種とす

(イ)、水肥にて播種するもの

厩肥、百六十貫、人糞尿、壹石八斗、米糠、八斗、

糞糞(乾燥)四斗

過磷酸、三貫匁、土地に依り他の肥料を適宜配合して土地に適合せる様施肥すべし

右は水を混入し能く混和して畑地に、恰も摺鉢を伏せたる如くに塊め、薬菰の類を覆ひて備ひ置き、米糠の醗酵を促すべし

(ロ)、撒布播とするもの

厩肥、百六十貫、人糞尿 一石八斗

六月に至りて降雹、大風、暴風雨等あるときは、收穫を無にする如き場合あり、故に氣候適順にして暴風雨、又は雹霜害なき時は豊作を見るに至るべし。

三、土 質

土質は礫質壤土、壤土、輕鬆真土等を適當とし土地は稍南へ傾斜して幾分かの濕氣を帶る場所を最良とす。

大麻を栽培するに際して、其の伸長宜き土地は、安山岩の崩壊に依りて生成したるものにして、一般に酸化鐵を有する事多くして、磷酸吸收力も概して、大なるを以て此の土質には、適量の磷酸質肥料を施す事肝要なり。此の土壤の主要成分たる窒素の量稍多きも、磷酸及加里の分量少き事あり、故に窒素質肥料と共に磷酸及加里質肥料の施用を怠らざる可らず、又大麻の伸長せざる土地は花崗岩の崩壊によりて生成したるものにして、土地堅く窒素肥料の吸收力大なるものなれども、之に反して磷酸肥料の効驗は薄弱なり、故に此の土壤は窒素肥料を多量に施して、其の理學的性質の改良と共に、之を肥沃ならしむる事を得るものにして、磷酸質肥料を施すも、概して其の効果少く加里は相當

米糠、八斗、麻用配合肥料 十貫匁

右の内人糞尿は水にて稀薄にし畑一面に打肥とし、其の他の物は乾燥せる儘能く混和し播種の際畦間に撒布するものとす

前施肥量中厩肥は夏肥にして、夏土用中の物を堆積し能く腐熟ならしめたる物を最良とす

土地軟くして大麻の伸長良好なる地には、人糞尿の如き窒素肥料を減じ、米糠の如き磷酸肥料を増加し、又土地硬く麻の伸長宜敷からざる地には、磷酸及加里肥料を減じ、窒素肥料を増加する事に注意するを好しとす

五、栽培方法

一、耕耘及整地、秋作物收穫後十一月下旬より十二月上旬迄に第一回の耕耘を行ひ、翌年二月下旬より三月上旬迄に第二回、三月中旬より三月下旬迄に第三回の耕耘を行ふべし

第三回耕耘後、晴天四、五日續きて、畑地の乾燥せる時金熊手にて土塊を崩壊して平かに爲して蒔付の準備をなすべし

二、播種期及方法、播種の時期は四月上旬より中旬迄とし特に櫻花の紅色を呈し、今や綻んとする時なり、整地したる畑地の克く乾燥せる時、畦巾八寸乃至一尺迄の畦を

定め、前述せし踏肥を直經四尺、深ち一尺五寸位の大桶
に入れ、九斗乃至一石位の水に溶解して水肥となし柄杓



大 麻 撒 布 蒔 實 况

を以て、畦に引き直接に種子一反歩に付き四升乃至五升

を蒔き畦を小鋤にて作り乍ら土を薄く平らかに覆ふもの
なり、又他の一法として、踏肥に種子を摺拌して、蒔く
ものあり、其時は前者より少しく硬くし、小桶に入れて
手を以て、下種するものなり。次に撒布蒔きとは、人糞
尿の如きものを蒔付二、三日前に畑に撒布打肥し置き、
厩肥、米糠、麻用配合肥料其の他適宜の肥料を乾燥の儘
能く混和し、畦に種子を蒔き、其の上に混和したる元肥
を撒布して、水肥蒔きと同様の方法を以て土を覆ふもの
なり

三、手 入、播種後七日乃至十日間を經過せば發芽するも
のなり、其の後約十日間を経て、五、六寸位に伸長した
るとき晴天の日を選び、第一回の間引をなし、直ちに
中耕を行ふものとす、其の後一尺乃至一尺二、三寸位に
伸長せし時第二回の間引を爲すべし、而して大麻收穫期
迄は別に施肥、手入等なく天然に任せ置くべし

四、收穫期及方法、播種後百八日乃至百十五日を經過せる
即ち七月下旬より八月月上旬に至れば大麻の葉幹黄色を呈
するを普通とす、其の時期に至り、大麻採收とて、長麻
中麻、短麻、太麻、層麻の五通に區分して、畑より抜き
取るを常とす、夫れを麻切鎌と稱し、又渡り八寸位の柄
の短きものにて、根、葉を取り幹の中間を採擇し凡一尺
廻りに束ね、夫れを三箇宛束ねて、生麻一束と稱す、而

して長麻、太麻は六尺五寸に、中麻は長きは六尺五寸、
短きは六尺三、四寸とし、短麻は適宜の長さに切留め、



大 麻 採 收 實 况

層麻は大概束ね麻となすを普通とせり、次に麻煮釜と稱
して、高さ三尺五寸、長經二尺、短經一尺八寸位の楕圓

大 麻 煮 沸 の 實 况

形の桶に湯を沸騰し、生麻一束位を限度とし、晴天の日
を見定め、生麻一束宛上下交互に、二分乃至五分間煮沸
し、直に畑に擴げ日光に乾すこと一日にして、生麻二束



を合して一束とし、夕刻屋内に取り入れ、之を繰返すこ
と、約十三、四日間を經過し、外皮の全く褐色鮮明とな
りたるを見計ひ、揚湯と稱して、亦も湯に浸入し、一日
間克く日光に乾燥して、家屋内に横積となし貯藏す

日光乾燥に際しては、夜干と稱して、夜間畑地に横けた儘置くと、品質を劣等ならしむる恐れあるを以て注意す



大 麻 管 理 ノ 實 況

る事を要す、又其の期に、雨天の連続することある時は稍乾燥せるものは、假に屋内に貯藏し、又乾燥不十分な

る物は腐蝕作用に依りて黒點を生じ、粘氣を催する恐れあるを以て、之が豫防に留意し、熱湯に浸すか、乾燥機に依り乾燥せしむるかの方法を講ずる事肝要なり

六、精 麻 の 方 法

一、管理、愈々乾燥たる時は、則八月下旬なり、其の時干麻一束を四分して束ね置き、麻舟と稱して、長さ七尺、巾二尺五寸位の木舟に水を湛へ、束ね置きたる大麻に、水氣を與へて土藏様の小屋内に横積になし、菰の類を覆ひ、之を可成一日三回朝、晝、夕と繰返せば三日目位にして、漸く外皮に粘氣を生じ且又黄色を呈す、此の時を剥取りの好時期とす、此の期に至りて、麻殻を取り出し、普通二本、細きは三本宛として、左手に持ち右手を以て根本三、四寸を折り、其の折口の麻皮を右手に持ち、左手にて麻殻を平に持ちて剥取り、夫れを一條毎に區分出來得る様、適宜に細長く曲けて重積し（乾麻一束を四分したるものを一結す）日光に當らざる様屋内に、掛け置くものなり

二、精麻、精麻用具としては、高さ五、六寸、長さ八寸より一尺位、巾七寸位の箱に類似したる腰掛臺、腰枕及麻引臺とし、其の構造は高さ、三、四寸巾四寸、長さ二尺五寸位の臺の向ふ端は前よりも三分下げ、中央二分低く

圓周の一部分の如く、彎曲なるを良しとす、それに麻引板と稱する信州木會山中より産する老檜木にして年輪及



大 麻 剥 皮 ノ 圖

木肉共同等の堅みある、正目の板を張り込み、前端に「方言サン」と稱する厚み一分五厘乃至二分、巾五分、長さ

四寸の木片を縦に用ひ高所を作るものなり 其の「サン」の高さは板面より三分五厘、又は四分位を良しとす



大 麻 工 加 ト 工 加 用 具 ノ 圖

其の外「方言麻カキ」と稱し麻引髮剣を木片に附したるものなり、そこに於て道具一式揃ひたれば精麻に取り懸

るなり
剥皮せる麻皮一把に、充分水氣を與へて、再び水氣を絞



大 麻 檢 査 實 況

り來りて、腰掛臺に腰を掛け、右髓を屈折して、足を腰掛臺の下に入れ、左髓を屈折して、直立にし麻引臺を稍

斜に左前方五寸位の箇所へ備ひ、一條宛臺の上に正しく乗せ右手に「麻カキ」を持ち左手に麻皮を持ちて、丁寧に腐蝕せる外皮及水分を磨撫し乍ら左手にて引出し、尙及ばざる所は左髓を倒して、之に掲げて引出し、又持直して、根皮を前と同様に引き出し、左の方へ何條ともなく重積し、夕方に至りて、之を六條より八條を度となし本の方を五、六寸より八寸位迄を残して結び一掛とし、竹竿に垂れ下け乾燥するものなり
然して二、三日を経過せば、七掛を「一ハツシ」とし、それを合せて五百匁の束とし、尙五百匁の束を七束合せて三貫五百匁となす、之を一連と稱して販賣するものなり

七、麻 種 子

我地方に於ては、既に七月下旬則ち麻採收の際に、畑の周圍に三畦より五畦位を残し置くものとす、其の麻九月上旬に至りて愈々雄麻は開花す、然るに雌麻は開花せずして、實を結ぶものなり、其の期に雄麻取りを行ふ、而して十月下旬より十一月上旬に至れば麻種子の收穫期なり、斯くて其の時録にて刈り取り繩にて縛り小屋、物置等の軒下に垂して乾燥するものなり

愈々充分乾燥せば持ち來り、席の類を庭園に敷き俵にて打落し實と糠とを唐箕にて吹き分けて、箱又は袋の類に入れて貯藏す

八、大麻副産物と蕎麥の栽培

- 一、荒苧、荒苧とは俗に皮麻と云ふ、精麻し能はざる不良品及雄麻、麻種子收穫後の幹等を川水に浸積して、之を剥ぎ取り竹竿に垂して日光乾燥として販賣す
- 二、麻殻、精麻用に剥皮したる麻殻は、之を日光にて乾燥し直徑一尺位の廻りに結束して、屋内に貯藏す
用途は「カイロ灰」、家屋の屋根材料、垣根、露上簇用の筏簇材料等となす
- 三、麻頭、精麻の際根皮より生ずるものを抜き取り日光にて乾燥し、之を結束して繩用材料として販賣す
- 四、精麻に際して外皮を磨撫し乍ら除去したる、排物を小川にて、打ち晒し白壁の「ツナギ」材料として販賣せらる
- 五、蕎麥の栽培方法、大麻收穫後の後地に八月中旬大麻の根部を燃焼したる灰を肥料として、蕎麥の蒔付をなす、種子量は一反歩に付き六升より八升位迄とす、其の後中耕を三回行ふを常とす、十月下旬より十一月上旬迄を刈り採り畑に並べ充分乾燥せる時、庭園に席の類を敷き、

俵にて打ち落し、實と糠とを唐箕にて吹き分け、尙席の上に擴げて完全に乾燥し、箱又は俵に入れて貯藏するものとす

此の蕎麥は從來殆ど自家用と爲したるも、最近に至り吾妻麻組合の斡旋により、本郡名産「吾妻そば」として搬出する事を得たり

石村 綾 糸

- (餘興) 麻に関する雑詠
- 昔ながらの目出度い仕事神の幣を結ぶ麻
- 菅の根の様に細くも長く麻で世帯を興す里
- 吾妻、黄金、満月圓く暮す家庭の友白髪
- 羅や流石本場の麻の艶
- 新蕎麥や吾妻錦の特産地
- 麻の金盞の金や冬籠り

◆大麻こぎ取り當時のスケッチ

石村 秀 石

「父さんもう沸え立つたよ」
一心に煮桶の火を燃して居た精吉は父を呼んだ
「おーい」麻をくぶり立て、居た久助は返事をし乍ら三束ばかりの生麻をかついで來た
「精吉、それでは水を汲んで來てくれ」
「うん」精吉は水桶をかついで口笛を吹き乍ら威勢よく立

去つた

空はよく晴れてゐる、俗にいふ麻切とんほがたくさん飛交ふてゐる、麻の根を焚く煙がもや／＼と彼方の畑からも此方の畑からも立登つてゐる

「夕立が来なければよいが」

久助の獨言を言い乍ら生麻を煮初めた

「久助さん砥石があるかい」

隣の畑で麻を切つて居た彌吉爺さんが立麻の中からひよつこり出て来た

「あゝあるよ」

久助は腰につるしてゐた砥石をはずしてやつた。彌吉爺さんは其處にあつた席に腰を下して鎌を砥ぎ出した

「今日は夕立が来なければよいがなア」

「昨日の様なに來られては實際かなはないからなア」

「あの雷は何處かへ落つたんべエ」

「何でもあの向ふの丘の鐵柱へ落つたそうだよ」

「道理で大きかつた」

「久助さんいゝ穀だなア、今年も皆組合へ委託するかな」

「まあそんな積りでゐるんだが、今年は穀が當つたから」

「去年の成績はどうだつたか」

「去年は吾妻錦は三貫目ばかりしか出なかつたが今年は十五貫目位は出す積りで居るんだよ」

「この穀では案じはないよ、俺も悴と相談して皆組合へ委託する積りで居るのさ」

彌吉爺さんは砥ぐのを止めて腰の負入を取りだしてすぱり／＼と吸ひ出した

久助も四五束の麻を煮終つて腰を下した

正午近くの陽はぢり／＼と照り、折々かそかな風が吹いてザワザワと麻の葉末を軽く靡かせた。

○高間牧場を経て暮坂牧場に至る

三島よしみ

○白根山櫻清水にて

三島よしみ

○一掬の水に忘るゝ扇かな

三島よしみ

山は秀てゝ水よい里はお温泉と電氣に富て居る

○古蹟

吾妻太郎が米降らせたる岩櫃山照る夕紅葉

◎吾妻蕎麥糠枕

主任 小池 源吉

原料、原料は吾妻郡特産物大麻の跡地へ栽培する蕎麥より

蕎麥粉を採り其の糠を枕へ入れて使用します

製作、枕の製作は毎年一月二日三日兩日吾妻村處女圓滿祝

て會員一同努力して居る様ですから青年諸君へ参考になり

勤勞 勤勞は人たるものの本分にして身分の發達にも大切

なり

信用 信用は事業を爲すに缺くべからざるものにして信用

なき時は共同作業爲しがたし

正直 正直は信用を得る原料にして又吾身を守る福の神なり

規律 萬事正しくし無益に時を費さぬ様にすべし

職業 仕事に従事するときは勤勉と忍耐と辛抱とを要す

快樂 快樂は人に必要なるものにて之を求むるは人の情なり

金錢 金錢を得るには勤勞正直信用規律快樂を工合よく加減して各自向々の職業に従事する時は必ず百萬富者となる

共 樂 宣 傳(金の子、人の子)

何より可愛が私の子、 次に可愛がお金の子

一番育つが金の子で、 次に育つが箱で

手数の掛るが人の子よ、 其人の子も金故に

辛い忙しい世の中に、 立身出世の實を結ぶ

けれどお金よ自慢すな、 殖えます減ります人心

賀會を兼ねて製作するを手始めとして、處女の副業に仕事を以て貰ふのであります

効力、本品は第一頭になぢみがよくて寢心地のよい事、安眠枕として評判がよいのです

品別、大人用もあります、又小供用も乳児用もありますから、未だ使用して居ない方も成るべく御使用を御勧めします

價格、價格も精々安く致します、定價は吾妻麻組合へ照會すれば直ぐ御通知します

◎何事も頭一つの置き所樂も苦となり苦も樂となる

○そばぬか枕

私は吾が農村處女會の御世話になりました、そばぬか枕となりました、私は全國青年男女に共同一致して村の爲國の爲になる事に努めて見度い考です、私は皆さんの一番大切な頭の置所となつて居ます、萬事頭の置き場によつて成功するも失敗するも定まるのであります、何事も便利々々と考へて萬事に付けてきまりよく村人御互に助け合ひ何から

何まで注意して無益に時を費さず、共同事業を盛んにし、益々生産増加して金の取入れ年毎にふえる様にと努めれば

次第々々に家光り家々光れば村々光る村々光れば國光る私の生れた村では農村振興の目的を以て労働會を創立し青年男女共同一致して時を守る事汽車の如くにて左の會訓を設け

人はお金を大切に、
忍耐辛抱共々に、
百萬長者となりませう、
慈悲と和合を第一に、
世話になつたり世話したり
百萬長者の其家は
常に漏れまらずらひ聲

暮れ兼る風情や蕎麥の花盛り
片隅はから味大根や蕎麥の花
三島 靜 山
同 同

○六千尺の高原萬座温泉にて
實に此所は暑さ知らずの別天地
蠅一つ居らで涼しき座敷かな
三島 よしみ
同 同

有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合沿革史

一、設立前の社會經濟事情及産業狀態

本組合の區域たる吾妻郡の産業狀態は農業者其の八割を占め其以外は商業又は工業雜業に依り生計を營み農業者の主業は養蠶林産物普通作物にして設立前と今日とを比較するも大差を見ざるの狀態なり
而して社會經濟の事情を見るに明治三十七年頃は日露開戰當時にして農業者は舊來の方法を墨守して各個に其の經濟を維持し金融機關としては本郡に吾妻銀行、原町銀行、岩島銀行、吾妻興業銀行、高山銀行、吾妻貯蓄銀行

覗き見る伊香保の沼や笑ふ山
心地よや吾妻そばの糠枕
大麻採收時の忙しさを見て
麻刈りや電燈ばかりの留守の家
岩櫃山の秋の景色に恍惚として
魏峨と立つ岩間を紅葉染めにけり
六里ヶ原の開墾地にて
雉子鳴くや朝靄霧るゝ新開地
關東耶馬溪にて
雲のある谷間に床し百合の花
川戸 一 樹
三島 春 畝
同 同 人
同 同 人
同 同 人

等ありて之を取扱ひたるも金利は低率ならず其利用をす
るもの少く肥料資金又は養蠶資金の期節的資金の如きも
各個人中に於て融通し合ひ至極圓滑に行はるゝ部落もあ
り又高利なる資金を借入れて其の利息の支拂に究し家財
を以て償ひ其の生活を脅かされたるものも亦少なからず
爲に農村の經濟狀態は漸次悪化の傾向に趣きつゝあり加
ふるに日露戰爭の餘逆に依り農村の經濟は一層の困難を
來すに至れり
一、設立の動機

本組合の設立は明治三十七年にして其の當時は岩島村大字三島を區域とする有限責任殖産共同購買組合と稱する部落的組合にして其の設立に至りたる動機は本組合設立者たる角田忠三郎氏外二十六名の内角田忠三郎氏外十二名の團結を以て肥料共同購入の團體を設け毎年春季、桑麻の施肥とすべき肥料の共同購買を行ひ之を貸付けて七月乃至九月の農産收入期に其の資金を回収するものなり此の團體は明治三十四年より年々之を實行し來りたるが明治三十七年に至り産業組合法に據るを便利なりとの事を丸橋春倭氏の發意を以て角田忠三郎氏等と諮りたるに賛意を以て迎へられたるに依り同年五月同志を募り二十七名の賛成を得て定款を作り設立の運びに至れり

三、設立の經過及變遷

設立者二十七名を以て五月二十日認可を受け其の區域を大字三島として有限責任殖産共同購買組合として六月一日登記を了し茲に其の事業を開始せり爾來其の區域名稱組合員等に大なる變遷を経て今日に及べるが其の經過次の次し

○明治四十年六月二十六日其の區域を變更して岩島村とせるが組合員數五十四人なり

○明治四十四年一月十三日認可に依り名稱を有限責任岩島

購買販賣生産組合と改む組合員二百三十六人なり

○大正五年九月十一日認可に依り名稱を有限責任岩島麻信用購買販賣組合と改む組合員五百八十四人なり

○大正七年七月二十三日認可に依り名稱を有限責任岩島麻信用販賣購買組合と改め區域を吾妻郡となす組合員三百七十八人なり

○大正八年十二月八日認可に依り名稱を有限責任吾妻麻信用購買販賣組合と改む組合員五百八十四人なり

○大正十一年九月十一日認可に依り有限責任吾妻麻信用販賣購買利用組合と改稱す組合員六百九十九人なり

○大正十二年十二月四日認可に依り有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合と改稱す組合員七百七十九人なり
昭和三年三月末日現在組合員八百三十一人なり

四、設立を斡旋したる人物及其の略歴

本組合設立に際しては未だ産業組合法の發布後日尙淺くして近き實例及手續を知る者少く大に其方法につき苦心したるが、たゞ、本郡中之條町に信用組合の設けられ居る事を聞き同組合長柳田阿三郎氏に就き指導を求めたるに同氏は深く之を應援せられ設立に關する手續其の他經營上につき懇篤なる指示誘掖に盡力せられ非常に其運用上に便益を得たり

而して設立につきて諸事に斡旋協力せられたる方は設立

者中の角田忠三郎、小林初太郎の兩氏中心となりて丸橋春倭氏と共に専ら其の成立と經營に努力せり
柳田阿三郎氏は明治七年六月二十二日本郡中之條町に産れ慶應義塾に學び後郷里に歸りて吾妻郡役所の雇となり又郡書記となり學校組合事務員を経て中之條町助役に就任し吾妻興業銀行取締役吾妻軌道株式會社專務取締役等に就職せり

明治三十五年中之條信用組合を創立し其組合長理事たり又明治三十八年十月中之條町長となり其後之を辭したるも又再び町長となり都合二回の町長を勤む、大正十年十一月病を獲て長逝せらる惜しむべし

角田忠三郎氏は慶應三年十二月大字三島に生れ篤農家に於て性質溫良能く公衆の事に盡力し公平に事を處理せり今尙ほ農事に勉め熱心に従事す

小林初太郎氏は明治十七年三月大字三島に産れ篤農家に於て公平無私現に組合事業に努力しつゝあり
丸橋春倭氏は明治十八年四月大字三島に産れ農業を營み組合經營に従ひ現に本組合長を勤む

五、設立後に起りたる内外の事變の經過及其の組合に及ぼしたる影響
設立當時日露戰役あり其の後戰後經濟界の變遷に遇ひ一般に勤儉貯蓄の風起り組合の利用を喚起し漸次組合精神

を波及し來り組合員も年毎に増加し順潮の發達を示し來りたるが大正八年の財界好景氣に伴ひ一般に投機的的精神瀰漫し事業に堅實味を欠くに至りたるが此の好景氣に次で大正九年三月以降財界の大變動に遇ひ其の影響は容易に回復するに至らず組合の基礎をも危くするに至れるやの觀あり加ふるに大正十二年九月關東地方の大震災災に禍せられ、更に昭和二年五月未曾有の大霜害に厄され再三再四の災害を受けたる渦中に介在して産業者の苦痛は頗る甚大なり、此場合物質的團結のみの効果を急がずして、精神的團結の力を作り恒久の策を建て共存共榮の實を擧る爲に根底の堅實を計るべき時期に在る

六、役員の變遷及特に盡力したる役職員の略歴

丸橋忠平、明治三十七年六月より明治四十一年一月迄理事に就任す

角田忠三郎、明治三十七年六月より明治四十一年一月迄及明治四十四年一月より大正九年四月迄理事に就任す

小池甚三郎、明治三十七年六月より明治四十一年一月迄理事に就任し、大正二年一月より大正十年四月迄監事に就任す

高橋勘十郎、明治三十七年六月より明治四十二年一月迄監事に就任す

小池此八、明治三十七年六月より明治四十二年一月迄監

事に就任す

小林初太郎、明治三十七年六月より明治四十四年一月迄監

事に就任し明治四十一年一月より理事に就任し現在

丸橋春倭、明治四十一年一月より理事に就任し現在

小池甚一郎、明治四十一年一月より明治四十四年一月迄理

事に就任し明治四十四年一月より大正二年一月迄及大正

十年四月より昭和三年三月迄監事に就任す

菅谷勘三郎、明治四十一年一月より理事に就任し現在

申村直吉、明治四十二年一月より大正二年一月迄監事に就

任す

小林竹重郎、明治四十二年一月より明治四十四年一月迄監

事に就任す

高橋榮三郎、明治四十二年五月より明治四十四年一月迄理

事に就任し明治四十四年一月より大正二年一月迄監事に

就任す

堀込壽作、明治四十二年五月より大正九年四月迄及び昭和

四年四月より理事に就任し現在

篠原徳重、明治四十二年五月より大正十五年四月迄理事に

就任し大正十五年四月より昭和四年四月迄監事に就任す

春原昌平、明治四十二年五月より理事に就任し現在

田中良作、明治四十二年五月より大正二年一月迄監事に就

任す

山崎安彌、明治四十二年五月より昭和四年四月迄監事に就

任す

日野太七、大正二年一月より昭和四年四月迄監事に就任す

上原銀平、大正二年一月より大正八年四月迄監事に就任す

脇屋新次郎、大正二年一月より大正六年四月迄監事に就任

す

片貝文次郎、大正五年九月より昭和四年四月迄理事に就任

す

水出喜市、大正五年九月より大正十五年四月迄理事に就任

す

高橋友吉、大正五年九月より理事に就任し現在

す

小林文次郎、大正五年九月より昭和四年四月迄理事に就任

す

竹淵豐、大正五年九月より大正六年四月迄理事に就任す

丸橋春吉、大正五年九月より大正六年四月迄理事に就任し

大正六年四月より大正十三年十一月迄監事に就任す

一場登、大正六年四月より大正九年四月迄理事に就任す

西山茂市郎、大正六年四月より昭和三年四月迄理事に就任

す

小泉定平、大正八年四月より大正九年三月迄監事に就任す

中井俊一、大正九年四月より昭和四年四月迄理事に就任す

朝比奈仙吉、大正九年四月より理事に就任し現在

野口馬吉 大正九年四月より大正九年七月迄理事に就任す
 小泉源三郎 大正九年四月より大正十一年八月迄監事に就任し大正十一年八月より理事に就任し現在
 樋田喜三郎 大正九年七月より大正十一年五月迄理事に就任す
 高山彌作 大正十年七月より大正十一年五月迄理事に就任す
 豊田彌滿作 大正十一年八月より大正十五年四月迄監事に就任す
 小林儀一 大正十四年四月より昭和四年四月迄監事に就任す
 浅見安喜 大正十五年四月より理事となり現在
 角田喜市 大正十五年四月より理事となり現在
 田中松太郎 昭和三年四月より昭和四年四月迄理事に就任し昭和四年四月より監事となり現任
 萩原宗 昭和三年四月より監事となり現任
 小林孫平 昭和四年四月より理事となり現任
 小林久一郎 昭和四年四月より理事となり現任
 湯淺政郎 昭和四年四月より理事となり現任
 渡近太郎 昭和四年四月より監事となり現任
 富澤實十郎 昭和四年四月より監事となり現任
 田村鐵五郎 昭和四年四月より監事となり現任

○功勞ありたる役職員の略歴
 堀込壽作 慶應二年大字郷原に産れ農業に従事し岩島村收入役より現助役に就職す
 本組合を諒解し組合員擴張及組合普及に盡力す
 松井庄藏 文久三年大字郷原に産れ農業經營に専念せり
 本組合検査人として十七年繼續從事し熱心なり
 中曾根儀三郎 明治七年大字三島に産れ農業に従事し熱心家なり
 本組合協議員にして組合員擴張善化に努む
 篠原喜藏 慶應三年大字三島に産れ篤農家なり
 組合精神を諒得し熱心なる組合共鳴者として努力す
 丸橋寅作 明治十一年大字三島に産れ農家なり
 本組合大麻検査人として十七年間繼續熱心公平に勤務せり
 春原昌平 明治十一年大字岩下に産れ農家業に熱心なり
 本組合理事として經營を助け組合員擴張及組合精神普及に努力す
 山崎安彌 明治六年大字郷原に産れ農家なり
 本組合監事として就任以來二十餘年一貫して其の職に忠なり
 高橋友吉 明治五年大字三島に産れ篤農家なり
 本組合理事となり組合員善化運動を唱ひ終始一貫盡力せり

り

角田喜市 明治二十七年大字三島に産れ農事に従事し傍り
 本組合事務に従事す
 篠原嘉太郎 明治十五年長野原町に産れ農業に従事す
 本組合組合員擴張と組合精神の普及に盡力す
 朝比奈仙吉 原町大字川戸の人にして農家なり
 本組合組合員擴張及組合事業の援助に盡せり
 小池彌八郎 明治十四年大字三島に産れ農家にして村吏員を勤め模範の聞へあり
 本組合委員として組合精神の普及と事業援助に盡力す
 高橋周八 明治五年大字三島に産れ農家なり
 本組合委員として組合精神の普及と事業援助に盡力す
 石村慎太郎 慶應三年大字三島に産れ本組合委員長として又組合員として組合精神を諒得して努力し殊に製麻業に熱心にして改良に盡せり
 尙原町上原金十郎、川戸關口勝藏、長野原萩原一治、浅見安喜、浅見藤吉、富澤勘治郎、野口馬吉、市村壽萬吉、三島高橋仙市郎の諸氏を始め組合員にて篤志のもの、役員に於て援助をなしたる者尠からず、然れども之を詳記するの餘裕なき爲後日之を發表する事とし、省略するを以て之を諒とせられん事を附記す
 七、經營方法の變遷及特色並に經營設備の概要

明治三十七年五月創立者二十七名を以て設立したる本組合は、事務所を組合長丸橋忠平の宅に置き事務員としては忠平の家族丸橋春俊之に従事し、必要ある時に農閑を利用して執務し來りたるが、明治四十四年より毎日事務を執るに至り同年より従来の購買事業の外に本村特産たる大麻の共同販賣を開始し其の格付方法を定め本郡大麻販賣上に一大革新を示せり、大正二年四月大字三島三千五百六十五ノ一番地に事務所を新設し獨立して事務を執るに至れり、同年九月事務員を専任して當置する事となり、又農業倉庫は大正八年七月其筋の認可を経て事業を開始し大正十四年四月一日より大字矢倉に從たる事務所を設け事務員を置き電話を架設し購買販賣の事業を擴張する準備をなしたり
 又大正五年信用事業をも兼營せる結果一面非常なる利便なりと雖も其の反面に於て資金運用上に警戒を要するも大正八、九年以來財界の大變動に遇ひ其の影響を被り貸付方法に欠陥を來したる點を免れず今や其の回復を計るに苦心をなすあり、此際組合員は組合の既往の經營に鑑み役員と一致して其の擁護復活をなし其の使命の完美を計らざる可らず
 八、本組合の受けたる賞状は左の如し

○大 麻

- 一、大正五年十一月十二日群馬縣副業品手工藝品展覽會に於て一等賞を受領す
- 一、大正六年十一月十八日同第二回副業品手工藝品展覽會に於て一等賞を受領す
- 一、大正十三年十一月二十七日群馬縣園藝協會主催第二回農産物共進會に於て特等賞を受領
- 一、大正十四年二月二十三日日本産業協會主催全國副業展覽會に於て二等賞を受領す
- 一、大正十五年十月七日全國土産品展覽會へ大麻吾妻錦を出品し一等賞を受領す
- 一、昭和二年十一月二十三日群馬縣園藝協會主催第五回農産物共進會に於て特等賞を受領す
- 一、昭和三年十一月二十五日奉祝御即位吾妻郡物産共進會に於て二等賞を受領す

○粕

- 一、大正八年三月二十三日吾妻郡副業展覽會に於て三等賞を受領す

○荷 繩

- 一、昭和三年十一月三日埼玉縣主催關東府縣聯合副業共進會に於て三等賞銅牌を受領す

大正十一年七月十日

平和記念東京博覽會總裁大勳位功二級

載 仁 親 王

平和記念東京博覽會會長

東京府知事從三位勳三等 宇 佐 美 勝 夫

全國副業展覽會賞狀

群馬縣

有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合

一、大麻

二等賞

審査官農林技師從七位 内 海 一 雄

審査長農林技師正七位 見 坊 兼 光

右審査長ノ薦告ヲ領シ之ヲ授與ス

大正十四年十二月二十三日

日本産業協會副總裁

從三位勳一等男爵 平 山 成 信

賞 狀

群馬縣

有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合

荷 繩

三等賞

○蕎 麥 粉

- 一、大正十五年十月七日全國土産品展覽會に於て三等賞を受領す
- 一、昭和三年十一月十四日御大典記念全國土産品展覽會に於て一等賞を受領す

○産業組合販賣事業經營方法書

- 一、大正十一年七月十日平和記念東京博覽會に於て褒賞を受領す

○賞狀ノ寫左ノ如シ

群馬縣

吾妻麻信用販賣購買組合長 丸 橋 春 倭

事業成績

從五位勳六等 難 波 五 百 磨

從五位勳六等 佐 藤 寬 次

從四位勳四等 有 働 良 夫

從四位勳三等 伊 藤 悌 藏

從四位勳三等 月 田 藤 三 郎

從四位勳二等 横 井 時 敬

審査部長從二位勳一等 平 山 成 信

審査總長從二位勳一等 平 山 成 信

審査ノ成績ニ依リ前記ノ褒賞ヲ授與ス

審査官 農林省囑託正六位勳五等 葛 浦 治 太 郎

審査官 農林省囑託正四位勳四等 林 學 博 士 三 村 鐘 三 郎

審査官 農林技師正七位 内 海 一 雄

審査長 農林技師正六位 見 坊 兼 光

右審査長ノ薦告ニ依リ之ヲ授與ス

昭和三年十一月三日

埼玉縣主催關東府縣聯合副業共進會

會長埼玉縣知事正五位勳四等 宮 脇 梅 吉

褒 狀

一、蕎麥粉

岩 島 村

吾妻麻信用購買販賣利用組合

一等賞

審査長 正六位勳六等 塚 越 萬 平

審査ノ成績ニ依リ前記ノ褒賞ヲ授與ス

昭和三年十一月十四日

御大典記念全國土産品展覽會總裁

從四位勳四等男爵 大 森 佳 一

御大典記念全國土産品展覽會會長

江 原 桂 三 郎

吾妻郡副業品展覽會褒狀

吾妻郡岩島村

岩島麻組合

參等賞

審査長群馬縣農會技師 多胡覺朗

右審査長ノ薦告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

大正八年三月二十三日

群馬縣農會長從四位勳三等 中川 友次郎

金

言

悪しきとして一切に其人を捨つべからず、去年悪しくとも今年善き事あらば、其善きを取りて先きの悪しきを捨つべし、兎角前非を悔いて善に進むやう引立つべし(徳川家康公)

吾妻麻組合大麻改良品評會概要

本組合は明治四十四年販賣事業を經營し、本郡特産物たる組合の聲價を全國に紹介せむが爲め、大麻改良品評會を開催し、品質の統一を計り且つ又栽培方法、乾込、管理、加工上の技術等の改良を計らむが爲め、大正元年より之が開始を始めた次第であります。審査上の要項は左の通りの標準を以てす。

五二

- 一、色合一定、色合ノ整一ハ最モ必要ナル條件ニシテ不整ナル製品ハ不備ノ點アルヲ免レズ
- 二、光澤、光澤ノ有ル無シハ品質ノ良否及用途ニ及ボス影響亦大ナリ、管理ノ如何モ之ニ現ル
- 三、引、即チ力量ニシテ、之レ最モ大麻ノ必要條件ナリ、用途ニ及ボス利害モ之ニ因テ別ルト謂フモ過言ニ非ザルナリ
- 四、裂ケ、引ト共ニ用途ニ及ボス利害大ナレバ之ヲ條件トセリ、加之管理、加工ノ巧拙モ之ニ依テ、略ボ斷定ヲ下スコトヲ得レバナリ
- 五、性質、大麻ノ收穫ハ第一其ノ莖幹ノ良否ニアリ、故ニ莖幹ノ良好ヲ計ルニハ栽培宜シキヲ得ルヲ要ス、爲ニ此ノ條件ヲ設クルモノトス
- 六、刈取、刈取ノ時季ノ早晚ハ製麻ニ至大ナル影響ヲ來シ製成品ノ優劣及收買ニモ化及スルモノナレバ條件トナセリ
- 七、乾込、乾込トハ日光乾燥ニシテ、乾込不良ハ製品ニ優劣ヲ來スコト至大ナリ、又用途ニモ非常ナル影響ヲ蒙ルガ故ニ之レ又重大ナル要件ニシテ、夜干、雨濕等ハ殊ニ注目スルモノトス
- 八、管理、温床ノ加減ハ剥皮ノ時期ヲ適當ニシテ、剥皮ノ大手ナルヲ避ケ、其ノ宜敷ヲ得ルハ製成品ニ優良ナル結果

果ヲ得、之ニ反スル時ハ惡結果ヲ來ス故ニ此點ハ特ニ注意スベキ大要件ナリトス

九、加工、加工ノ如何ハ加工者ノ手腕ニ在ルト雖モ、用途ニ於テ完全ナラシムル様、裂ケヲ良ク光澤ヲ出スハ技術ノ巧拙ニ依ルモノナレドモ又製成品ノ優劣モ加工ニ依テ大ナル差ヲ見ルニ至ルヲ以テ一ノ條件トナセリ

左に各年度の出品點數及授賞者を參考の爲め列記せん。

●大正元年度 出品點數、百三十五點
優等賞 (六) 點

- | | |
|------------|-------|
| 一角田喜市 | 篠原藤次郎 |
| 丸橋藤太郎 | 加邊伊太郎 |
| 高橋嘉喜太 | 高橋照三郎 |
| 一等賞 (二十三點) | |
| 小池嘉太郎 | 高橋仙市郎 |
| 小上原太治郎 | 高橋樂次郎 |
| 小池佐傳治 | 石村金藏 |
| 丸橋富五郎 | 丸橋寅作 |
| 高橋友吉 | 高橋龜次郎 |
| 高橋傳三郎 | 高橋茅二 |
| 高橋勝太郎 | 石村市作 |
| 上原此八 | 丸橋直八 |
| 上原銀平 | 武井利馬造 |

- | | |
|------------|-------|
| 高橋元一郎 | 高橋治三郎 |
| 小池豐太郎 | 高橋祥重郎 |
| 小池福太郎 | |
| 二等賞 (二十五點) | |
| 小池兼八 | 上原淺五郎 |
| 高橋杉造 | 小林初太郎 |
| 高橋福次郎 | 高橋勘三郎 |
| 春原昌平 | 高橋慶次郎 |
| 石村禎太郎 | 高橋房次郎 |
| 上原與五郎 | 高橋庄藏 |
| 山口梅松 | 松井庄藏 |
| 中會根玉三郎 | 山口玉八 |
| 丸橋庄吉 | 上原清十郎 |
| 丸橋圓重郎 | 堀込茂樹 |
| 浦野圓重郎 | 根津久三郎 |
| 山崎安彌 | 篠原德重 |
| 丸橋市太郎 | 橋爪歌次郎 |
| 關馬五郎 | |
| 三等賞 (三十七點) | |
| 四等賞 (二十五點) | |

●大正四年度 出品點數、百〇三點
一等賞 (六) 點
篠原藤次郎 角田喜市

篠原鐵五郎
高橋千代太
丸橋春俊

二等賞 (十點)

田中爲治郎
小林泰助
佐藤山平
角田定八
小池仲太郎

三等賞 (十三點)

加邊伊太郎
小池一郎
高橋保一
高橋松茂利
高橋幸作
高橋貞二
丸橋廣造

西山里次外十九名
日野太七外二十七名

●大正十一年度 出品點數 百七十八點
本年度は各區域毎に等級を附し、其の内より三點を特別賞として選抜したるにあり
特別賞 (三點)

丸橋直八
石村長作
高橋祥重郎

一等賞 (十三點)

郷原木暮寅一郎
岩下片貝英一
三西篠原榮次郎
林渡寅次郎
三東高橋龜次郎
同片貝丑之助
川戸宮崎丑十郎

二等賞 (二十七點)

郷原石坂徳次郎
岩下日野良太郎
三東浦野富重郎
三東角田伊三郎
三東上原此八
岩下山野芳松
三東高橋友吉
三西篠原喜藏
三東高橋仙市郎
三東高橋儀作
川戸兒玉寅吉

林 篠原熊一
厚田一場啓四郎
林 篠原甚逸
三等賞 (五十三點)

郷原山崎榮太郎
同浦野儀重郎
同山田光太郎
矢倉加藤丑太郎
岩下片貝磯吉
松谷水出重次郎
三西高橋榮作
三東石村源五郎
同高橋公治
同同傳作
同同仙三郎
三西小林茂四郎
三東小池重太郎
同角田喜市
三東高橋嘉喜太
同小池兼八
同丸橋春俊
同石村善作

三西田中林八郎
三東小池甚一郎
厚田竹淵伊三郎
川戸關口嘉十郎
同關口勝藏
林小林新太郎
林市村壽萬吉
坂上佐藤茂作
原町上原金十郎

●大正十三年度 出品點數 七十六點
優等賞 (三點)

高橋力松
高橋儀作
一等賞 (五點)

片貝英一
石村長作
朝比奈春藏
二等賞 (八點)

角田喜市
小池仲太郎
小池里五郎
中曾根儀三郎

三等賞 (十一點)

- 木暮寅一郎 加藤丑太郎
- 篠原喜藏 小池宇吉
- 片貝磯吉 小池豊太郎
- 丸橋寅作 高橋仙市郎
- 朝比奈九藏 高橋半三郎
- 高橋福次郎

●大正十四年度 出品點數 五十七點

- 優等賞 (二點) 高橋公治
- 一等賞 (四點) 丸橋直八
- 高橋仙市郎 高橋力松
- 高橋傳三郎
- 二等賞 (六點) 加邊萬平
- 角田喜市 高橋友吉
- 加藤丑太郎 篠原喜藏
- 角田德太郎
- 三等賞 (八點) 小林泰助
- 片貝磯吉 丸橋政次郎
- 朝比奈春藏 丸橋勝十郎
- 高橋保一

丸橋寅作 高橋半三郎

- 四等賞 朝比奈九藏外十四名
- 優等賞 (一點) 丸橋直八
- 一等賞 (一點) 高橋公治
- 二等賞 (三點) 高橋祥壽
- 小池林三郎
- 小池里五郎
- 三等賞 (六點) 湯淺安治郎
- 角田喜市 高橋保一
- 高橋儀作 兒玉寅吉
- 高橋友吉

●大正十五年度 出品點數 四十二點

- 優等賞 (一點) 丸橋和吉
- 一等賞 (三點) 丸橋政次郎
- 石村重平
- 丸橋重芳
- 三等賞 (六點) 高橋政十郎
- 朝比奈三郎次 高橋友吉
- 角田喜市

□昭和二年度 出品點數 四十一點

- 優等賞 (一點) 角田芳男
- 一等賞 (一點) 丸橋和吉
- 二等賞 (三點) 丸橋政次郎
- 石村重平
- 丸橋重芳
- 三等賞 (六點) 高橋政十郎
- 朝比奈三郎次 高橋友吉
- 角田喜市

高橋公治 高橋勝太郎

□昭和三年度 出品點數 二十八點

- 一等賞 (一點) 丸橋和吉
- 二等賞 角田芳男 小林初太郎
- 三等賞 宮崎乙巳 丸橋寅作
- 篠原稔 湯淺富太郎
- 四等賞 丸橋政次郎外六名

大麻栽培實驗談

吾妻麻組合員 角田喜市

本邦特産物たる優良大麻を生産するには、俗に「一穀、二ねど、三が挽く」と云ふ諺がある通り私の實驗せし條件を左に掲げよう

- 一、化學肥料及大豆粕等を多量に使用すべからず右肥料を過度に施すときは伸び過ぎたり、又本の方が太く、末の方が細く徳利形の麻となり、尙纖維が粗硬とる恐れあり
- 二、早朝に蒔付するは不可なり
- 麻の蒔付は太陽の昇りて畑地の温りたる時分より始むるを良しとす、朝早く冷えたる地に蒔く時は、麻の成育不

揃となればなり

- 三、採收には幹の中央部を良く採擇すべし 採收に際しては上、中、下、太麻に丁寧に撰別して、幹の中央部最良の箇所を採擇すべし、然らざるときは、根元方の纖維厚く又末の方非常に薄く不良品なる恐れあり故に一穀と云ひて第一の條件は此の採擇にあり
- 四、煮沸前の麻は日光に曝すな 煮沸前に畑にて日光に乾燥するときは、精麻の色澤不良となる
- 五、麻に夜干は最も禁物なり 煮沸當時の二、三日の内の夜干は最も禁物なり何んとなれば、夜露の爲め腐敗状態を催し、且つ麻殻の色澤を不良にし、管理即ち「ネド」に入れ剥皮の時約半日を早からしめる恐れあり、次に止むを得ざる事情にて夜干を爲さんとする時は略乾燥に近き麻のみとし、二夜を續ける事を避くべし
- 六、干込に注意し充分ならしむべし 麻の干込時は度々白雨の來る事あり、故に可成敏速に取込み濡すことなく、十二日乃至十五日を繰返せば麻殻は光澤を持ち、且つ滑かとなる事疑ひなし
- 七、管理は第二の條件なるを以て特に注意を要す 殻麻を水に浸し、床に積込むときは、枕木と云ひて地上

より一尺乃至一尺五寸位高く横木を置き、末の方を高く堆積するを良しとす

八月中は外温高き時季なれば一日三回水を與へ九、十月は一日二回を普通とすれ共、十月下旬は外温非常に下る事ある時は水の温りたる時期に一回の水を與へて堆積し可成り温き様の處置を取るべし

剥皮の時期は外皮に粘氣を生じ剥皮せる麻殻の根元より半分位白きを最良の程度とす、剥皮の方法は大手にせず寧ろ小手なるを良しとす

八、加工の技術を向上せよ

剥皮せる剥麻は朝のものは其の日の中に、夕方ものは翌日午前中と云ふ様に、可成り剥麻を長く置くは精麻の品質を粗悪ならしむる恐れあれば特に注意を要す

加工上の技術としては、同剥麻にて一連十圓乃至二十圓位の差がありますから、お互に加工の技術を研究して、優良品の生産に心掛けませう

次に私が吾妻麻組合より視察に廻りました時心付た點を申しますれば、一般に手数を掛けて優良品を生産する者は非常に少く、只手数を省いて多量に製産するもの多きこと、一般に管理不行届の爲め俗に「ネスギ」の剥麻が多く且つ又大手剥きの物が多い様に見受けました
右の様な次第でありますから、家の麻は上等だと云ふて、

◇麻はまだ五尺に足らし青嵐

七月下旬より八月月上旬に亘り麻の刈取期に望み最も大切な天候を案じて

◇照りよはる空に麻刈急ぎけり

刈り取りたる生麻は其の日の夜業に煮る明日の日和を空に見つゝ

◇生麻煮る人やよく見る天の川

煮たる麻快晴に干すのである

◇蜻蛉飛ぶ下に干す麻並べけり

製麻したる麻は竹竿に掛け乾かす折柄風襲来し麻に吹く

◇竿干の麻に光るや秋の風

出来上りたる麻を見て

◇世に誇る吾妻錦や柿の里

製麻の出盛りを各地より商人來郡するを

◇買ひ競ふ麻商人や秋の暮

最後の句に

◇ほまれをば尙輝かせ菊の主

◇蕎麥の句

小 池 水 月

次に麻を刈り取り空き畑に八月中旬蕎麥を蒔きつけ九月中旬白き花を開き十一月始に刈る

組合に委託し検査の通知を見たら、意外に等級が悪いと云ふ様な愚痴を洩す方がたまありますが「ネスギ」した麻を大手に割きて粗製するから、仕方がないのであります、斯様な譯ですから能く注意し、且つ研究改良して本郡特産物たるの聲價を全國に擧げ様ではないか

末筆として、需用者及買入に御來村下さる御客様に、御願ひいたしたい事項を左に述べます

目下各生産者を巡廻して買付をなすに當りまして、各生産者が汗の結晶とも云ふべき努力に努力を重ねて、精選したる大麻と、比較的放任主義で粗製したる大麻との値段に、大差なく買入を爲す様に思はれますが、前者に對しては麻の改良、發達に努力した報酬の意味に於て、相當値段に買入を願ひします、後者に對しては今迄比較的高値に賣買して居るので、誰も誰も粗製を希望し、之が爲め一般に大麻の改良を妨げ品質も劣等となりましたが故に努力の結晶をお買入なさる様願ひします

◇製麻順序の句

其 日 庵 水 月

四月上旬梅花の散る折柄播種の實況を見て

◇散る花を蒔き込む麻の畑かな

五月下旬より六月上旬麻の成育繁茂せるを

◇山間に蜂飼家や蕎麥の花

刈り取りたる蕎麥は之れを粉にして各地へ罐詰として販賣する此味格別である

◇此味は又格別よ吾妻をば

蕎麥を引き抜きたる殻を蕎麥糠と云ふ最も枕に適し此糠を用ひて製造したる糠枕は頭に馴染具合がよいのである

◇長き夜や頭に馴染む糠枕

◇麻 殻 の 句

大麻の皮をはぐ其心を麻殻と云ひ真白なものでありよく風除の垣等に使用す

◇風や麻殻垣で圍ふ庵

曲りたる麻殻又は一時使用せる麻殻はカイロ灰に爲し吾妻灰として各地に販賣す

◇炬燵より温み具合や吾妻灰

吾妻郡温泉、名勝、古蹟の紹介

●總 説

吾妻郡は群馬縣の西北隅山紫水明の境に位し、中之條、原町、長野原町、草津の四ヶ町と太田、東、岩島、坂上、嬭戀、六合、澤田、伊勢、名久田、高山の十ヶ村より成り、東は小野子、子持の二山を以て利根、群馬の二郡に隣り、

南は榛名山、淺間山を控へて碓氷群馬の二郡及長野縣に對し西は鳥居峠、四阿、萬座、白根の連峰を恃たて長野縣に接し北は池の嶺、岩窪、大倉、稻裏の峻嶺を並べて長野、新潟の二縣に界し東經百三十八度二十分より同百三十九度零分に亘り北緯三十六度四十六分に延び東西凡十五里南北凡十里廣袤約八十九方里人口六萬二千を有す

四境既に斯の如くなれば坦々たる平地極めて鮮く東方小野子山下榛名山裾野の盡くる處、吾妻川に沿ふて少かに關東平野に開通せり支脈の主なるもの二あり曰く暮坂峠山脈、大洞山脈之れなり、一は郡の北境稻裏山附近より起りて南走し蜿蜒吾妻川の北岸に達し須川及び山田川兩流域の分水界をなし北の一は郡の南端鼻曲山より派出して北走し淺間隱笹戸山等を聯ねて大洞山となり直に吾妻川に墜りて暮坂峠山脈と相對峙す、暮坂峠の險路は前者にして須賀尾峠は後者なり、此兩山脈によりて本郡の地勢は自ら東西二部に區劃せられ暮坂の峻、須賀尾の難、及び道陸神の狹谷によつて兩郡の交通路に供せらるゝのみ、従つて人情風俗自ら東西其趣を異にするものあり、而して道陸神の狹谷は所謂上州耶馬溪の絶勝地にして奇石怪巖突兀として水に墜り水を遮り或は激し或は澗み急湍となり碧淵となり轟々地軸を震ひ兩岸巖頭の高松老杉鬱々として蔭愈々暗く幽邃清絶響ふべからず。吾妻川は源を郡の西端鳥居峠の近傍に發し清

りて製品の改善を計れり、製糸業又郡内殆んど普及す

◎ 温 泉

吾妻は温泉郡なり、人文の發達も多くは温泉に依りて開けたり、温泉場として客室を設け業を營むもののみ數ふるも十二箇所、其他微温泉にして薬分を含むもの、湧出は到る處にあり

◎ 草 泉 温 泉

東京より西北四十五里、海拔四千五百尺の白根山の半腹に六百餘の戸數を有し、大小の旅館は方形の熱湖を圍みて四周に櫛比し料理店雜貨舖其他相交りて市街を爲す、西は白根山聳々東南は廣漠たる山野を隔て、吾妻、萬座、池の嶺岩壁の諸岩蜿蜒四隅に亘り遶かに淺間の噴煙を望む、眼界廣茫爽快なり、地層に含著せる幾多の藥的礦物の温泉の爲めに溶解せられ湧出するもの限りなく汲上げの湯と稱する熱湖より白旗の湯、熱の湯、鷲の湯、地藏の湯等は湧泉各其質を異にす、その賽の河原と呼ぶ溪間の如きは悉く温泉にして溪流十數條蒸汽濛々として立ち淵となり瀧となり徒渉すべからざる河流を造り壯觀比なし、此地は温泉の蒸汽中に遊離硫酸を含むが爲めに蚊蠅の發生を許さず又極暑も華氏八十度を越ゆること稀なれば夏を知らぬ仙境と世に稱

波森々郡の南部を西より東に貫流し萬座川、温川、須川、山田川、名久田川、沼尾川等の支流を容れて群馬郡に入り遂に利根川に合す流程約二十一里、急流奔湍舟楫の便なく僅に筏を流し得るのみ、これ奇景絶勝たる所以なり中流に於て草津硫酸泉の末流たる須川を併せてよりは全く魚族の棲息を許さず。湖沼には大なるもの無く六合村の北端北信境上に近く野反沼あり周圍一里餘、鯉鮒等の魚族を産す又鴨獵に名あり、草津温泉より行程三里一日の散策に適す、其末流は北境の溪澗を流下して、越後に入り中津川となりて信濃川に合す、榛名山中にあり周圍一里餘其一部は群馬郡に屬し伊香保に近きが爲め世に著明なり。東村中之條町、原町、岩島村、長野原町、嬭懸村は吾妻川に沿ひ、六合村、草津町は須川に沿ひ、坂上村は温川に沿ひ、澤田村、伊參村は山田川に沿ひ、名久田村、高山村は名久田川に沿ふ。温泉に富みたるは全國に貫比を見ず、草津、四萬、澤渡、川原湯等各其獨特の效驗を有し且閑雅幽勝の仙境たるを以て夏期に至れば浴客内外より蟬集す

郡の産業は養蠶最も盛んにして、林業又之に次ぐ各町村の地勢風土の關係により、産業状態又同じからず、長野原以西は牧畜盛んにして、昔より良馬を産し、岩島村を中心として大麻を産し、名久田、伊參よりは近時蒟蒻の生産盛なり、製炭業は孰れの町村にも普及せられ、木炭同業組合あり

せらる

温泉の發見は日本武尊東夷征伐の歸途と傳ふ後ち養老年間僧行基の曳鐸に因りて世に知られ建久四年八月源頼朝の三原狩に依りて偶然來りて入浴せるより漸く醫治的効能を稱せらるゝに至れり

草津温泉の附近勝地頗る多し

▲ 嬭懸瀑、常布瀑、圍山、脱武具沼、小蓋池、噴火口の大熱湖、獅子巖、賽の河原、薬師が岡、琴平山、地獄谷、泣き燈籠等十二を數ふることなれり

◎ 澤 渡 温 泉

中之條町より四萬温泉への街道を進むこと一里にして岐かれて左に入るの途あり、澤渡を経て草津への街道なり、四萬道と分かれてより又進むこと一里餘、四五十棟の屋舎一團となりて傾斜せる山の半腹に在るものあり、澤渡温泉これなり、背後は秋葉山聳々裾に蛇野川流るゝ前面に對立するは有笠山と名つけ之に連なりて暮坂峠山脈起る、温泉地は海拔二千三百尺土地高燥にして空氣清澄加ふるに冬季は比較的温暖なるが故に四時浴客を絶たず、温泉の發見は何の時代なりしか詳かならず源頼朝三原狩の際來たりて入浴せりと口碑に傳ふ梶原源太景季の歌なりといふ『梓弓日も暮坂につきぬれば有笠山をさして急がん』の一首當年の紀

念として人口に膾炙す、温泉は無色透明なる鹽類泉にして硫化水素臭を含む温度は華氏の百二十度なれば程よき加減なるべく、特に發汗を誘ひ食欲を進め血行を善くし呼吸を活潑ならしむるの効能ある爲めに知られ識らず飽食するやうの事あり此温泉は皮膚病を治するに速効あるを以て草津浴客の歸途必ず此處に兩三日の入浴を爲し而て糜爛を治するを慣とするに依り温泉は區劃を設けて草津歸りの浴客と其他とは浴槽を異にし兩者の便宜を計れり

維新前高野長英遺がれて此温泉に來り久しく閑居したり其當時刀圭家某あり大に長英の人格を尊敬し自ら師事して厚遇を極め以て志士を慰むる事多かりしとぞ長英の書簡其他の文書等今猶ほ秘藏するものあり佐久間象山もまた來遊せしことありといふ此地は高燥にして空氣清く又展望によりしき勝地として數ふるものもまた多し

▲澤渡神社、藥師堂、寺社原の桃、天神山公園、蛇野川

▲不動瀑、西十五丁餘老杉數丁に列なる間を入れれば巉巖絶壁の下一堂宇のあるあり、不動尊を安置す猶少しく進めば飛沫百五十尺半天に懸るあり

たちやらで雲かと思ればさゝれ石の大岩瀑のたきつしらなみ

◎鹿澤温泉

礪懸村と長野縣と境する地蔵峠より僅に十丁餘を下りし大字田代村の地内にあり、吾妻山より淺間へ連なる連脈の少かに伏して來れる小在池山の頂上近きを以て海拔實に四千六百四十尺の高さにして海内無双の高地温泉なりとす、發見は年代詳かならずと雖も孝徳天皇白雉元年なりと石碑に貽れり、勝景として擧るもの八あり

▲地蔵峠、湯尻川、棧敷山、藥師堂、湯の丸山、小在池山の神、芳ヶ平

◎新鹿澤温泉

沿革 鹿澤温泉は孝徳天皇の白雉元年の發見なりと言ひ傳へてある、天明年間に全土焼失し、又大正七年二月には一物をも餘さず焦土と化して終つたのは見る者をして酸鼻を覺へしむる慘害であつた、それに就ては居住者は兎も角浴客に一日も平安を與ふることが覺束ないといふは捨て置らく可くで無いと悟り、此慘厄を機會に湧出口より約一里を隔りたる「女鹿淵」に地を相して温泉を誘導し「王湯」を移し大正八年十一月三日開場式を擧げるまでには非常なる努力を費したのである。

地質と氣候 此女鹿淵の地は一帯の火山層で緩やかなる傾斜をなしてある故に汚水等の滯溜するやうのことなれば従つて蚊の發生も無く保健上申分の無い衛生適地であ

る。目を放せば近く鳥居峠より吾妻、萬座、白根を右方に

籠の塔、鍋蓋を左方に村上山を隔て、背後に淺間山頂よりの噴煙が眺めらるる春より夏は蕨、薇、山躑躅、藤等が野邊一面に趣を添へ秋の紅葉は千草の色まで錦を染め冬の積雪は一面の鏡と化りて「スキー」の練習には又となき適好地である。

効能 胃病、臍病、神經衰弱等には特効神の如しと稱せらる、癩と梅毒とは禁忌症として昔より入浴を嚴禁してゐる。

空氣療法 土地高燥で氣壓が低いから、脚氣や心臟病、血の道の婦人などは温泉へ浴せずとも此處に起臥したのみで効能がある、又日光浴等にもよろしい。

名物 何といふても蕎麥の味は深山でなければ舌鼓が打たれぬ、鹿澤の蕎麥は壽命が延びるやうな美味である、鶉、ヤマメ、片栗粉は土地の名産食膳には信州の上田より牛でも鳥でも鮮魚でも自由に得られる。

滞在費 宿料 一泊壹圓五拾錢より貳圓中食七拾錢より壹圓、室料 自炊式、座敷、夜具、薪炭油合計して一日壹圓より壹圓五拾錢此の外に浴錢として一日一人五錢宛鑛泉取締所へ支拂ふこと

◎川原湯温泉

この温泉嬉し尊し世の人の身をも心も健にして

從二位 福 羽 美 靜

温泉の由緒 仁治二年の往昔より其温泉の靈効を世に知られ、建久二年四月源頼朝の淺間狩の折に入浴せるところと口碑に傳はり、古典的の面白い傳説もあります。

川原湯温泉 湧出口は三個所ある、其の一は王湯、笹湯の共同湯と各旅館へ引用するもの、一は虎湯と呼び敬業館の邸内より湧出するもの、これは敬業館の専用であつて泉質も異つてゐる、淺間噴火前には其處に「宇の梵刹があつたので「てらの湯」と呼びたりとも傳ふ、他の二個所は目の湯とて少許の湧出して眼病を洗ふ。

温泉の効能 (温度華氏百六十一度)胃病、リウマチス、子宮病、月經不順、關節諸病、貧血、消化不良、神經痛、痛風、腸胃加答兒、子宮カタル、神經衰弱、小兒蟲腹一切(虎湯は火傷切創に効あり)

交通 東京から約六時間でお着になります。上野驛から上越南線の水上行きに乗りますと、澁川驛前に川原湯温泉往復の乗合自動車が発車するやうになつて居ります、信越線は高崎で兩毛線は新前橋で乗り替へるのであります、自動車は澁川から川原湯まで二時間で到着いたしますから御道中の景趣は誠に面白いのであります。

通信機關 川原湯郵便局で電信電話の事務を扱ひます。

娯樂場 大弓場、射的、テニスコート、公園。
 土産物 湯の香饅頭、蜂蜜羊羹、わさびづけ、椎茸等。
 滞在費 旅館式と自炊式とあります、一般に最も簡便なるは自炊式であります、自炊式といふても少しも手数はありません、各所持の女中があつて、一切のお仕度をいたします。一日臺圓五拾錢から貳圓五拾錢まであります、旅館式は宿のお見繕ひでお食事を遊ばすもの、自炊式はお好みの品を女中にこしらへさせて召上られるもの、つまりお客様方のお嗜好からわらひだすのであります。

◎湯の平温泉

位置と風景 吾妻川の一支流たる須川の溪谷を群馬縣吾妻郡長野原町より約二里、上越の國境山脈に向つて溯つたところが即ち湯の平温泉であります。温泉湯の背後には上信越三國の國境を劃する岩管、白砂の連峰が波の如く聳えその山波の間を縫つて或は奔湍となり、或ひは深淵となり峨々たる山骨や落々たる奇巖に激して流れるのが須川の峽谷で、温泉場はこの峽谷の中でも最も風景の勝れた場所に位置してゐるのであります。

沿革と現況 この湯の平温泉は現在の經營者である劍持金次郎が発見したものです。大正十年十二月二十日、以來多大の苦心を経て温泉場經營の工事に着手し、同十三年六

で、學生諸君の御勉強には最も適して居ります。

◎應徳温泉

位置、吾妻郡六合村大字入山、吾妻川の一支流たる須川の沿岸にあり
 沿革、古來浴場、客室等の整ひあり浴客も多かりしが明治三十一年の秋大洪水に襲はれ建物全部を流失し湧出口も不明となり其の儘なりしが昭和二年に至り湧出口の再発見と共に浴場、旅舎の再築をなしたり、未だ再興淺かりしにも拘はらず前年に於て壹千餘名の浴客あり前途有望と見られつゝあり

効能 ネブツ、梅毒、皮膚病一切、婦人病一切に特効あり
 交通 上越南線澁川驛に下車し自動車にて長野原町に至り夫れより二里半にて着く、又は信越線輕井澤驛に下車し草津電鐵にて草津町に至り夫れより一里馬の便あり以上の二途最も便利なり

◎四萬温泉

四萬は東京を距る七十六哩、群馬縣吾妻郡澤田村の宇山口新湯、日向見を總稱したもので、海拔二千五百尺の高地で、東西北の三方は峰巒を繞らし、南の一角は低く開け、

月完成し今日に至つたもので、山中ながら客室浴場及自家用の發電所を有してゐます。

泉質と効能 無色透明、微弱アルカリ性の反應を呈し石骨性苦味泉で須川の溪流の中より湧出し百二十尺の高所に電力を以て導ひてゐます。

その泉量一時間に百五十餘石、温度は泉源地に於て華氏の百八十二度を示して居ります。
 効能は内用として、脂肪病、常習便秘、逆上、月經閉止期障害、輕度血管硬化症、下腹部臓器の充血痔疾、浴用して慢性リウマチス、神經痛、官能性神經疾病、皮膚病などで特に胃腸病、腦病、尿道炎、婦人病などには卓効があります。

交通 1 信越線輕井澤驛より分岐する草津鐵道の終點、草津驛より一里2 上越線澁川驛下車それより中の條まで電車又は自動車の便があります中の條よりは二途あります、一つは澤渡温泉を経て行く道と、一つは川原湯、長野原町を経て行く道とであります。

旅舎 旅舎は松仙閣といふ、當館は商業主義的經營を離れ、何處までも家族主義により御客様をおもてなし致しますので、氣安く愉快に、何時までも御滞在なさることが出来ます。

因に當館にはテニスコート、水泳場等の設備もありますの

四萬の清流に沿ふて毛武の平野に連り、空氣清澄、溪流水清く、春の花、新緑の夏、秋の紅葉、白妙の冬と四季自然の風光に富んでゐる稀な仙境であります、殊に夏の夕に新湯川の溪流の音律に和して、優しく鳴く河鹿の聲を聞いては三伏の暑さも忘れる程です

◎附近の名勝

澁砥泉、不動の瀧、嘉滿ヶ淵、山口の瀧、偕樂園、滴翠亭水晶山、高野山、楓泉峽、小泉の瀧、讓葉遊園、鷄鳴泉、玉簾の瀧、大泉の瀧、飛白の瀧、布引瀧、摩耶の瀧、虎班瀧、蠟石山、蝦蟇の瀧、小倉の瀧、神仙の瀧等の名勝に富み殊に明治四十四年國寶に指定されたる日向見樂師は、日向見温泉の傍に在りて、日向山定光寺と云ひ、四萬切つての最古の建築物であります、寶物としては左甚五郎作の額面や佛像がある、又此の地は蕎麥が名所で、日向見そばと云つて有名です

◎名物

名物として、主なるものは椎茸、舞茸、初茸、獨活、蕨、ぜんまい、栗、鮭、岩班魚、河鹿、挽物細工、木工家具、透彫本立、化臺の類、四萬焼、湯花染、水晶、蠟石、生蕎麥、其他猿、兎、雉子、山鳥等が居ますから瀧にはもつて

來いの所です

○泉質と其眞價

四萬の温泉は、無色無臭透明で、鹹味を帯びた鹽類泉です。そして多分のラヂウムエマナチオンを含んでゐて、温度は華氏の百六十度乃至百八十三度を保つて四季同様であります。効能は入浴内服ともに腸胃の諸症、痲痺質斯等に最も適してゐて、其他慢性皮膚病、脱臼挫傷に依て生じた手足關節の痠痺、神經貧血症、肝臓病、習慣性便秘、痛痛、子宮及陰加答兒、月經不順等に靈効著しい。

○旅 館

旅館は山口に山口館、鍾壽館、三木屋、豊島屋共に宏壯な建物で、客室が百餘室浴室も浴槽、蒸風呂、湯灌、家族風呂と數十室あつて、寫眞暗室、遊戯場の設備も整つて居る。次に新湯には、積善館、賽陵館の二館がある、二百餘の客室に數十室の浴場は何れも最新式の設備をなしてあり、殊に積善館の千人風呂は有名なるものである、鐵道省の温泉案内にある通り「山水の美と相俟つて上毛温泉中の白眉なり」とは全く過言ではない。

久 我 建 通

千々のはる萬の秋もしまつ島

眼界悉く幽寂閑雅の趣あり、温泉附近は溪谷の間山水の見もの極めて多く而して十二三丁を出れば所謂關東耶馬溪の勝地なり松谷の荒神社より足鞍山の梵天帝釋祠を望むの處は南宗畫家の水墨を見るが如く豪磊なる景致を爲せり『駒とめて小手をかざして足鞍の峰より出づる月を見るかな』など口づさめる雅人もありとぞ

◎萬 座 温 泉

嬭戀村大字千俣村の地域内に有り草津温泉とは白根山を隔て、僅に二里、硫黄泉湧出して溪流を造るまでに多量の温泉なり、草津温泉よりすれば遊嶺道を一里芳ヶ平迄至り左に入り白根の噴火口の側を通り弓池に沿ふて行くこと半里にして一直線に下れば十町餘にして達すべし、温泉宿を設けたるは明治四、五年の頃にして其以前は湯の花採收の爲めに假屋を營むもの、許へ米鹽を携へて入浴を爲すに過ぎざりしといふ、白根硫黄精練場の分工場の設けられしより頓に盛況を成し温泉旅館數戸を建設せり、草津温泉よりの道路は白根山噴火口まで泥湯花採收の人馬往復繁ければ深山路ながらも嶮惡ならず噴火口より以下は往年硫黄精練場の荷車軌道布設の路あるを以て之も困難なる道にあらず別に信州山田温泉より通ずる道あり、牛馬の背によりて此處の米鹽雜貨は概ね山田温泉より運ばる道程三里、海拔五千

憂きこと拂ふ出湯こそこれ

福 羽 美 靜

茂りあふ梢はなれて煙たつ

しまの出湯の里のよろしき

井 上 正 直

民草のしける蓬かしまの湯は

老す死なすの藥なるらん

◎川 中 温 泉

一名美人湯と稱す建久四年源頼朝の臣重田四郎なる人病を以て列に除かれ永く此地に留まりて浴療せりといふ、今地名に暮岩、木戸澤、重田屋敷等の名稱残り、温泉は昔達摩山少林寺と稱する禪寺の地内にありしものなりしが其後ち寺院は無住となり本堂のみを存して他は頽廢に任せ旅館のこれに代りて建つものあり慢性リウマチス、皮膚病、火傷、淋疾、子宮及び陰の慢性加答兒、胃病、肺氣症に奇効ありと稱へられて入浴者四時絶ゆるなし温度低きが故に長時間を槽中に要するを常とす、此湯に浴すれば皮膚を白色ならしめ共に滑かならしむるとて美人湯の名起れりといふ地は岩島村大字松谷雁ヶ澤の畔より右に入れば僅に十二丁にて達すべし、笠置山湯の上山高間山等に圍まれ雁ヶ澤緩く廻りて涼々の響ある邊に旅館と浴室あり、寺院の跡とて

百八十尺全山草木無く硫氣到る處に昇騰す、萬座殺生、鈴湯の二箇所は深溪の岩間より數百條の硫氣立ち昇るの奇觀あり、丑池、欄間瀑、傘岩、等の勝地もあり、胃、リウマチスに特效ありといふ又殺生の苦湯といふは飲用して胃腸病の痼疾を治すと傳ふ、六月初旬温泉附近の山野に幣軸と稱する筍を生ず、拇指大に過ぎずと雖も其味の美なるは比するものなしと、深山葡萄、甘露梅等野生の菓實と、黒檜、提灯躑躅、柘栲木などは敷けるが如く簇出せり、凄きまでに奇なる別天地なり

◎花 敷 温 泉

花敷温泉、六合村大字入山にあり、温泉は絶壁屏立して溪流を狭む右岸の崖下に湧出す浴槽は天然の岩石なり、春光此處に訪ふとき兩岸の岩躑躅紅葉紫白相交りて一時に咲ひ花影水に映りて宛も花を敷けるが如し之れ温泉の名稱の起る所なりとぞ草津温泉より二里、昔、佐久間象山の試掘せりといふ金銀坑、尻焼温泉、野反池等は浴餘の散策に探勝するを得べし、泉質は無色透明の鹽類泉なり痲痺寸白、子宮病、淋病、産前産後、血の道に効あり土地僻在せるが爲め人情醇朴物價低廉殆ど曆日を譲らざるべき仙境なり

◎鳩 の 湯

坂上村大字本宿温川の流に沿ふて湧出する炭酸泉なり、湧出口二ヶ所あり、往昔一羽の鳩あり岩間の温泉に浴し負傷を治癒せる奇蹟を見て里人温泉の効顯を知り鳩の湯と名けて浴場を設けたりといふ、温泉は貧血、月經不順、血の道等に効あり、鯉、推齒、繭齒、蕎麥等は名物として傳へらる

◎松の湯

岩島村大字松谷川中温泉の路傍にあり温度低く火力を加へざれば浴す可からずと雖も皮疹濕疹、膿疱、挫瘡、鉛毒、水銀中毒等の諸症には大効あり無色透明の硫黄泉にして浴場を營む川中の温泉客は次手に一浴を試むに便なり

◎ヌル湯

名久田村大字大塚にあり中之條町より僅に一里餘りの處なれば遊浴するもの多し温度低き硫黄泉なり浴室は名久田川に沿ふて眺望又悔るべからざるものあり旅館飲食店を兼ねたる浴舎なれば中之條附近散歩の序に一遊するに適す、蛇くひ、火傷、皮膚癬、腫物に効能あり

◎川入温泉

嬭懸村大字門貝萬座川の沿岸にあり温度低く火力を加へて

浴場を營む、婦人の血の道、子宮病等に効あり、松茸、初茸、鯉、蕎麥等の名物あり、嬭懸村は一般に蕎麥の風味佳なれども特に門貝の蕎麥を第一とす

◎浅間山

本郡と信濃國北佐久郡の間に盤踞する大活火山にして標高二千五百米突、山勢峙立して四圍の諸山を壓し最も雄俊とす、近年夏季に至れば登山探勝するもの甚だ多し

◎白根山

草津温泉の西に在り標高二千餘米突、淺間に次ける活火山とす登攀容易にして風光の稱すべきもの尠からず且つ火山の研究には最も便利なるを以て毎年夏時に至れば登山するもの甚だ多し

◎岩井洞

澁川より中之條町に通ずる街道中小野上村と中之條町と境界相接する處山峰皆石壁聳横臥千態萬狀蒼樹紅葉點綴して奇觀を極む一怪巖の邊に佛堂あり故に泛稱して岩井堂と云ふ又洞と號す吾妻郡の峽中を扼せる關門にして景勝の美、行人をして自ら杖を停めて仰視せしむ、堂宇は藤原季長の創建なりといふ

◎萬座山

白根山の西信州との國境にありて信州にては高井山と稱す標高二千餘米突、古は噴火せしことありしならん、今は死火山とす、麓に温泉場あり萬座湯といふ

◎六里ヶ原——三原野

淺間山の裾野を六里ヶ原と稱し、白根山の裾野を三原野と呼ぶ、一望際涯なき高原なり

◎野反池

六合村大字入山にあり周圍一里榛名湖と伯仲す、池中温泉の湧出あり爲めに嚴寒池面の氷結厚からず點々結水を見ざる所あり魚屬多く雁鴨の類群集す、其水溢れて越後に入り中津川となる

◎稻裏山

上信越の國境に當る高峰にして三國峠の西に連なる標高千六百餘米突なり

◎四阿山

吾妻屋山とも書し又吾妻山ともいふ鳥居峠の北にある高峰

にして齊整せる圓錐形にして舊火口おり標高二千三百六十米突なり

◎千人窟

坂上村大字大戸にある大なる洞窟なり三百餘の石階雲梯を登るが如く其盡くる處即ち窟とす東南に面し高さ二十尺窟口徑百尺、奥に深さ百五十尺中央に石像の觀音菩薩、左右の岩頭には十六羅漢を安置す光景悽蒼として草木自ら昔を偲ばしむ

◎舊蹟

◎鳥居嶺

嬭懸村より長野縣小縣郡に超ゆる長野街道の國境なり、石造の華表あり和銅元年の建立に係る此頂に立てば展望瀾大にして東に關東の平野を一望し西に越山信水を指呼すべし日本武命の遺蹟として名あるの地なり

◎岩櫃城趾

原町の西岩櫃山に在り吾妻氏の遺墟とす

◎伊參城墟

中之條町大字伊勢町字伊參にあり東西百間南北八十三間、廢廓遺濠其跡尋ぬべし延暦年間伊參笹戸之に居れりと云ひ或は伊參左衛門の居城なりとも云ふ

○植栗城墟

太田村大字植栗の北方にあり植栗安藝守の居りし所といふ現に同村北部字殿前に植栗安藝守と誌せる石碑あり

○尻高城趾

高山村大字尻高にあり今玉泉寺に尻高左馬介義隆の墓あり

○中山城趾

高山村大字中山の中央にあり

○嵩山古城墟

伊參村大字五反田の東方にあり岩石嶮々として自然の要害を爲す嵩山は中之條町の北に聳ゆる岩山にして奇岩怪石甚だ多く且つ眺望最も宜しきを以て近年學生の修學旅行其他登山するもの多し

○羽根尾城趾

長野原町大字羽根尾に在り濠渠の跡なほ存す羽根尾氏の居

りの所なり

○稻荷城趾

原町大字原町の西北字稻荷城に在り文明中（凡そ四百三十年前）大野主膳正の居りし所と云ふ

○舊邸跡

原町字御殿顯徳寺の西に在り元和の頃より眞田氏陣營を造りて一郡を統轄したる所にして寛文中其館邸を顯徳寺に賜ふといふ

○寄居城趾

東村大字箱島村の西北隅にあり

○根古屋城趾

岩島村大字三島の西方字根古屋にあり土俗鐵塚といふ往昔江見氏之に居り後浦野氏住せりと云ふ天正年中廢城す

○大笹關趾

嬭懸村大字大笹の西南にあり長野街道にして東を下馬門とし北を北門とす礎礎存せり

○手古丸城墟

坂上村大字大戸の東にあり大戸氏の居城なりしと云ふ

○尻高三河守の塚

名久田村大字平字菅田に古墳あり高二間坪數五、圓錐形をなし横に口あり先年刀劍佛堂等を掘出したり

○大戸關趾及忠治地藏

坂上村大字大戸にあり往昔は高崎より本郡を経て信濃に通ずる要路なりしが爲め幕命に依りて關所を設く、大戸村に土豪加部安左衛門あり上州の三分限の一と稱せらる近く物故せる俳豪加部琴堂は其の裔なり、天保の頃俠客國定忠次捕史を逃れて此關を通過す、後ち赤城山砦に中風を患ひて半身不隨となり遂に捕はる罪の最も重きものを大戸の關破りとす爲めに送られて關の南端の溪間に於て磔刑に處せらる里人之を弔ふて一個の佛體を石に刻みて其磔刑場に建つ世に大戸の忠次地藏と稱し參詣の賽者の爲に香煙の絶る事なし

◎神社佛閣

○吾妻神社

名久田村大字横尾にある郷社なり、元と和利の宮と稱ふ、名久田川に臨み岸頭に老松古杉空を掩ふて神寂び境内幽玄に殿宇古りたり今は名久田全村と其附近の神社を合併して吾妻神社と改稱す

○鳥頭神社

岩島村大字矢倉にあり、岩櫃城主吾妻太郎の守護神として崇敬して祭れるものなりと云ふ社前に桶形をなせる巨杉の枯株あり周圍四十尺高さ十五尺其の洞中更に一巨杉を生じ周圍十數尺なるあり、神代杉といふ

○古賀良神社

坂上村大字大戸、榛名連峰の一なる古賀良山上にあり

○狩宿神社

長野原町大字應桑字狩宿にあり建久の昔、源頼朝三原野に狩せる際宿營せる地と云ふ

○養蠶神社

草津街道中の長野原町より吾妻川を隔て、對岸與喜屋村に

あり、古く猫石明神と稱し鼠除けの神徳ありとなし信仰するもの頗る多し、近く村社となり養蠶神社と改稱す

○玉城山神社

みこしろやま神社と訓む長野原町大字林にあり

○甲波宿彌神社

東村大字箱島に在り

○白根神社

草津温泉園山の丘陵にあり、本社は白根山の絶頂に在りて此處に祭れるは遙拜所なりしが明治六年郷社となる

○白山神社

太田村大字岩井にあり

○吾嬬神社

澤田村大字山田にあり

○諏訪神社

坂上村大字須賀尾にあり

○熊野神社

嬬懸村大字門貝にあり、崇神天皇の御宇兩毛は皇子豊城入彦尊の任地たりし時建立せられしものと傳ふ

○吉岡神社

坂上村大字本宿にあり後鳥羽天皇の御宇建立せるものと傳へ元は藥師如來を奉置し俗に吉岡の藥師と稱へ其緣日たる四月八日は遠近より參詣するもの極めて多かりし、近く大己貴命を祀りて吉岡神社と稱す

○中山神社

高山村大字中山にあり

○柴宮神社

中之條町大字西中之條にあり

○松谷神社

岩島村大字松谷にあり俗に松谷の荒神と稱し春季養蠶發生前は參詣人甚だ多し社殿は吾妻川に臨みて風景最も好し

○菅原神社

岩島村大字岩下にあり、建永年間京都北野天滿宮を勧請して奉祀せるものなりと云ふ

○鳥頭神社

岩島村大字三島にあり、村社にして古杉古樹境内に充ち、鎮守として尊敬の中心となる

○林昌寺

中之條町大字伊勢町にあり本郡第一の巨刹にして本堂庫裡の大なるは勿論山門鐘樓禪堂等の結構田家稀なる有祿の大地なりとす曹洞宗に屬し一千體佛を安置す

○善導寺

原町大字原町に在り淨土宗なり、寺内に小祠を建て、吾妻太郎行盛の靈を祭る

○長福寺

太田村大字岩井にあり吾妻氏祖先の菩提寺にして由緒深き寺とす

○雲林寺

長野原町大字長野原町に在り曹洞宗なり

○常林寺

長野原町大字應桑に在り曹洞宗にして檀徒千戸を有し郡中屈指の巨刹なり

○光泉寺

草津温泉場に在り眞言宗なり

○應永寺

岩島村大字岩下に在り曹洞宗にして巨刹なり岩櫃城主吾妻氏應永年間之を創建せり輪奐の美亦た林昌寺に譲らず

○宗泉寺

長野原町大字羽根尾にあり羽尾能登守幸全の創建せるものなりと云ふ

○清見寺

中之條にあり淨土宗にして眞田氏が本郡を領するの時廢寺を再興せるものなり奥澤の渡船場に臨み榛名の連峰を望む又老櫻樹あり景致豊かなり

○顯徳寺

原町大字原町にあり境内に聖徳太子の作と稱する佛像を安置す、観音堂と呼び信仰する者多しといふ

○大 運 寺

坂上村大字大戸にあり千人窟より一連の巖礁屏立せるを負ひ風光賞すべき名刹なり

○三 福 寺

坂上村大字大柏木にあり天保年間原町善導寺の末寺となる

○法 信 寺

高山村大字中山村にあり慶長年間の創立と云ふ

○林 昌 院

名久田村字平にあり慶長十八年真田氏の建立する處に係る

○淨 清 寺

岩島村大字三島にあり奉故上人の開基なりといふ寺を距る十數町字澤尻に馬頭觀世音あり此觀世音は始め淨清寺の境内にありしを今の地に移せしものと俗に澤尻の觀音と呼びて信徒の參詣多し本尊は慈覺大師の作にして木佛なり

○宗 本 寺

澤田村大字下澤渡にあり、淨土宗にして永祿年間の創建なりと云ふ

○永 林 寺

澤田村大字上澤渡にあり、曹洞宗にして慶長年間、應永寺五世の開山なりと云ふ

●(吾妻古蹟)三十三所觀世音及順禮歌(寛政十年)

一番 (千手) 弘法御作 田中堂 太田村植栗

さしも草菩提のたねをうへくりの

二世安らくといのる身なれ

二番 (十一面) さくら谷戸

つみとかもきへよとおがむさくら堂

末たのもしき御土なるらん

三番 (馬頭) 行基御作 三その

春は花なつはちはな秋はきく

いつもみそのでながめけるかな

四番 (正觀音) くぬき

たれたのむくぬきにたつは正くはうし

みちびきたまへしるもしらぬも

五番 (如意輪)

にこるみも心はきよくいづみさわ

ふかくぞたのむかんせおん哉

六番 (千手)

松かけのいは井の水はふかみとり

うるのなみ風たつはてら澤

七番 (正觀音)

今よりはあらい心をひるかへし

佛をおかむのちよのため

八番

(千手) 行基御作 仙人いはや

よもすからいはやにひくりのころ

ちかいはふかき谷川のをと

九番

(馬頭) 慈覺御作

命もなかきみてらなるらん

十番

(正觀音) 大御堂

ほとけをはいつもみしまとおかむへし

十一番

(千手) いまはねかひにあふみとうかな

十二番

(正觀音) 水はかんろをそくわか身に

むまれこやすへはいくまのくはせおん

まるる人にはりしやうあるへし

十三番 (正觀音)

しやうくのひかりをはなつくはうけんし

あきらかなれややみをはらさん

十四番 (千手)

むらさきのくものうへのにむまるは

心ひとつのうちにこそあれ

十五番 (十一面) 車堂

かとのほかいそきてのりのくるまとう

くわたくのうちときにつけても

十六番 あけ星山 たらかいと

くらきよりくらきにれとあけほしの

月もろとも山もかやく

十七番 (正觀音) 白石澤

心をは白しさわてあらへた

ふかきねかひにさはりあるみを

○おなしくゆみねよこ堂

人のみにくすりとならんゆのみねへ

参る心にくるしみもなし

十八番 (正觀音)

一ねんにみたをねかへよさいせんじ

むりやうのつみもきへうせぬへし

十九番 (千手) すかた
すかたには月のかけさすしらつゆに
いつも心をみかくたまふち

澤田村下澤渡

七六

二十番 (馬頭) みどり谷戸
みとうには大ひおうこのうすかすみ
たなひくかけにほとけ三ぞん

同 四萬

二十一番 (正観音) 慈覺御作 寺社平
神ほとけたちならびたる寺社平
この世あの世をまもりたまへや

同

二十二番 (十一面) まわり堂
おいのみもねかひをかけよまわり堂
にしのみやこへひよくたきつほ

伊参村五反田

二十三番 (千手) わり堂
にこらしなきよきはべのくわんせ音
わりのみ山のちかひたのもし

同村

二十四番 (馬頭) いはさき
をかけにはなりたか原のさしも草
いはさきにあふのりの花かな

西中之條

二十五番 (馬頭)
あさひより夕日かやくちやうくはうし
みたらせ川にかけそうつらん

澤田村折田

二十六番 (正観音) 山崎
みたるせ川にかけそうつらん

西中之條

をとは山さきそめけるかさくら花

のちのほたいのたねとなるらん

二十七番 (如意輪) 弘法御作

伊勢町

ひろくしてちかひはふかきかいぞうじ

ふしきのなみのたぬ日もなし

二十八番 (十一面)

中之條町青山

ひとすじに参りておかむ圓つうじ

心みたすなむねのしらいと

二十九番 (馬頭)

名久田村横尾

人ことに高かき頼のねかひをは

もせとねかひのちの世迄も

三十番 (如意輪) たかす

同

観音のゑひはあらたかすゑとけて

思ふ願ひのかなはぬはなし

三十一番 (正観音) あらいた

蟻川

わけ入てうきみのあかをあらいたの

大ひのちかひふかくあり川

三十二番 (千手) しほ平

同

よる晝の六時さし引しほ平

なみに引れてうかふ願禮

三十三番 (正観音) 大ぼう

名久田村大塚

この世にて菩提の種をうへをけは

みのりの花もひらくのちのよ

○同所

二世迄とかねてねかひしおひすりを

ほたひのてらにぬきをおさむる

◎里程 澤尻より大御堂へ十町、是より岩下へ一里、いくまへ十三町、原町へ一里、うへのへ五町、車堂へ二十五町、寺谷戸へ四町、折田へ十五町、下澤渡へ二十五町、湯原へ十八町、湯の峰へ十八町、白石澤へ十町、御堂谷戸へ一里半、寺社平へ十町、まわり堂へ一里、わり堂へ十町、岩崎へ十三町、山さきへ十五町、伊勢町へ三十町、たかづへ十八町、あらいたへ十八町、しほ平へ五町、大塚へ一里、もせへ一里、青山へ二十町、あら巻へ一里舟わたし、くぬきへ十町、かうじへ三町、さくら谷戸へ十町、楢くりへ十八町、岩井へ十八町、あらるへ一里半、いはやへ一里、澤尻へ三十町、合せて二十里十二町

澤尻観音別當所より出す、願主小池重左衛門

吾妻の秋

石村 秀石

吾妻の秋、かく言ふだけでも詩的情緒は彷彿として湧いて来る。

誰しも秋の吾妻へ足を入れて大氣の清朗なると山水の清廉なるを讚美しない者はないであらう。

數ふるに十ヶ所の温泉あり、十有餘ヶ所の發電所あり。

發電所の數は河川の急流なるを物語り、纏綿たる温泉情緒は喧騒なる社會を離れていやがうへにも人心を和らげる。

眞白う咲き亂れたる蕎麥畑にすだく日最中のコロギには言ひ知れぬ哀情をそゝるであらう。

空はあくまで高く朗らかに、前に吾妻川の清流を控へ、

山容は小さけれども巍々として聳ゆる岩櫃山、その岩石を

眞赤に染めなす紅葉、麓に點々と常盤木の刺繍する様は天

下の奇景を以て鳴る妙義山を聯想するに充分であらう。

畫筆を握る者、寫眞機を有する者の誰しもがカンバスに

彩り、カメラに納めたき慾望にからるゝ。

吾妻川の溪谷は遡るに従つて益々奇に、道路は山の麓を

流れに添つて續く

兩岸は切り削つた如く絶壁をなし、激流岩を嚙み、岸を

洗ふ。

兩岸の紅葉陽に映えて濃く、小さき澤の落合ふ所、水車

小屋のあやふくかゝる様、歌によし、詩によし一幅の畫に

みま欲しきなり。

誰が言ひ初めしかは知らねども關東の耶馬溪の稱!

この溪谷の秋に親しむ者の誰しもが肯定するに異存の無い

言葉であらう、
而して吾妻人の簡潔なる性格もこの清廉なる自然の影響
を受くることが多いのであらう。

嗚呼！、吾妻の秋、溪谷の秋。
謳はん哉、聲高らかに。

吾妻川岸にて

完

天明の淺間山焼出し大變記

春 畝

天明三癸卯年四月九日より焼始め、それより日々に止む事なく灰砂降り、七月四日晚吹出し火石砂五十丈も高く、打揚け火石手まりを取る如く、煙り先に石砂雨の如し、輕井澤、碓氷、坂本、松井田、安中、高崎より武州兒玉郡、榛澤郡三十四里の内灰砂二、三尺碓氷笹ヶ峠は五、六尺降り人馬の通路なく、上下の大小名は甲州迄廻りたりと云ふ、輕井澤は火石の爲三十餘軒焼け、碓氷嶺の社家十四軒石砂の重にて潰し、右の村々山々、諸作物、草木冬山の如し七月七日は別して鳴事強く、土を動し大地震の如くにて戸障子ぐわらぐわらと鳴り、山より北石止り迄其日三度押出し、夕刻に至りたるに上州信州の山々より黒雲淺間山へ布をつる如く、光り物東西へ飛び人の形のごとくなるもの草津の白根、萬座山へ飛たりと云ふ事うたがいなしと人々云ふ、天狗の仕業か外道のなす業ならんとて神社に祭り事なりしとなり

七月八日は朝より合間なく鳴動し、草木迄大風の吹き来る如くに、揺れ涉り神社の石燈籠揺り崩し人々心持悪しく諸佛神に祈誓せし所、四ツ半時、信州木曾の御嶽、戸隠山の邊より光り物淺間山へ飛入りしと見へしより俄に山中鳴動爆發し、泥火石百丈餘高く打揚け青龍紅の舌を巻き、兩眼日月の如く、一時計りは闇の夜にして火石の光り、電百萬の響き、天地崩るゝ如く、火焰空を突ぬき田畑かうめんの場所不殘只一面の泥海の如く何れの畑境是を知らん、老若男女の未死すべき時も來らんと思がけなく命を泥海の藻屑とし、淺間の鬼神地獄へ生ながらの人を進め一時の災難露まほろしき稻妻の消ゆるが如く誠に前代未聞夢の如し、上州吾妻川附き鎌原村を始めとして泥水は村々田畑に泥砂五尺乃至一丈餘を押しめ、其の中に火石在て焼る事三十餘日なり、憐れなる哉吾妻川に附添ふ村々の流死人魂魄残り迷ひて川筋、澤邊にて泣く聲あり毎夜々々の事なれば所々寺

々に於て飯食、淨水をすゝぎ餓鬼道を供養し木塔追善後泣

◎次に吾妻郡内の荒地高及流死者其の他を左に記す

く聲聞えずとなり

村名	石高	荒地石高	流失家屋戸數	流死者數	飢人數	流死馬疋
大笹	二〇八、八七八	一〇〇、〇〇〇	八一	二七	三八五	一〇
大前	一五七、八四八	二四、一六七	四〇	一六〇	一〇五	二九
西久	五一、一〇八	二六、〇〇〇	三一	一〇		
中居	四二、一二〇	三六、〇〇〇	三一	一〇		
赤羽	六二、六五四	三八、五〇五	三三	一四		
今根	一四三、二三八	五七、四九六	二七	四七		
羽石	二五八、八二八	二〇〇、〇〇〇	八四	二七	一二六	三七
立木	一二九、三〇〇	九、三一二	一	一〇二		
勘井	八四、三一五	二五、七〇三	一	八		
坪野	二五二、四七九	二四二、〇〇〇	三三	八	一八六	一八
長原	一九五、四一五	九〇、〇〇〇	一一	一八	一七	三六
林野	一五九、九一三	八、〇〇〇	一一	一八	一七	一八
川畑	一三四、三五七	一〇〇、〇〇〇	三三	四	九七	
横谷	二九二、七三三	六〇、〇〇〇	六	三九	一〇	
松尾	六〇八、二九〇	三七〇、〇〇〇	五	四	一〇	
岩下	一七五、一一三	一〇〇、〇〇〇	四	一	二七	
矢倉	二二二、三一二	二〇、〇〇〇	三	一	一五〇	
郷原	二二二、三一二	二〇、〇〇〇	一	一	一〇八	
原町	九〇二、六五〇	二〇、〇〇〇	二	一		

横川	三原	厚島	川田	金井	岩井	植栗	小泉	新卷	奥田	五丁	箱島	岡崎	市城	青山	平村	伊勢	西之	中之	原之	原組	
壁湯	島田	田島	戸井	井井	栗井	泉澤	卷田	田島	田島	島田	田島	城山	山村	村山	村山	村山	村山	村山	村山	村山	村山
五五、二七五	七一、七〇五	一、一八七、三六八	二一三、七八一	六九四、七〇七	二五〇、二八七	七三七、八七九	七七一、一三三	一四三、二〇四	二〇八、七七七	四三一、五九二	一七二、一七二	二六七、〇〇〇	一五〇、八九四	二二二、〇〇〇	一九九、八八一	四七九、一八七	六四七、九四七	三八七、八六二	七一一、五〇八	三〇八、九一五	四、三〇〇
二〇、〇〇〇	六八、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	八八、五〇一	一〇五、一〇〇	一〇五、一〇〇	四四、七四二	二四、七一八	七六、九九〇	一一、七四七	一〇七、八六〇	五、八八四	一七、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	二、三〇〇	一一〇、四二五	二〇、〇〇〇	一一九、三六五	四、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	四、三〇〇
二四	五六	一六	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一四	一三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九三	一〇五	三八	八一	三八	八一	三八	八一	三八	八一	三八	八一	三八	八一	三八	八一	三八	八一	三八	八一	三八	八一
一三〇	七〇	四三	一八	五	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

與喜	古森	袋倉	芦田	小宿	鎌原
一、二六、三二一	四六、三〇〇	九六、三四一	一六二、五九三	一一三、四九四	三三二、四一三
七〇、〇〇〇	二二、九九〇	四五、五六三	一五一、四九三	九八、二九四	三〇〇、〇〇〇
全減 一〇	全減 一三	全減 一三	同 六〇	同 九三	延命寺 一
一四	一七	一六	一四	一四	四六
一三	一三	一三	一三	一三	九三
一八	一八	一八	一八	一八	一三〇
五	五	五	五	五	一〇

●村石高計、壹萬參千五百五
石五升貳合

内荒地石高計、三千七百四十三石七斗六升八合
 流失家屋計、千〇八十九棟(物置、土藏を含む)
 流死人合計、千三百〇八人
 飢人數合計、千八百五十一名
 流死馬合計、四百五十四疋
 陽氣の不順なりしを左に記す
 一、卯月より度々砂灰降り桑の葉にかゝり水にて洗ひける
 に蠶の毒にもならず、然し世の中爾半吉なり
 一、七月十二日、八月朔日泥降り諸作物草木迄枯れたり稗
 少々實有り
 一、正月元日より鷄羽音なく時をつくる、上州群馬郡三ノ
 倉室田中村、武州兒玉郡渡瀬村の内瀬に九月梨花、橘の

花咲く
 一、十一月群馬郡小野子村本宿山につゝじの花咲く
 一、吾妻郡三原山にて五、六月鹿の鳴聲あり
 一、吾妻郡三島村の内にて麥穂十月出しとなり
 一、武州榛澤郡の内にて十月桑の實なりといふ
 一、七月四月、八月五日の朝日輪紅の如し
 一、出羽奥州にては七月三日の朝日輪二面見たり
 一、上州碓氷郡の内にて柿の花九月開くと云ふ
 右の陽氣不順たる事は土を動かし、煙り日々に雲の如くな
 る故照り薄く土冷ゆる故か、又砂灰降諸作の花實に硫黄、
 砂灰の毒なるか、萬物雨露の施しを得て春夏秋に花咲き實
 のる事天地自然の成す所に陰つよく、陽うすしと見えたり
 世の奢り甚しき故大變天下に此の事を與へんとや

●淺間荒前後の物穀相場左に記す

兩替五貫五百目

- 一、天明三年卯月、白米百に一升五合、大麥一兩に二石三斗、大豆百に一升九合
 - 一、同年九月、白米百に一升、大麥兩に一石四斗八升、大豆百に一升三合、素麵百に三百匁
 - 一、同四年正月、白米百に八合、大麥兩に八斗、大豆百に一升二合、素麵百に二百四十匁
 - 一、同年三月、白米百に四合、大麥兩に四斗四升、大豆百に七合、米糠百に三升、此月最高値なり
 - 一、同年五月よりは徐々と安値となり十月に至りては白米百に一升三合、大麥兩に一石一斗、大豆百に二升となれり
- 凡天地開闢以來の穀高値にて諸人難儀村々飢人飢死其の數知らず、食資の金錢つづき難く葛藤の根、ところの根、木のほや、白いうしひる、蕨の根、松の木の皮、これの木の

皮、蕎麥殼、稗殼の粉其の外一切の糠迄も食物とす、日本四十二箇國の飢饉なり

右記事は其の當時記録せし藏書の内より抜書したるものなり

淺間山は常々恐ろしき山なりと云なしけるに扱こそ砂の降りしに付て

地獄ぞと云ひ降らしたる淺間山

のふ恐ろしや話しにも砂

卯の秋荒石相場後見ればさほどにもあらね共諸作實のりなき故か人々心細く六道に

淺間しや不土より高き石相場

六斗の辻にまよひこそすれ

江戸の浦にうち出で見れば白粥の

米の高値にいきはきれつゝ

本郡ニ於ケル産麻ノ由緒傳説

武井生

往古ニ於テハ我國ハ次第ニ開ケ土地開墾モ増大シ人民モ倍加スルニ從ヒ國々ニ國造縣主ヲ置カレ政ヲ行ハセラル、ト同時ニ又國々ニ一ノ宮ヲ設立セラレ神明尊崇ノ本義ヲ知ラシムルト同時ニ政治ノ裏面タル各種製産ノ業務種子ノ配布等主トシテ、人民生活ノ内容指導ノ任ヲ盡サシメラレタリ

トゾ即上野國一ノ宮ハ甘樂郡ニ置カレ上野一國ノ人々ハ毎年代參テ立テ社地ニ參籠シ拜禮ノ誠ヲ致セリ此ノ際都ヨリハ新シキ米麥ノ種子ハ勿論モロコシ種ガボチヤ種麻種等ノ如キモノヲ茲ニ送附セラレ之レヲ代參人ニ分チテ試作ヲ獎勵セラル代參人ハ又各地ニ持チ歸リテ之レヲ試作シ翌平代

參人ノ參籠スルヤ緩々各地人トモ其ノ結果ヲ語り合ヒ實驗ノ智識ニ資セリトゾ如此シテ各地方ニ麻種ハ分布セラレシト雖適種生存ノ理法ニモレズ長キ年月ノ後當上野國ニハ南(甘樂郡南蛇井村馬山村等)北(吾妻郡三島村岩下村等)ノ二地方ノ名ヲ生ズルニ至レリ而シテ南地方ハヨリ早ク開ケ随ツテ製麻ノ技能モ大ニ進歩セシニヨリ製品ヲ他國ニ賣出スニ至リ問屋モ出來次第他國(主トシテ越中越後)ノ商人モ入り來リ其業大ニ發達セシナリ然ルニ降テ寛文中南ノ地大麻不作ノ事アリ仕入レニ來リシ商人等其品不足ニ狼狽セシカバ當時馬山村ノ大問屋黒岩佐太夫氏一商人ヲ伴ヒ北地方即當村ニ來リシモ其當時北地方ハ製造ノ技術南ニ比シテ大ニ劣リ漸ク現今ノ上等皮麻程度ノモノノミナリキト云フ然ルニ土地ト麻質ニハ非常ナル見込アリケレバ字唐堀丸橋與左衛門宅ニ土地ノ有志ヲ集メ詳細ニ南地方ノ製麻法ヲ講ジ其技ヲ傳ヘラレタリトゾ以來頃ニ北地方ノ製品向上シ兩地方人ノ往來頻繁ヲ加ヘ聲價モ高マリ隨テ商人モ入り込ミ產地モ擴大シ次第ニ産額モ増加シ以テ現今ニ至リシナリトゾ

石村濱吉翁ノ熱心

石村濱吉翁ハ現主榎太郎氏ノ父ナリ翁若年ノ時江戸ニ出テ弓師ノ家ニ奉公セリ其ノ際弓ノ絃線ヲ製スルヲ見ルニ麻糸ノ根本末端ハ切り捨テ只中央ノミ使用セリ從テ中央使用ノ

割合長キ品ハ良質ニシテ高價ナリキ之レ其ノ強靱ノ價值ニ比スルナリキ後年自身大麻ヲ耕作製造スルニ當リ茲ニ鑑ミル處アリ麻幹ニ本中末平均ニ力ヲ保タシムル主旨ニ留意シ耕地ノ整齊種子ノ撰擇肥料ノ混和乾燥ノ施設等到底筆紙ノ盡スベカラザル些細ノ點ニマデ一切十二分ニ吟味シ長キ年月實驗セラレシカバ現主榎太郎氏が製造スルガ如キ優良品ヲ生ズルニ至レリ其ノ他製麻ニ苦心研究セラレシ數多キ人々ニ由ツテ現在吾妻大麻ノ聲價ガ帝國ニ噴々タル所以ノ偶然ニ非ラザルヲ諒セラレタシ

岩嶋八勝 東京 井田秀生

岩櫃山の雲

みね松をうさかたにして岩櫃の

山をつゝめる雲のうさきぬ

鳥頭社頭の神代杉

千はやふる神やうゑしと杉の木に

いまもむかしのあとそとめぬる

應永寺の晚鐘

一日のしはさ正しくすみにして

夕暮つくる寺のかねかな

萬木澤の河鹿

夏の日も青葉しける萬木澤は

かしかの聲のすゝしかりける

川中温泉

川中の出湯にひたりて浮きつ世の

重き病も忘れぬるかな

獅子のろふの瀧

谷におとし子をためすてふ獅子の名に

なりひききたる瀧のおとかな

万年橋

ちよ万年をくらへて岩龜の

背にかけわたす谷川の橋

全國大麻栽培状況調査

長崎縣

(大正十年調査)

- 一、栽培地方名、西彼杵郡、東彼杵郡、北島來郡、壹岐郡、對馬郡
- 二、生産高、一萬三千二百七十九貫
- 三、價格、一萬一千百九十圓
- 四、用途、自家用

栃木縣

(大正九年調査)

- 一、作付反別 三千六百餘町歩
- 二、製麻數量 三十四萬七千四百四十三貫
- 三、製麻價格 百九十八萬六千四百三十七圓也
- 四、荒苧數量 二十四萬八千七百六十八貫
- 五、荒苧價格 六十二萬四千〇一圓也
- 六、用途 軍用品、鼻緒心繩、釣糸、織物用、網、荒苧は疊縱系、荷繩、クデ繩等
- 七、生産地 河内郡、上都賀郡、下都賀郡、鹽谷郡、安蘇郡、那須郡

宮城縣

(大正十年調査)

- 一、生産高 七千八百六十三貫目
 - 二、價格 七千七百一十一圓也
 - 三、用途 自家用
 - 四、生産地方名 刈田郡、柴田郡、名取郡、加美郡、玉造郡、栗泉郡、登米郡、桃生郡
- 其他新潟、青森縣、秋田縣、廣島縣等の栽培地あり

澤尻馬頭觀世音沿革史

本郡岩島村大字三島に、往古眞言宗派に屬する普門寺と云ふ小寺あり、御本尊馬頭觀世音を澤尻に安置したりと云ふ。天正元年右普門寺々號を改めると共に、當寺境内に在る大御堂觀世音の奥の院となし、該寺住職代々別當となれり。澤尻馬頭觀世音は五穀豐穰、養蠶倍盛、家内安全の効顯著しきを以て、近郷近在の老若男女の參詣多く、緣日は一月十四日、四月十八日、十月十八日、十二月十八日の四季にて、季節々々の露店非常に多く、雜踏を極めり。同觀世音境内に弘法水とて、靈驗著しき靈水あり次に當村淨清寺秘藏の由緒書を記さん

三島村淨清寺並澤尻馬頭觀世音由緒覺書

一、淨清寺事往古は眞言宗にて號普門寺と、少寺にて本

子持岩の初蟬

こもち岩ふところ深き若葉かけ

うぶ聲あけて初蟬のなく

岩嶋村の豊けきを見て

里人の飾る錦もあやしまし

麻のこすゑの花とおもへは

どと逸

淨瑠璃と麻の本場の三島の郷へ

一寸一度は來てめされ

源水

尊も當分澤尻に立せ給ふ、馬頭觀世音にて御座候處にて

天正元年に四戸一場氏開基にて、右の普門寺を淨土宗

門に相改め、則三島山淨清寺洞用院と山號寺號院號相

改め其時より本尊阿彌陀如來を立來り候、其節淨清寺

住寺に可然僧も無之長老に、滿蓮社行譽奉故和尙開山

にて代々淨土宗淨清寺相續仕來り候

右の馬頭觀世音は、寺中大御堂觀世音の奥院に立置敬

禮秘藏致來り候所に何様の禪御座候哉、他へ御渡り被

遊中絶殘意至極に御座候處に、當寺へ御縁深く御座候

故、淨清寺八代證譽和尙代々當寺へ御移り被遊夫よ

り淨清寺代々別當と相極り候

右開基の且那一場氏も高橋と改り候へ共、根元一場の

家より高橋相續任來候へば、開基と申は高橋氏子孫に

て候

右の旨趣元祿十三辰年 御公儀様並に本寺原町善導

寺へも致書上候、其節本寺善導寺二十一代高譽上人代

にて候、爲末々覺書如此御座候以上

元文二年丁巳八月

三島山淨清寺十一代

横譽貴雲上人代改之

岩櫃城史

信長記に、吾妻の城は國の要害岩櫃の如くなるを以て城廓となせり、依りて昔より吾妻の城廓を岩櫃の城といへり、其要害堅固なること、先づ南方は榛名富士ヶ嶽、硯ヶ岩、烏帽子岩、梓の峰高く聳ゆ、西は無限雪の白峰見え、北は越後の三國坂あり、東は赤城子持の嶺、利根の長流あり、駿河に久能、甲斐に岩戸、上野は吾妻、此三箇所の外に籠城の要害地形之なしとかや

城主に吾妻太郎藤原行盛、同大郎助亮、同四郎助光、庄司進藤原行家、庄司助藤原行重、其子太郎行盛、齋藤太郎憲行、其子齋藤越前守行連、其子同行弘、其子齋藤太郎基國と相續して、稻荷城、河戸、岩櫃等の三箇所に居住す。家臣に岩山大輔重安、平澤大膳宗忠、就中秋間刑部が末孫に、秋間兄弟は比類なき大將なり

吾妻の城は、山嶽自然の城廓にして、岩石高く巖嶮と聳え、左右は谿谷底を知らず、絶頂には四時白雪あり、本朝無類の名城と古來云ひ傳ふ、櫃口の要害、門は大盤石の備盾なり、通路狭く一騎打の切所なり

建久年中鎌倉の右大將源頼朝公、淺間御狩の節當城を御覽あり。岩櫃山なりと仰せられしより名となりしと云ふ、其以前は高嶺山と申傳ふ、其節稻荷城主吾妻太郎助亮(元久の頃より當城へ移る)御案内仕り、舊跡の御物語しけるに鷹川といふ所あり、右大將家梶原平三景時を召して、此所

は鷹川と云ふければ、雉は棲むまじきかと仰せありける時景時御答に取あへず信濃なる鶴川にだにも鮎は棲む、鷹川とても雉子も棲までは、と申しければ、御氣色麗しく御狩ありしと云ひ傳ふ、太郎助亮は、右大將頼朝公の御前にて弓の手柄ありしとなん

貞和五年五月二十五日、尊氏將軍の時、岩櫃の城主吾妻太郎藤原行盛、家臣秋間刑部貞勝とてありけり、時に里見が逆心を企て、數度合戦に及ぶ處に終に行盛、貞勝を失ひ討死す、其場所は立石河原なり、此時行盛運命是迄なりと思詰め、川戸の切岸に飛登り、自ら頭を掻切りて投ぜしかば川戸の岸に飛去り、今の頭宮明神是なり

貞和五年に碓氷郡の住人里見氏と領地を論じ、戦負けて亡び、七、八年を経て延文年中に行盛の嫡子齋藤太郎憲行父の敵里見氏を討つて再び歸任すと云ふ、上杉の幕下なりとかや、延文より二百餘年を経て代々相續し、齋藤越前守に至りて、永祿年間に武田信玄に亡ざると云ふ

(小品文)

吾が里の初秋 其日庵水月

川を挟んだ兩岸には、板葺茅葺の家が點々と並んでゐる、盛夏も麻の風に涼しきよい里である、デイノと頻り鳴く蟬の聲も何處へか消えうせて、早くも草叢の虫の音慕しきシーズンとなつたさの家を尋ねても製麻加工に精勵して

温泉情緒

四萬の歌

與謝野 寛

居る、養蜂は蕎麥の花から盛んに通ふて居る、稻も穂が出揃ふて厄日も無事に過ぎ、村々では鎮守の祭りが訪はれて來た

桐の葉を誘ふた秋風は日毎に音づれて、邊りを次第に寂しくする

夜毎におきまさる白露は美しく秋の千草を染めて野山を飾る、月は澄み、天は高くなり、百舌鳥は柿の梢に來ては鳴く、眞赤に染めた夕日は、次第に薄らきて山里は入あいの鐘と伴に、靜となつて暮れた。秋の暮お寺の鐘の遅速かな

あゝ麻に名高い吾が模範村の秋 完

○吾妻ノ三開發

- (1) 吾妻郡中之條より長野縣上田市に通ずる縣道を時の縣會議員野口茂四郎氏の努力に依り開鑿せらる、該工事中には關東耶馬溪と稱せらる奇巖狹谷の難所もある
- (2) 信越線輕井澤驛より上州草津温泉に通ずる草津鐵道を黒岩忠四郎氏の努力に依り開通せり、本工事は高原に鐵路を敷設の大事である。
- (3) 吾妻郡中最も人に知られざりし六合村の原始人の住める仙境に湯の平温泉を劍持金次郎氏の終生の事業として開發せし事以上の三事業を指して吾妻の三開發と稱せらる

岩根にも谷の底にも湯の噴ける
煙の上のあかつきの橋
紫にわかき並木が蔭つくる
四萬の岡なるよき小路かな
月見橋こゝに來りて人間も
月も泉も融け合へるかな
あかつきは皮を着んとも思ふかな
水晶を採る山の涼しさ
夏の日の四萬の山路けはしきも
汗うち流し人行き通る
浴室の窓を閉づればしめやかに
泣く聲となる四萬の谷水
山かけの重なる上に月ありて
四萬の川原のましろき夕
うち動き流るゝ相を傳へたる
楓泉峽の碧色の玉

與謝野 晶子

つぎくゞに狭霧の瀧の波の黓

いとゆるやかに解けて入る瀧

天雲の厚きところは日向見の

淵の深さに通ひたらし

夜明くればいつしか蟬にけをさるゝ

日向見川の水の音かな

わつかなる菱形を置く空なれど

あてに明け行く四萬の奥かな

椎の木の早瀬のなかに流れずて

われを倚らしむ四萬の奥山

大空に新湯の町の灯かけをば

覗く星あり旅人のごと

城の垣うつる心地に眞白けれ

四萬の流れの水底の石

四萬の山むら雲はれて澄月の

かけもすゞしき峰の松風

足曳の病いゆとてかみつけの

四萬の出湯に来る人多き

四萬の湯の龍宮といふ浴房の

與謝野晶子

サアサヨイトサノ夢の町

ヤアレモンダノ

ヨイトコリヤセ

つもる思ひと

草津の雪はよ

とけるあとから

花が咲く

浅間風に

木萱もなびくよ

草津戀しと

いふてなびく

草津戀しや

白根の山の

雪の消え間の

お駒草

笑顔すゞしや

草津のかへり

袖に湯花の

うちにかくれてわが思ふ夢

井上圓了

山行車脚緩

數里涉岩根

鳥護溪頭路

馬嘶雲外村

風生林影動

雨歇水聲喧

四萬如何處

望中日欲暮

川原湯、雜詠

上野のみ山の奥に湧きいで、

から國までも匂ふ虎の湯

川原湯の一二三の瀧は瀬をはやみ

先間をそゞぐ浪の白糸

ゆあみすと人にはいひてみ山路の

あかぬながめに日数へにけり

僅かなる竹藪なれと勢は

千里も響く虎の名湯

あつさ白根の

涼しい風に

トロリ見ました

葦の夢

夏も涼しい

草津の里に

鳴くようぐひす

ほととぎす

つきぬ思ひよ

浅間の煙よ

なぜか草津が

忘れぬ

時雨はら／＼

草津の宿で

ひとりねて聞く

湯もみうた

○草津湯もみ唄

香がのころ

朝の湯けむり

ゆうべの湯霧ヨイトサノサ

草津ア湯の町

相馬御風

八東

順阿

稲丸

教照

虎の湯碑

八東

順阿

稲丸

教照

虎の湯碑

八東

順阿

稲丸

教照

虎の湯碑

八東

順阿

稲丸

教照

虎の湯碑

八東

順阿

稲丸

教照

虎の湯碑

八東

順阿

稲丸

教照

虎の湯碑

八東

順阿

稲丸

教照

虎の湯碑

草津よいとこ里へのみやけ

袖に湯花の香がのこる

主のかり寝に手枕近く

聞くようぐひすほととぎす

草津戀しやあの湯煙に

浮いた姿が目に残る

忘れしやんすな草津の道を

南浅間で西白根

草津よいとこ白根のふもと

暑さ知らずの風が吹く

草津よいとこ一度はをいで

お湯の中にも花がさく

川原湯の歌

井上 圓了

吾妻川上試吟遊 雲巖岩容奇更幽

看盡關東耶馬溪 湯煙凝處宿仙樓

若山 牧水

岩山のせまりたがりて落ち合へる

峽の底心を水たきち流れる

夕さむき日ざしとなりてかけりたる

岩かけの溪の藍は深けれ

せまり合ふ岩のほさきの觸れむとし

相觸れれがたし青き淵の上に

湯の客や濡れ手拭に露の薫

湯煙りの中に聲あり不如歸

涼しさや瀧の沫に揺るゝ髪

長々と川一筋や雪の朝

桃白し赤し温泉宿の右左

春雨や朝湯上りの脛の艶

伊達巻の女あぶなし岩つゝじ

櫻谷 安歩 世外 松翠 千鶴 一翠 美田

◎吾妻名産凍豆腐【名物紹介】

天然の寒氣を利用して、山村の天産物に加工し、一は以て天與の福利増進を計り、一は以て農村勤勞を慣致すべく、數年前より長野原町に於ては、其の産出する大豆の利用法につき研究を進めつゝありしが、其の地方の實行家たる川原畑中島達三郎氏等の熱心なる努力によりて、漸次其の手法に着手せられたるは、大豆を以て豆腐を製造し、之を冬期間の氣候を利用して、凍豆腐となす事を計劃し、地方名産として世に稱せらるゝに至りぬ、長野原町の有志者は茲に結束して同業者の糾合をし、組合長には其地方名望家に於て熱心なる淺見安喜氏を擧げ大に其の事業の進展に努め群馬縣農會及吾妻郡農會の指導獎勵と相俟つて著しき發達

をなしたり而して其の凍豆腐は温泉土産として又た地方の家庭用として四時の副食物となり食膳を賑しつゝあり、今其の特長とする所を記せば

○本品は滋養食料にして而かも美味貯藏に適し携帯に便なる事

○すべての家庭に應用して一般煮物用より吸物の種又は肉類と共に煮て風味格別なり

尙調理法としては

○調理前タンサン水或はソーダ水に浸し後湯湯を注ぎ吸水したる時吸水の約半分を搾り一般煮物同様に調理するものとす

當吾妻凍豆腐組合にて販賣する凍豆腐は土産用は箱入とし包装して『寒梅』と銘を附して販賣する工場は天津に佐久良組あり、林に共和會あり、熱心に製造をなす

販路は、前橋、高崎、横須賀、を主とし、又草津温泉にて土産品として其の名を知られて居る

創業日淺きも年産額約六千圓に達せり、更に年を重ね研究を遂げ品質の向上と販路の擴張を計り本郡特産物として大に期待さるゝものである

◎吾妻名産の木工

吾妻郡原町の人、山口治郎氏は郡副業の開發と郡天産物た

る山林の特種樹を利用し、民福の事業を起さんとの素志を以て、多年木工の講習會を開かれ幾多の傳習生を出し、年と共に其の進歩を加へ近時温泉土産として又東京市場への販路をも開きて大なる發展をなしつゝあり

◎吾妻の蒟蒻生産と販賣組合

本郡に於ける蒟蒻の栽培は、大正十年以後の事なるが、僅々十年に足らざるに長足の發達を來したるは、郡内に適地の存在せると、斯業に熱心なる有力家が犠牲的努力を惜しまざりし賜なりと云はざるべからず

最近の生産高は、百駄以上に達すべく年々増加の傾向にあるれば、急速度の發達を來し、近く本郡重要物産として數ふるに至るべし

郎氏常に誠意を以て事務を執り當事者の指導宜しき爲逐年成績良好に信用を高めつゝあるは欣ぶべき事なり

◎麻殻利用の懷爐灰

本郡岩島村大字矢倉、片貝文次郎氏の經營に成る懷爐灰は其の需用非常に多く、本工場を矢倉に置き、分工場を東京府下三河嶋に置いて常時之を製造し、需用に充たすに吸々として尙之れ足らざるの盛況を呈せり
懷爐灰の原料は、大麻の皮を剥ぎて残れる幹殻と以て、之に利用するものにて、之が爲に廢物利用となる額は莫大な

る金額に達すると云ふ

◎「吾妻そば」の製出

吾妻麻組合は昭和二年の冬より新しき試みとして同郡特産麻の跡作へ栽培する蕎麥を利用して、新式發動機による製粉器にて精粉を作り純良なる粉を作り土産用、家庭として箱入、罐入にて發賣し温泉客、及贈答品に使用せられつゝあるが年増に販路を擴張せられつゝあり、産額は組合員中にて六百石を有すれば前途有望なりと云ふべし

○群馬縣農事委託試驗

吾妻郡岩島村試作地 (明治四十一年)

大麻肥料試驗、前年來ノ繼續試驗ニシテ大麻ヲ栽培スルニ適當ナル肥料、種類及用量ヲ知ラントスルモノニシテ第一區(堆肥四百三十八貫目、人糞尿九十六貫目、米糠十二貫八百目、菜種粕六貫四百目施用)第二區(堆肥四百三十八貫目、人糞尿九十六貫目、大豆粕八貫目、過燐酸石灰三百五百目、施用)第三區(堆肥四百三十八貫目、人糞尿九十六貫目、大豆粕二十八貫目、過燐酸石灰十貫目、木灰四貫目施用)トナセリ而シテ其成績製麻量ノ最多キハ第三區ニシテ第一區之ニ次キ第一區最モ劣レリ然レトモ收支ノ言算ニ於テハ第二區最モ有利ニシテ第三區之ニ次キ第一區最モ劣レルコト前年ノ成績ト相一致セリ

第一、大麻肥料試驗 (四十二年)

本試驗ノ目的ハ大麻ヲ栽培セルニ適當ナル肥料ノ種類及其量ヲ知ラントスルニアリ

一、位置「吾妻郡岩島村大字三島」
一、試作人 吾妻郡岩島村

丸橋 忠平

區號	肥料名	反當用量	施用			所含三要素		
			敷	打	法	窒素	磷	酸加里
一	堆肥	四六、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	—	一六、〇〇〇	二、一九	一、一三	二、七五
	人糞	九、〇〇〇	—	—	五、一〇〇	〇、五七	〇、二二	〇、五九
	米種	一三、八〇〇	—	—	二、八〇〇	〇、二六	〇、四八	〇、七九
計	糞尿肥	六、四〇〇	—	—	六、四〇〇	〇、二四	〇、二三	〇、〇九
二	堆肥	四六、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	—	一六、〇〇〇	二、一九	一、一三	二、七五
	人糞	九、〇〇〇	—	—	五、一〇〇	〇、五七	〇、二二	〇、五九
	大豆	八、〇〇〇	—	—	一、六〇〇	〇、五八	〇、一四	〇、二九
計	過燐酸石灰	三、五〇〇	—	—	三、五〇〇	〇、五三	—	〇、一〇
三	堆肥	四六、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	—	一六、〇〇〇	二、一九	一、一三	二、七五
	人糞	九、〇〇〇	—	—	五、一〇〇	〇、五七	〇、二二	〇、五九
	大豆	二八、〇〇〇	—	—	一、八〇〇	〇、五八	〇、二四	〇、七〇
計	木燐酸石灰	四、〇〇〇	—	—	四、〇〇〇	—	—	—

備考 右表中敷肥ハ各季耕鋤前之ヲ施シ打肥ハ三月上旬施用スルモノニシテ其施肥法ハ五倍ニ稀釋セル人糞尿ヲ地面ニ平等ニ撒布スルモノナリ而シテ元肥ハ播種ノ際施スモノトス

一、整地及施肥 十一月二十六日地面ニ施肥ヲ撒布シ表土三四寸許リ堆肥ト共ニ削リ込ミ漸次鑿鉄ヲ以テ鋤起シ三月五日打肥ヲ撒布シ四月七日熊手ヲ以テ地面ヲ攪拌シ上塊ヲ細碎シ後鉄ヲ以テ地面ヲ均平ス

一、畦幅 八寸

一、種子量 四升八合(反當)

一、播種期 四月八日

一、播種法 連播

一、發芽期 四月十八日

一、間引

第一回 五月 六日 一尺間八本立トス

第二回 五月二十二日 一尺間六本立トス

一、中耕 五月七日

一、發芽後ノ生育狀況

- 一、畦幅 八寸
- 一、種子量 四升八合(反當)
- 一、播種期 四月八日
- 一、播種法 連播
- 一、發芽期 四月十八日
- 一、間引
- 第一回 五月 六日
- 第二回 五月二十二日
- 一、中耕 五月七日
- 一、發芽後ノ生育狀況

區號	四月		五月		六月		七月		八月
	日	尺	日	尺	日	尺	日	尺	
一	二十三日	〇、三	二十日	〇、三	十九日	三、〇	十九日	六、三	三日
二	二十八日	〇、五	三十日	〇、六	二十九日	三、五	二十九日	六、六	八日
三	二十八日	〇、六	二十九日	〇、九	二十九日	三、八	二十九日	七、〇	八日

前表ニ據レハ生育ノ最モ良好ナルニハ第三區ニシテ第二區之ニ次キ第一區最モ劣レリ

- 一、刈取期 八月五日
- 一、乾燥後ノ成績(一反步當)

區號	上		中		下		合計
	量	價	量	價	量	價	
一	二九三、五〇〇	六、七〇〇	六、七〇〇	三、七〇〇	三、九七、五〇〇	三、九七、五〇〇	三、九七、五〇〇
二	二九七、〇〇〇	六、四〇〇	六、四〇〇	三、五〇〇	三、九六、〇〇〇	三、九六、〇〇〇	三、九六、〇〇〇
三	三二五、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、四〇、五〇〇	四、四〇、五〇〇	四、四〇、五〇〇

一、收穫及乾燥法 刈取後先ツ下麻及中麻ヲ選出シテ上麻ノミトシ 根部及上端ヲ切捨テ六尺六寸ノ長サトナシ一束六貫六百匁ノモノヲ六分シテ小束トシ 熱湯中ニ浸漬シ其變色スルヲ俟チテ取り出シ干場ニ擴ケ日光ニヨリ乾燥スル事十日間位ニシテ再ヒ熱湯中ニ浸シテ取出シ尙一日間日光ニ曝シ之ヲ屋內板敷ノ上ニ貯藏シ 夜間外氣ニ觸ラ防キタリ

一、精製 九月十日ヨリ精製ニ着手ス其方法ハ前記ノ小束六把ヲ合シテ四把トナシ之ニ撒水シテねと(土藏作りノ温室)中ニ藁又ハ麥稈ノ類ヲ敷キ其上ニ横臥トシテ上部ハ藁ノ類ヲ以テ覆ヒテ發熱ヲ促カシ毎日朝夕二回ツ、撒水シ二晝夜ニシテ表皮ノ容易ニ剥脫シ得ルヲ俟チ水ヲ注キテ剥皮シ之ヲ水槽中ニ浸シテ取出シ外皮ヲ剥脫シ竿ニ掛ケテ乾燥ス

一、製麻收量(一反步當)

區號	上		中		下		合計
	量	價	量	價	量	價	
一	九、九〇〇	一、七〇〇	二、二〇〇	六、〇〇〇	一、一五〇	一、一五〇	三、六〇〇
二	二、一五〇	三、五〇〇	二、一〇〇	五、四〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	三、九〇〇
三	二、一〇〇	三、二〇〇	二、〇〇〇	六、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、九〇〇

前表ニ據レハ第三區ノ收量最モ多ク第二區之ニ次キ第一區最モ劣レリ
收支計算

試驗區別	收入之部			支出之部		
	第一區	第二區	第三區	第一區	第二區	第三區
製麻代金	三六、三〇〇	三六、〇〇〇	四、八六〇	二、四六四	一〇、九三三	一六、九九〇
麻代金	〇、八八〇	〇、八八〇	〇、九八〇	〇、六〇〇	〇、九〇〇	〇、六〇〇
麻葉代金	〇、七五〇	〇、七五〇	〇、七五〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
皮芋代金	〇、四四五	〇、四三三	〇、五〇一	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
計	三八、二五五	四、六七三	四七、〇六一	三、七九四	三、七四五	四、五、七〇〇

純益金

第一區 金參拾參錢壹厘

第二區 金四圓貳拾貳錢

第三區 金壹圓參拾六錢壹厘

前表成績ニ據レニ純益ハ第二區最多クシテ第三區之ニ次キ第一區最モ少ナシ
一、累年平均成績(一反步當)

試驗區別	麻			平均
	三十九年	四十年	四十一年	
第一區	一六貫四〇〇	二〇貫二五〇	一三貫五五〇	一六貫七三三
第二區	一九、三二五	二二、六〇〇	一四、七五〇	一八、八九二
第三區	一九、八七五	二二、六〇〇	一六、七〇〇	二〇、〇五八

收支計算

試驗區別	收入			支出			差引
	三十九年	四十年	四十一年	三十九年	四十年	四十一年	
第一區	六四、〇〇〇	八八、三三〇	三八、二五五	四〇、九三三	四〇、四八八	三七、九四四	三三、八四七
第二區	八四、〇七三	一〇〇、五三三	四一、六七七	三九、〇六六	四三、〇五二	三七、四五二	三九、五三三
第三區	七三、九三三	九七、三九四	四七、〇六一	四六、七〇〇	四八、七〇七	四七、七〇〇	二五、七四八

前表累年ノ收支計算ニ據ルモ 其益金ノ最モ多キハ第二區ニシテ第三區之ニ次キ第一區最モ劣レリ由之觀レハ大麻ヲ栽培スルニハ肥料ハ第二區ノ配合量ヲ以テ最モ利益トスルモノ、如シ
(参考) 蒟蒻肥料試驗

本試驗ノ目的ハ蒟蒻ヲ栽培スルニ適當ナル肥料ノ種類、用量並ニ種薯ノ大小カ 其生育及收量ニ及ホス關係ヲ知ラントスルニアリ

一、位置 北甘樂郡盤戸村

一、試作人 北甘樂郡盤戸村 佐藤伊勢太郎

一、試驗區別

區號	種薯ノ重量個	肥料名	反當肥料用量	元肥	施肥法
一	五〇匁	堆肥 大豆 灰精肥	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	覆肥

四	三	二	一
三 〇	五 〇	三 〇	
野堆	野堆	野木大堆	野
乾	乾	乾	豆
草肥	草肥	草灰	粕肥
三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇

一、地 拵 三月二十五日(麥間中耕)
 一、播種期 四月五日
 一、畦 幅 二尺
 一、株 間 五十匁球一尺五寸 三十匁球一尺
 一、中 耕 六月二十日
 一、除 草
 第一回 七月十五日
 第二回 八月五日
 第三回 九月十五日
 一、覆 肥 六月二十日
 一、收 穫 十一月七日

一、試驗ノ結果(一反步當)

區號	收	區號	收
二一	二二四〇〇〇	四三	二四四〇〇〇
	二四一,〇〇〇		一二〇,〇〇〇
	量		量

前表ニ據レハ最モ多キハ第三區ニシテ第一區之ニ次キ第四區最モ寡シ

吾妻麻組合大麻取扱數量及價額表

(本組合販賣事業開始以來)

年度別	數	量	價	額	年度別	數	量	價	額
明治四十四年		七九,〇〇〇	圓	三,四〇四,七八七	大正十年		八七,九九三	圓	八,六六八,五六〇
大正元年		一,九七,〇〇〇	圓	六,七六四,九五五	大正十一年		八〇九,九九三	圓	四,六〇〇,二〇〇
大正二年		六,三三〇,〇〇〇	圓	一七,五八三,五九八	大正十二年		二四七,八九三	圓	二,〇〇四,〇七〇
大正三年		五,〇〇〇,〇〇〇	圓	一三,一七四,六七七	大正十三年		三三三,五五八	圓	三,一七三,九〇〇
大正四年		一,七九,六五五	圓	三,三七,六五五	大正十四年		五五,〇四〇	圓	四,〇九九,五五〇
大正五年		一,三三,七九〇	圓	五,七八,七四〇	昭和元年		一,〇七九,九七七	圓	六,三三九,七八〇
大正六年		一,四四,九三三	圓	七,八四,〇三〇	昭和二年		五八一,〇五三	圓	四,九四四,九七〇
大正七年		一,三四,九三〇	圓	八,一六八,三〇〇	昭和三年		六九八,九〇五	圓	五,六六六,三〇〇
大正八年		五三,二二三	圓	六,六三三,〇〇〇	計		二六,一七七,八七四	圓	二五,三〇〇,四二二

呼號	年度別	特等	錦	錦	上	金	滿	山	吹	黃	鳥	紅	葉	等	外
明治十四年	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	三、四三三	三、四三三	二、八九〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	厘
大正元年	五、三三九	五、三三九	五、三三九	四、四〇六	四、四〇六	三、九三三	三、九三三	二、七六九	二、七六九	二、七八一	二、四二五	二、四二五	二、四二五	二、四二五	厘
二年	三、五五三	三、五五三	三、五五三	二、六〇八	二、六〇八	二、二四四	二、二四四	二、一九八	二、一九八	二、一七〇	二、一九九	二、一九九	二、一九九	二、一九九	厘
三年	四、三七四	四、三七四	四、三七四	三、一六三	三、一六三	二、五七四	二、五七四	二、一六三	二、一六三	二、一六三	二、一六三	二、一六三	二、一六三	二、一六三	厘
四年	五、三三九	五、三三九	五、三三九	四、〇〇〇	四、〇〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	二、三三七	二、三三七	二、三三七	二、三三七	二、三三七	二、三三七	二、三三七	厘
五年	六、一〇〇	六、一〇〇	六、一〇〇	五、一〇六	五、一〇六	三、九三九	三、九三九	三、一〇五	三、一〇五	三、一〇五	三、一〇五	三、一〇五	三、一〇五	三、一〇五	厘
六年	七、二〇〇	七、二〇〇	七、二〇〇	五、一〇三	五、一〇三	三、九三九	三、九三九	三、四六八	三、四六八	三、四六八	三、四六八	三、四六八	三、四六八	三、四六八	厘
七年	九、〇五六	八、二八七	八、二八七	八、三三一	八、三三一	七、六七四	七、六七四	四、七五五	四、七五五	四、〇六九	三、八九〇	三、八九〇	三、八九〇	三、八九〇	厘
八年	一〇、〇〇〇	一〇、一三六	一〇、一三六	一四、二四〇	一四、二四〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、〇三〇	一、〇三〇	九、八四〇	八、三四〇	八、三四〇	八、三四〇	八、三四〇	厘
九年	一六、六三四	一四、一五〇	一四、一五〇	二二、三三五	二二、三三五	六、三三三	六、三三三	四、六六〇	四、六六〇	三、七七三	三、七七三	三、七七三	三、七七三	三、七七三	厘
十年	一一、九〇〇	八、七四二	八、七四二	六、五八八	六、五八八	五、四四五	五、四四五	四、六三三	四、六三三	四、五二二	四、五二二	四、五二二	四、五二二	四、五二二	厘
十一年	一〇、四〇〇	一〇、一三四	一〇、一三四	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	七、五七八	七、五七八	六、七七一	六、七七一	五、六二五	五、六二五	五、六二五	五、六二五	五、六二五	厘
十二年	一四、二八八	一一、四三三	一一、四三三	一〇、一七五	一〇、一七五	八、六〇七	八、六〇七	七、四七二	七、四七二	七、四〇〇	七、四〇〇	七、四〇〇	七、四〇〇	七、四〇〇	厘
十三年	一三、〇〇〇	一一、四三七	一一、四三七	一〇、七四八	一〇、七四八	六、九七六	六、九七六	六、一四三	六、一四三	五、八四三	五、八四三	五、八四三	五、八四三	五、八四三	厘
十四年	一〇、八八三	九、六三三	九、六三三	八、一五九	八、一五九	六、七五四	六、七五四	五、一〇六	五、一〇六	四、二二三	四、二二三	四、二二三	四、二二三	四、二二三	厘
昭和元年	一三、五五七	一一、四九七	一一、四九七	九、六九三	九、六九三	六、八四六	六、八四六	五、九元	五、九元	五、三九元	四、五九元	四、五九元	四、五九元	四、五九元	厘
昭和二年	一九、〇六〇	一〇、六三三	一〇、六三三	一一、八四八	一一、八四八	一〇、一〇九	一〇、一〇九	七、九五八	七、九五八	五、六三四	五、〇四四	五、〇四四	五、〇四四	五、〇四四	厘

吾妻郡大麻耕作反別及數量並價額統計表

明治四十四年度

(吾妻麻組合調査)

大字名	耕作戸數	反別	數量	價額
郷原	三二一	反	九一三、〇〇〇	三、四七〇、〇〇〇
矢倉	一六	反	五、六八〇、〇〇〇	一、七〇四、〇〇〇
岩下	一一	反	三、一四〇、〇〇〇	一、〇六八、〇〇〇
松谷	六	反	一一三、〇〇〇	八、八〇〇、〇〇〇
三島西部	四三	反	一、一八九、〇〇〇	四、七五六、〇〇〇
三島東部	一〇一	反	三、六二二、〇〇〇	一四、六六三、〇〇〇
厚田	四	反	一一一、〇〇〇	三七八、〇〇〇
計	二二二	反	六、九四八、〇〇〇	二六、九一九、〇〇〇
一戸當り平均	—	反	三二、七七四	一二六、九七六

(附記) 前表ハ岩島村内吾妻麻組合員ノミノ調査ニシテ組合員外ハ除キタルモノナリ

大正元年度

(吾妻麻組合調査)

大字名	耕作戸數	耕作反別	生産數量	價額
郷原	二八	反	五二、三二〇	二、四二〇、一七〇
矢倉	一三	反	二七、七二〇	一、二一六、八九〇

大字名	耕作戸數	耕作反別	生産數量	價額
岩下	一〇	一六、一一〇	二五八、七五〇	七二四、五〇〇
松島	三七	一六、一一〇	二五九、八二〇	七〇一、五二〇
三島	四三	八二、〇〇〇	一、二二五、二六〇	四、八六一、〇四〇
三島東部	一〇五	二二、二、九一〇	三、四二一、一五〇	一五、〇五三、〇六〇
厚田	五	九、三〇〇	一五〇、六一〇	四五、一八三〇
計	一一一	四二六、五二〇	六、六五二、六五〇	二五、四二九、〇一〇
一戸當り平均	一一一	二、〇〇六	三一、五二九	一一〇、五一六

(附記) 前表ハ岩島村内吾妻麻組合員ノミニシテ組合員外ハ除キタルモノナリ
大正六年度 (吾妻麻組合調査岩島村全部)

大字名	耕作戸數	耕作反別	生産數量	價額
郷原	五一	八一、八二〇	一、二七二、〇〇〇	四、五四七、六六〇
矢倉	四二	六二、六二〇	一、〇六九、五〇〇	三、七七九、六八〇
岩下	七二	一〇八、五一〇	一、七三五、五〇〇	六、三七五、九八〇
松島	四五	五四、〇二〇	七二五、〇〇〇	二、六六一、九九〇
三島西部	七一	一三二、〇〇〇	二、〇〇七、五〇〇	八、三三〇、七二〇
三島東部	一四三	二七四、六二〇	四、一九五、一〇〇	一八、八六六、八九〇
厚田	四六	七〇、四二〇	一、二〇九、〇〇〇	四、九三七、五二〇
計	四七〇	七八四、二二〇	一一、二二一、三六〇	四九、五〇〇、四四〇
一戸當り平均	四七〇	一、六二一	二五、九八六	一〇五、三二〇

大正十年度

(吾妻麻組合調査吾妻郡全部)

村町	大字名	耕作戸數	耕作反別	生産數量	價額
郷原	郷原	四五	六七、七〇六	一、一九八、五七〇	六、六五八、七二〇
矢倉	矢倉	四四	六四、六一四	一、二九五、一七〇	八、六二四、四七〇
岩下	岩下	七四	九七、六二〇	一、九一七、六七〇	一二、七五二、四一〇
松島	松島	三六	四四、八二〇	一、〇六六、三八〇	六、六五四、〇七〇
三島西部	三島西部	七五	一一五、六一六	二、三六三、七六〇	二〇、五一〇、〇八〇
三島東部	三島東部	三一	二一八、〇〇五	四、三四八、五六〇	四一、四三五、六〇〇
厚田	厚田	三九	六三、八〇〇	一、三九六、七五〇	一一、一五四、〇〇〇
林	林	四五	八二、〇〇〇	二、一二九、五四〇	七、四五一、五〇〇
川原	川原	一四	一〇、〇〇〇	二五九、七〇〇	九一一、一九〇
横壁	横壁	一三	一一、一〇〇	五四、五四〇	一九〇、八九〇
長野	長野	一一	一六、〇〇〇	四一六、〇二〇	一、四五六、〇〇〇
大津	大津	一六	一四、五〇〇	三七七、〇六〇	一、三一九、五〇〇
羽根	羽根	二	一、六〇〇	四一、五五〇	一四五、四二〇
與喜屋	與喜屋	三三	二七、〇〇〇	七〇一、二一〇	二、四五四、二〇〇
川戸	川戸	五八	六七、八〇〇	一、四七一、二六〇	九、一二四、〇四〇
原町	原町	一一	一一、〇〇〇	二三九、四六〇	一、四七七、〇〇〇
坂	坂	三〇	五一、二二〇	九二九、五三〇	五、一八四、〇〇〇

合計	六村合			上村	
	小	太	日	赤	本
八一三	一	一	五	三	一〇七
一、一八五、四〇六	六二〇	九一〇	三、三一〇	二一、三一〇	一七四、四〇〇
一、四一七	二四、五六八、九九〇	一七、一〇〇	五、四九、八二〇	三、一五六、六四〇	四一五、四九〇
二四、五六八、九九〇	三〇、二二〇	一七、一〇〇	八五、九二〇	一一二、四九〇	一、九八八、三八〇
一五七、四〇三、九九〇	一五七、四〇三、九九〇	一五七、四〇三、九九〇	一、八三三、二〇〇	一、八三三、二〇〇	一五、〇九八、五〇〇
一九三、六〇九	一九三、六〇九	一九三、六〇九	二八六、八三〇	二八六、八三〇	五五五、二二〇
			八二、七三〇	八二、七三〇	
			五六、〇四〇	五六、〇四〇	

(附記) 一、各町村別合計表

町村名	戸數	作付反別		生一產高	金額	一戸平均
		反別	一戸平均			
岩島村	四戸	六七、三三二	一、五〇四	三、五八、八六〇	一〇七、七九、三五	二四、七〇
長野原町	二四戸	一五、三〇〇	一、二二一	三、九七、六二〇	一三、九八、七〇〇	二二、三三
坂上村	一五戸	七、八〇〇	一、二二三	一、七〇、七三〇	一〇、六〇、〇〇〇	一五、六三
原村	一五戸	二五、七三三	一、六二〇	四、六四、一五〇	三、八六、二〇〇	四、三三
六村合計	八三	一、一八五、四〇六	一、四一七	二四、五六八、九九〇	一五七、四〇三、九九〇	一九三、六〇九

二、各町村別收量及單價表

種目	町村別		吾妻郡平均
	岩島村	長野原町	
一反當り收量	二〇、一八〇	二五、九七〇	二二、七〇九
一貫匁當り價格	七、九四四	三、五〇〇	六、一九六
			一八、一〇〇
			二五、八〇〇
			二〇、七二六

(備考) 大正十年度ハ豐作デシタ

大正十四年度 吾妻郡全部 (吾妻麻組合調査)

町村	大字名	耕作戸數	耕作反別	生一產高	價額
川原畑	郷原	四〇戸	五六、四一〇	八七七、五〇〇	五、二六五、〇〇〇
三九	矢倉	三二	五四、七〇〇	一、〇〇九、五〇〇	六、〇五七、〇〇〇
	松谷	七三	八一、五二〇	一、五四二、八四〇	九、二五七、〇四〇
	三島西部	三三	四五、七一〇	八五七、五〇〇	四、七一六、二五〇
	三島東部	六三	一〇〇、三一〇	一九六三、七五〇	一三、〇七八、五七〇
	厚田	一三八	二〇六、五〇五	三、九七五、三五〇	三〇、二二二、六六〇
	三島東部	三二	四七、五〇〇	七八六、〇〇〇	五、一〇九、〇〇〇
	川原畑	七	四、六〇〇	六九、〇〇〇	一、二二七、七〇〇
	三九		四六、二〇〇	一、三四〇、五〇〇	三、二二七、二〇〇

(附記ノ一) 各町村別合計表

町原	町原	坂上村	合六	合	計
長野原	長野原	大柏木	赤岩	合六	計
興喜屋	川原	大戸	大柏木	合六	計
一	二七	三二	一〇七	二	六五七
一一、八〇〇	八、九〇〇	四二、八二五	一七四、四〇〇	九三、四七一〇	一、四〇七
三三二、〇〇〇	一六五、五〇〇	八三九、八八〇	四、五〇〇	一七、八六五、九六〇	二七、一九三
三七四、〇〇〇	四七六、〇〇〇	三、一五六、六四〇	一〇〇、〇〇〇	二七、八六五、九六〇	二七、一九三
七九六、八〇〇	八二七、五〇〇	四、一九九、四〇〇	二四〇、〇〇〇	九、五八四、二二〇	一五一、五七四
八九七、六〇〇	二、八五六、〇〇〇	一二、六二六、五〇〇			

(附記ノ二) 各町村別收量及單價表

町村別	戸數	耕作反別		生産量	一戸平均	價額	
		反	一戸平均			金額	一戸平均
岩島村	四三	五九、七五	一、四二	二、〇二、四〇〇	二六、七元	三、六五、五〇〇	一七、八七三
長野原町	六	八、三〇〇	一、二九	二、一五、五〇〇	三、〇五三	五、三九、三〇〇	七、八八八
原野村	六	三六、八〇〇	一、〇〇六	四、一五、〇〇〇	一六、八三	三、六三、五〇〇	九、九四四
坂上村	一	二七、三五五	一、五九	三、九六、五二〇	二八、七五三	一六、八五、九〇〇	三三、〇五〇
六合村	一	四、五〇〇	二、三五	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇
計	五七	九四、七〇	—	一七、八六五、九六〇	—	九、五八四、三〇〇	—

(備考) 大正十四年度ハ平年作ナリ

町村別	種目	一貫歩ノ收量	一貫歩ノ價格
岩島村	一反歩ノ收量	一八、五七七	一、八五七
長野原町	一反歩ノ收量	二六、〇二二	二、四二九
原野村	一反歩ノ收量	一六、五〇八	一、七四二
坂上村	一反歩ノ收量	一八、三九三	四、二二〇
六合村	一反歩ノ收量	二二、二二三	二、四〇〇
郡内平均	一反歩ノ收量	一九、一一四	五、五七四

大正十五年 度 吾妻郡全部(吾妻麻組合調査)

町村	大字名	耕作戸數	耕作反別	生産高	價額
岩島村	郷原	三八	五、〇〇〇	七六五、〇〇〇	三、八二五、〇〇〇
岩島村	矢倉	三三	五〇、二〇〇	七五三、〇〇〇	三、七六五、〇〇〇
岩島村	松谷	六八	六九、八〇〇	一一一六、八〇〇	五、五八四、〇〇〇
岩島村	三島西部	三二	三九、〇二〇	六二四、三二〇	二、八〇九、五〇〇
岩島村	三島東部	六一	九五、六〇八	一、五四〇、〇〇〇	九、二四〇、〇〇〇
岩島村	厚田	一三六	一九二、〇〇二	二、八八〇、〇〇〇	一八、七二〇、〇〇〇
川原畑		三二	四三、六〇〇	六五四、〇〇〇	三、二七〇、〇〇〇
林原畑		七	四、六〇〇	七八、二〇〇	二三四、六〇〇
野長		三九	三九、九〇〇	九九七、五〇〇	一、九九五、〇〇〇

(附記ノ一) 各町村別合計表

町原	町原	町原	町原	町原
長野原	與喜屋	川原	大坂	合六
九	六	一	二	二
一一、一一〇	八、五〇〇	八、九〇〇	四二、六〇一	一四、五、八〇〇
三三九、七〇〇	一九五、五〇〇	一六〇、二〇〇	六三九、〇〇〇	二、三三二、八〇〇
六七九、四〇〇	三九一、〇〇〇	六四〇、八〇〇	二、五五六、〇〇〇	六、九九八、四〇〇
			一一二、〇〇〇	
			六三、二八六、六〇〇	
			一一〇一、〇九六	

(附記ノ二) 各町村別收量及單價表

町村名	戸數	耕作反別		生 産 量	一 戸 平 均	金 額	
		反 別	一 戸 平 均			金 額	一 戸 平 均
岩島村	四〇戸	五、三〇〇	一、三六	八、三三、二〇〇	二〇八	四七、三三、五〇〇	一一八〇
長野原町	六	三、一〇〇	一、〇一〇	一、六〇、〇〇〇	二六、四八	三、三〇〇、〇〇〇	五〇、〇九八
原町	三	三、五〇〇	九九	五九、三三〇	一六、七三	三、一〇六、七〇〇	八七、六三
坂上村	二	一、八〇〇	一、四二	二、九一、八〇〇	一、四二	九、五五四、〇〇〇	七四、六四
六合村	二	二、八〇〇	一、四〇	五、〇〇〇	二八、〇〇〇	一一、〇〇〇	五、〇〇〇
計	六六	八三〇、二〇一	一、三〇八	一三、五五七、一八〇	二一、六五七	三、二六六、一〇〇	—

(附記ノ二) 各町村別收量及單價表

町村別	種 目	收 量		一 戸 平 均	單 價
		一 反 步 當 り 收 量	一 貫 匁 當 り 單 價		
岩島村	一反歩當り收量	一五、三九四	五、六六六	一、七九六七	一一〇、〇〇〇
長野原町	一貫匁當り單價	二四、七三三	二、〇四九	一五、七七三	二、〇〇〇
原町		一七、九六七	五、三〇七	三三、一五	四、六六八
坂上村		一五、七七三	三、一、一五	—	—
六合村		—	—	—	—
郡内平均		—	—	—	—

(備考) 大正十五年ハ霜害ノ爲約七分作位ナリ
 昭和四年度 (吾妻麻組合調査吾妻郡全部)

町村	大字名	耕作戸數	耕作反別	生 産 高	價 額
町原	郷原	一八	一一三、三一五	四二九、九一〇	二、八六六、〇六〇
村	矢倉	二六	三三、四〇五	五三〇、七五〇	四、〇八二、六九〇
島	松谷	七〇	七七、九二五	一、三〇五、九〇〇	九、三二七、八五〇
村	岩下	二〇	二六、六〇〇	四七二、八六〇	三、三七七、五七〇
村	三島西部	六四	九五、七二〇	一、三〇九、五五〇	七、八五七、三〇〇
村	三島東部	二八	一七四、〇〇二	三、三三〇、五六〇	三〇、二七七、八一〇
村	厚田	三〇	四一、〇〇〇	八〇一、六〇〇	六、一六六、一五〇
町原	川戸	三〇	二五、〇二一	五〇一、七六〇	三、二六一、四四〇
町原	原戸	六	五、九〇〇	七五、九七〇	三、七九、八五〇

町村名	戸数	耕作反別		生産量	高	價額	
		反別	戸平均			金額	戸平均
林野原	二二	二四、一一〇	六二四、〇四〇	二、一四九、一四〇			
長喜屋	一一	四、五〇〇	一一五、〇〇〇	三九二、五〇〇			
與原	二	一一、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	九八〇、〇〇〇			
大津	二	一、七〇〇	五〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇			
川畑	四	二、六〇〇	七〇、〇〇〇	三五七、〇〇〇			
合六	三	二、五〇〇	七〇、〇〇〇	二三八、〇〇〇			
赤岩	三	三六、五〇〇	六一八、八一〇	三、〇九四、〇五〇			
大戸	二七	一九〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇	一四、五二〇、〇〇〇			
大柏木	一〇〇	七七六、〇〇八	一三、八七六、七一〇	八九、四九七、四一〇			
計	五六三	一、三二四	二四、六四七	一五八、九六五			
一戸當り平均							

(附記ノ一) 各町村別合計表

町村名	戸数	耕作反別		生産量	高	價額	
		反別	戸平均			金額	戸平均
岩島村	三五	四七、一〇七	一、三〇八	一三、九八〇			
長野原町	四二	四三、九一〇	一、〇一一	一、三九、〇四〇			
原町	四二	三〇、九三二	八八	五七、七〇〇			
坂上村	二七	二五、五〇〇	一、七五	三、九八、八〇〇			
合村	三	一、五〇〇	八〇	七〇、〇〇〇			
計	一五九	一七六、〇〇〇	一、二八六、七一〇	一、二八六、七一〇			
一戸當り平均							

(附記ノ二) 各町村別収量及單價表

種目	町村別	一貫當り収量	一貫當り單價
種目	岩島村	一七、三二九	七、八一七
	長野原町	二五、七一一	三、五八五
	原町	一八、六五四	六、三〇一
	坂上村	一七、三〇一	四、四九三
	六合村	二八、〇〇〇	三、四〇〇
郡内平均	一七、八八二	六、四五〇	

備考 長野原町の収量の多きは製造方法が異なる爲なり

◎吾妻麻組合の呼號別収量を平年作と見て計算すれば大體左表の様な數字となりませう

呼號	號	數	量	呼號	號	數	量
吾妻特等	錦	九七貫五〇〇		山吹	麻	二、七〇四、五〇〇	
吾妻	錦	四八七、五〇〇		黃鳥	外	一、九〇五、〇〇〇	
黃金	上	六八二、五〇〇		紅葉	葉	八三九、七五〇	
黃金	上	二、五二五、二五〇		等		五四七、二五〇	
滿月	金	三、七七五、七五〇		原		一、二八五、〇〇〇	

備考 作付反別七十五町歩収量一萬四千八百五十貫とす

全國大麻栽培狀況調査表

長野縣

(昭和二年調査)

作付反別	生産高	額	用途	製造方法	栽培地方名
七八二町	一五六、九六六貫	三三二、五三七圓	疊糸 麻織物	麻ヲ細カニ割 リ續ギ合セテ 糸トス	上水内郡思無里村、 榑村、日里村、津和村、 北安曇郡、美麻村、 神城村、中土村

山梨縣

(昭和三年調査)

作付反別	生産高	額	用途	製造方法	栽培地方名
五町	四、五六五貫	九、九八一圓	疊表 縱糸	材採後流水ニ 浸シ剥皮ス	東山梨郡 八幡村 同 郡 岩手村

備考 栽培反別八年々減少ノ傾向ニ在リ

埼玉縣

(昭和二年調査)

作付反別	生産高	額	用途	製造方法	栽培地方名
三反	三六貫	九〇圓	自家用	—	大里郡

山形縣

(昭和二年調査)

作付反別	生産高	額	用途	製造方法	栽培地方名
五二町	五、二六九貫	二〇、五五〇圓	—	生皮乾シ用途 ニ供ス 普通方法	北村山郡 宮澤村 最上郡萩野村 東小國村 東田川郡大泉村 長沼村

岩手縣

(昭和二年調査)

作付反別	生産高	額	用途	製造方法	栽培地方名
五〇三、四反	一一三、一〇七貫	一二五、四三九圓	麻布 漁網	刈取後乾燥前 ニ蒸シ、水漬 ケ剥皮、乾燥 ス	岩手郡 雫石村 和賀郡 黒澤尻町 東磐井郡 摺澤町 胆澤郡 水澤町

備考 特ニ主産地ト稱スル地方ナク和賀東磐井岩手郡地方各町村ニ産ス

滋賀縣

(昭和二年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地方名
町	一六、九六〇貫	一四、六三〇圓	自家用	水中ニ數日間浸漬シテ表皮ノ剥皮ヲ容易ナラシメテ製造ス	甲賀、蒲生、神崎、犬上、伊香、高島ノ各郡
五三					

奈良縣 (昭和二年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地方名
一反	五〇貫	二五圓	自家用		宇陀郡

岐阜縣 (昭和二年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地方名
六六町	一五、一二七貫	二九、三二五圓	製繩用	手綯	益田、大野、吉城、武儀郡上、揖斐ノ各郡内一圓

備考 羽島郡柳津村、不破郡宇留生村、府中村、岩手村、關ヶ原村、安八郡神戸町、本巢郡外山村、根尾村等武儀郡上、揖斐ノ三郡ハ少量宛産ス

山口縣 (昭和二年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地方名
一四町	四、二七八貫	七、六六七圓	疊縱糸	從來通	阿武郡

岡山縣 (昭和三年調査)

作付郡名	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地方名
吉備郡	四、九六九貫	八、五四〇圓	疊表	收穫物ヲ蒸機ノ中ニ入レ蒸シ直チニ取出シ剥皮乾燥シ之レヲ適度太ニ櫛ニテ梳キ疊表用縱糸ニ撚ル	阿曾村、岡田村、近村
都窪郡	一、八一九	三、五二八	用縱		賀茂村、庄村、中庄村
倉敷市	一、三二〇	一、九八〇	糸原		一圓
御津郡	七九四	一、三九三	料		大野村、白石村

(備考) 各郡ニ多少ハ栽培シ荒苧ヲ製造直チニ疊表用縱糸(姫糸)ニ製造シ自家用ヲ主トス

京都府 (昭和三年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地名
一九、七反	六、五七三貫	八、八六八圓	荷造用繩	刈取り浸水シ置キ皮ヲ剥ギ叩キ精選ス	北桑田郡 船井二郡

福井縣 (昭和三年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地名
一六四、〇反	五八、一一一貫	六五、四二一圓	麻布、麻糸、蚊帳等	別記ス	本縣ニ於ケル大麻ノ栽培ハ漸次減少シ特記スベキ地方ナシ

製造方法、乾燥シタル莖ヲ水ニ浸シテ蒸床ニ堆積シ上ニ菰類、其ノ他ヲ以テ覆ヒ、日ニ一、二回束ヲ水ニ浸シ酸酵熟ヲ制限シツ、約一週間ニテ之ヲ止メ、根元ヨリ靱皮部ヲ木質部ヨリ剝離シ、木灰又ハ曹達ヲ加ヘタル水ヲ以テ煮沸シ、然ル後麻挽ヲ行ヒ乾燥シテ製ス

兵庫縣 (昭和二年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地名
八七、二二反	二七、七一九貫	四一、一四九圓	蓆席類ノ經糸疊糸	左ニ記ス	加西郡在田村、西在田村 朝來郡梁瀬、東河、生野 養父郡關宮村 美方郡八田村

製造方法、新鮮ナル莖ヲ水蒸氣ニテ蒸發シ水ニ浸シテ靱皮部ヲ剝離シ乾燥シテ先ツ粗麻ヲ調製シ之ニ「アルカリ」ヲ加ヘタル水ニテ煮沸シ水中ニテ扱キ精製ス

大分縣 (昭和三年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地名
八九、〇反	三二、七五五貫	三四、二二六圓	主トシテ綱、網	左ニ記ス	速見、大分、北海部、南海部、大野、直入、玖珠、日田、下毛ノ各郡一圓

製造方法、刈取タル麻ヲ數日間日光ニ照シ葉ヲ打チ落シ皮ノ黃褐色ニ變色シタルモノヲ川ニ漬ケ一晝夜半、二晝夜ノ後引揚ゲ根元ヨリ皮ヲ剥キ其ノ剥キ取リタル皮ニ木灰ヲ混ジ大釜ノ如キモノニ入レ良ク沸湯セシメ皮ノ軟クナルヲ程度トシテ引揚ゲ之ヲ流水ノ處ニテ小竹ヲ二ツ折リニシタルモノヲ以テ良ク粗皮ヲ去リ白色ニ至ルヲ程度トシテ之レヲ日光ニ曝シ乾燥セシムルモノナリ
釜ニテ煮ル時ハ麻ノ量ニ依リ之ヲ幾回モ繰返スモノトス

福島縣 (昭和四年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地名
九八、〇反	一五、七八二貫	四一、五四四圓	麻繩 麻織物	—	左記ノ通り

栽培地方、耶麻郡奥川村、大沼郡昭和村、玉路村、西川組合村、耶麻郡新郷村、北會津郡大戸村、湊村、河沼郡尾本組合村、金上村、大沼郡川口村、尾岐村、南會津郡内等ナリ

鳥取縣

(昭和四年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地名
四〇、二反	一一、六九七貫	一六、五五五圓	網、疊 表用糸 織物	木灰汁ニテ煮 沸荒苧トシテ 販出ス	日野郡 日野上村 同郡 阿毘縁村 東泊郡 山間村 八頭郡 山間村

三重縣

(昭和二年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地名
二、〇反	一〇〇貫	一六五圓	—	—	鈴鹿郡 阿曇郡

鹿兒島縣

(昭和三年調査)

作付反別	生産高價	額	用途	製造方法	栽培地名
六九、五反	二七、八四一貫	三〇、三四一圓	網 麻繩	收穫セル生莖ヲ 蒸桶ニテ蒸シ之 ヲ川水ニテ洗ヒ 表皮ヲ除キ乾燥 セシム	左ニ記ス

栽培地、鹿兒島郡谷山町、伊敷村、吉野村。揖宿郡顯娃村、川邊郡川邊町。日置郡伊集院町、日置村、吉利村、永吉村。薩摩郡桶脇村、入來村、山崎村、宮之城町、鶴田村、大村、蘭牟田村。伊佐郡大口町、始良郡蒲生村、山田村。贈啖郡市成村、財部町、末吉町、松山町。

◎大麻栽培者及篤農家紹介

(吾妻麻組合後援者)

岩島村大字郷原

堀込壽作

同 大字矢倉

同

關榮太郎

同

同

關德十郎

同

同

根津浦芳

同

同

松井庄藏

同

同

山田光太郎

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

大字三島

高橋傳三郎 武井利馬造 高橋福次郎 高橋英太郎 高橋照三郎 高橋安衛 高橋重郎 高橋彦治郎 高橋勝太郎 高橋嘉九治 高橋嘉喜太 高橋泰重郎 高橋茂理 高橋初三郎 石村仲次郎 石村清十郎 石村權太郎 石村吉次 石村與五郎 石村理喜三 上原此八

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

大字三島

石村泰三郎 上原佐藏 上原角次郎 石村功平 上原熊五郎 石村金重 高橋半三郎 石村長作 石村重平 石村富重郎 浦野金平 湯野榮太郎 小橋角三郎 高橋猪一 高橋榮八 浦野竹一 高橋仙太郎 小林保治 高橋榮三郎 高橋良八 小林忠三郎 片貝丑之助

一一三

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

大字矢倉

片貝龍太郎 片貝七三郎 渡伊作 渡近太郎 加藤孫三郎 上原益太郎 中村秀吉 上原兵五郎 宮崎伊三郎 小池嘉三郎 上原宇四郎 齋藤幸次郎 湯本啓三郎 片貝英一 片貝今朝次郎 富澤甲子郎 町田甚作 山野宇平 町田新重 富澤實十郎 片貝磯吉 片貝正太郎

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

大字岩下

富澤勘重 山野丑藏 小林清司 日野國太郎 野口高次郎 中島久藏 西山佐吉 片貝巳之作 田村鐵五郎 小池慶治郎 水出喜市 小池喜作 田村喜吾 田村民吉 高橋友吉 高橋賢太郎 高橋祥壽 高橋幸作 高橋公治 武井源一郎 高橋仙市郎 高橋儀作 高橋仙三郎

一一三

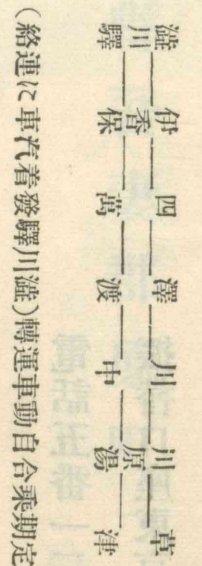
大麻味

大字松谷

有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合

組合長理事	三島丸橋春俊	監事	三島田中松太郎
副組合長理事	郷原菅谷勘三郎	三島矢倉	波田和
常任理事倉庫部主任	三島角田喜市	松谷	水出喜市
事務理事	同小林初太郎	上島組委員長	篠原徳重
理事	(岩下組委員長) 岩下春原昌平	三中組委員長	橋爪房吉
理事	三島高橋友吉	基組委員長	篠原樂次郎
理事	厚田小泉源三郎	三南組委員長	高橋周八
理事	(厚田組委員長) 川戸朝比奈仙吉	三東組委員長	高橋嘉喜太
理事	大津淺見安喜	東組委員長	神邊正治
理事	(郷原組委員長) 郷原堀込壽作	原町組委員長	霞波平
理事	三島小林孫平	大柏木組委員長	佐藤茂一作
理事	同小林久一郎	本宿組委員長	中井俊一
理事	大戸湯淺政郎	川原畑組委員長	野口貞吉
常任	矢倉渡近太郎	林組委員長	篠原嘉太郎
監事	横壁萩原宗	横壁組委員長	金子壽太夫
監事	岩下富澤實十郎	大津組委員長	淺見岩雄
監事	松谷田村鐵五郎	中之條組委員長	田中源次郎

△通交の郷泉湫州上△



臺五十四車動自用使

料乘	金車
草津澁川間	三、四〇
川中澁川間	三、五〇
伊香保澁川間	四、五〇
川原湯澁川間	一、八〇
四萬澁川間	一、八〇

時問	所要
淺津澁川間	三、〇〇
川中澁川間	一、二〇
伊香保澁川間	一、四〇
川原湯澁川間	一、四〇
四萬澁川間	一、四〇

社會式株車動自馬群

(番一四話電)町條之中郡妻吾 社本

群馬縣澁川町(上越南線)

通

澁川合同運送株式會社

電話五番一二三番 一二九番

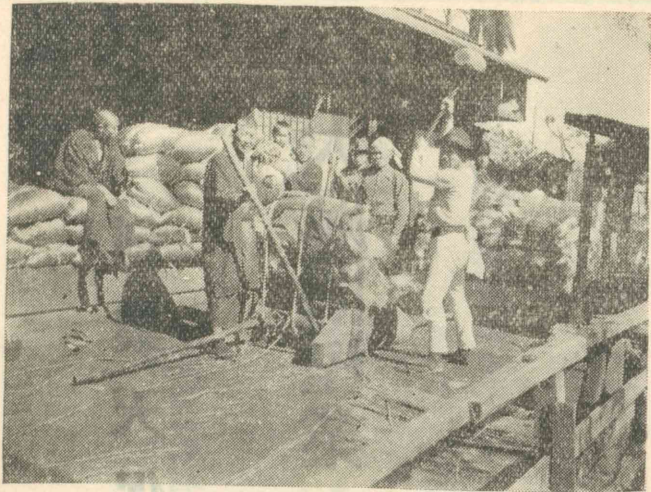
振替口座東京五八八九七

群馬縣吾妻郡原町

古

齋藤運送店

電話一八九番



大麻問屋

小池爲重郎

吾妻郡岩島村大字三島

一般貨物輸送

ア 安齊運送店

米穀肥料
酒類雜貨

ア 安齊商店

店主 安齊才作

現在營業所 群馬縣吾妻郡嬭戀驛前

同 縣同 郡草津溫泉驛前

電話 草津 五五

創業天保年間

大麻問屋業 西山山梯重輔

吾妻郡岩下

群馬縣吾妻郡岩下

國産麻苧

糸繭買繼

西山三次郎

大和問

振替口座東京五〇四〇五
電略 (ニシ)

群馬縣吾妻郡岩島村
大字矢倉六一五

大 麻 問 屋
幸齋藤 謙平

電略(サイト)又ハ(サ)

小林文次郎

三島製糸會社

大麻問屋

丸橋丑太郎

群島縣吾妻郡岩島村
大字 三島

有限 三島製糸信用販賣組合

電話岩下二番使用

組合長 小林文次郎

専務理事 堀込巳之平

理事 高橋彦治郎

理事 浦野郡次

理事 高橋榮三郎

理事 小池豊太郎

理事 石村理喜三

常任監事 丸橋春倭

監事 湯淺安太郎

監事 篠原徳重

千葉縣安房郡船形町

鈴木勝太郎

綿糸漁網
漁具和洋
麻苧船具

電話船形一六番

大麻問屋

湯淺富太郎

群馬縣吾妻郡
岩島町大字三島

事業

各種労働事業の依頼に應じ
懇切、迅速を第一とす

唐堀労働會

同 女子部

群馬縣吾妻郡
岩島村大字三島

蒟 蒻 精 粉

製 造 販 賣

昭和二年於全國蒟蒻共進會一等賞受領

群馬縣吾妻郡中之條町

吾 有限責任吾妻蒟蒻販賣組合

電話中之條一番、二番

群馬縣農務課獎勵
吾妻郡農會獎勵

吾妻名産

寒梅

吾妻凍豆腐
滋養美味

◇特長 本品は滋養食料にして而も美味貯藏に適し携帶に便なり
凡ての家庭に應用して一般煮物用より吸物の種又は肉類と共に煮て風味格別なり

大正十五年創立

吾妻凍豆腐製造組合

群馬縣吾妻郡長野原町

吾妻凍豆腐製造組合

組合長 淺見安喜

調理法

調理前タンサン水或はソーダ水
に浸し後温湯を注ぎ吸水したる
時吸水の約半分を搾ぼり一般煮
物同様に調理せられたし

繭絲業
大富澤與平

群馬縣吾妻郡岩島村岩下

農産種子
大麻種子

商

群馬縣吾妻郡岩島村三島

三島農種館

館主 片貝市五郎

春秋優良

蠶種販賣

水出治平作

吾妻郡岩島村松谷

煙草 米 雜
草 穀 貨

堀込商店

店主 堀込己之平

吾妻郡岩島村大字矢倉一〇〇〇
電話 岩下二番使用

登 錄 商 標

明 關

純 良 清 酒 釀 造 元

竹 田 酒 造 店

岩 島 村 三 島
振 東 四 九 七 五 四

吾妻郡岩島村大字三島

川原館、蠶益館特約店

各國優良蠶種販賣

繭 榮 館 蠶 種 部

各種優良桑苗
生產販賣

繭 榮 館 桑 苗 部

店 主 角 田 丑 藏

團體及多數ノ申込ニ對シテハ

電話岩下二番使用

特ニ御相談可申候

上州四萬温泉

山紫水明ノ仙境

・特効・胃腸病、手足關節の諸病、レウマチス神經痛、婦人病其他の諸症
経費家族的炊事制度にして経費最低なり

寶陵館	田村茂三部	四萬館	阪田英一
積善館	關善平	三木館	田村七平
山口館代表	田村八平	日向見館代表	町田勢三郎
鐘壽館	猪谷倉之進	豐島館	田村はつ
		玉泉館	岩崎專右衛門

四萬温泉場組合取締所

上州川中温泉場

松の湯温泉

松溪館



旅館部
材木部

小池惣吉

泉質 硫黄泉

湯 人 美 名 一 泉 溫 中 川

溫度分析表

本泉ハ無色清澄ニシテ苦又鹹ヲ味ヒ硫化水素臭
 ヲ有シ反應ハ稍亞爾加里性ヲ呈シ溫度ハ三十六
 度(攝氏)ニシテ源泉(ラットル)五合五勺(中所含)
 各成分ノ固形含量ヲ舉クレバ左ノ如シ

鹽化那篤留謨	〇、四六七二
硫酸加兒叟謨	一、〇六二〇
硫酸麻偏矢亞	〇、二四四二
磷酸	〇、二二七〇
硫酸亞酸化鐵	〇、二二六〇
硅酸	〇、〇三三二
有機質	痕 跡
硫酸亞兒密紐謨	〇、三三〇〇
硫酸那篤留謨	〇、四三三四
總 量	三、〇一八(瓦)

慢性皮膚疹 温疹 膿疱 疥癬 濕疹 疥癬 膿疱 疥癬
 乾癬 疥癬 濕疹 疥癬 膿疱 疥癬
 慢性筋痲痺私及筋強直 痛風慢性鐵泉中毒
 子宮及腔ノ慢性加性兒 喉頭咽頭ノ慢性加性兒
 遲鈍性潰瘍 湯火傷 鼠毒 蛇毒 犬毒 痲病
 靴スレ 眼病 絲傷 七 惱病 脚氣 男女色ヲ白クスル事妙ナリ

上毛川中溫泉野口 榮治

鳴 鳳 館

草 津 溫 泉

御 旅 館

慶 長 四 年 創 業

望 雲 館

電 一 長 一 一 〇 〇 番

農 園

櫻 養 木 雉 桃 業 炭

望 雲 館 農 園

草 津 町 前 口 村

群馬縣吾妻郡

新鹿澤温泉

眺望絶佳
夏ハ避暑ニ
冬ハスキーノ
好適地

鹿

鳴

館

宮崎彌太郎

貨別荘。スキー設備アリ

上州川原湯温泉

仙境 避暑、療養、遊覽、好適地

胃腸病に特效あり

上野驛より上越南線澁川驛急行二時間半
澁川驛より自動車一時間五十分乗合あり

旅館 養 壽 館

御報案内記進呈

草津温泉中央に本店あり……………電話草津六番

草津溫泉中央土木部

上州吾妻郡

川原湯溫泉

上州吾妻郡草津町

旅館
雜貨

山

木

星

草津鑛泉取締所

樋田亮平

土俵山泉

特效淋病、皮膚病、レウマチス、胃腸病其他

本

福田旅館

上州澤渡溫泉

龍鳴館

虎

屋

御紹介次第案内記送呈

群馬縣吾妻郡六合村

湯ノ平温泉

旅松仙閣

館主 劍持金次郎

群馬縣吾妻郡六合村

應徳温泉

旅朝日館

館主 山本良祐

開東耶馬溪・川原湯温泉

効能胃腸病に特効あり

風光

温泉地を中心に東西里余に亘り

溪谷美雄大にして比類なし

上野驛より上越南線澁川驛迄四時間

驛前より直通自動車あり一時間五拾分

交通

上州吾妻郡川原湯温泉

樋田甚重郎

旅舎 山木館

上州吾妻郡嬭戀村鹿澤温泉

小増屋旅館 **土屋榮太郎**

御一報次第案内記贈呈

順路 信越線上田驛ヨリ自動車ノ便アリ

群馬縣吾妻郡岩島村大字岩下

麻商 **中島豊次郎**

群馬縣吾妻郡岩島村大字三島

麻商 **小池傳十郎**

群馬縣吾妻郡中之條町

木暮雄二郎

新緑ニ避暑ニスキーニ

御登山被下度御待申上候

上州吾妻郡新鹿澤温泉

増屋旅館

道順 信越線上田驛及草津電鐵

嬭戀驛ヨリ自動車ノ便アリ

村社鳥頭神社、村社榛名神社

村社菅原神社、村社太田神社

村社松谷神社 社 掌

海野 衡平

岩島村大字三島

其日庵水月

春陽居綾絲

旅館 福田屋

吾妻郡岩下

電話岩下七番

群馬縣吾妻郡長野原町

つる屋旅館

長野原電話二〇番

吾妻郡岩下

旅館 叶富屋

電話岩下六番

吾妻郡岩下

内外科 入院隨意 十全醫院

院長 是成辰摩

電話岩下一〇番

建築請負業
大麻加工道具
一式販賣

伊藤春吉

吾妻郡岩島村大字三島

上州名産

吾妻木工品

○草花の鉢カバー ○組立式書架

○木彫風俗人形 其他新案品

詳細は左記へ御照會下され度候

群馬縣吾妻郡原町

製作發賣元 吾妻木工品組合

群馬縣吾妻郡中條町

大字中之條町九百三十五番地

株式會社 中之條銀行

預金

中之條群馬縣支金庫
日本銀行中之條代理店

電話十六番電略(ナカ)
振替口座東京九八〇七番

群馬縣吾妻郡中之條町

旅館 鍋屋喜八

電話 三十二番

振替東京二一六五四番

群馬縣吾妻郡原町

大字原町五八五ノ一

株式會社 上毛銀行原町支店

電話 五番
(電略シ)

貯金



定期 年八分以内ノ利率

當座 一日一錢八厘以下ノ日歩

救済 一口金百圓年五分

年賦 十年以内

貸付



普通 一ケ年以内

擔保貸 入庫票其他短期

貯金ハ、家族、團體ノ取扱ヲ致シマス

群馬縣吾妻郡岩島村三島

有限責任

弋致志舎信用利用組合

振替東京四二一八九

電話 岩下 一一番

吾妻木工品

小笠原流弓道二段

小林久一郎

群馬縣吾妻郡岩島村大字三島

吾妻郡岩島村大字三島

繭糸業

蒟蒻荒粉製造販賣

蒟蒻荒粉製造販賣

浦野郡次

高橋儀平

○貯金ハ共存共榮ノ源泉ナリ

◎貯金種目

- 一、定期一年以上八分以内、半年以上七分五厘以内
- 一、當座日歩百圓ニ付二錢以内
- 一、救済貯金一口百圓(毎月一圓)年五分利
- 一、家族、團體貯金日歩二錢以内

○貯金ハ身ヲ立テ、人ヲ助ケル

▶ 吾妻麻組合 ◀

製 造 販 賣

麻 織 物

需用者の注文に依り要求に應ずる織物を
製作致します

蕎 麥 粉

優等、並等の二種とし箱入、罐入、袋入
御好みに應じて差上ます

麻 副 産 物

荒麻、麻繩、暖簾繩、其他麻種子等取扱
ひます

蕎麥糠及枕・廢物理用として販賣します

群馬縣吾妻郡岩島村三島及矢倉

吾 妻 麻 組 合

大 麻

吾妻錦 黃金 滿月 山吹 黃鳥 紅葉

組 合 員 委 託 販 賣

群馬縣吾妻郡岩島村大字三島

通稱 吾妻麻組合

(有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合)

振替東京四二九一
電話 岩 下 二 番

大 賣 迎 登 席

美 麗 迅 速 廉 宜
印刷物の御用なら

美 麗 迅 速 廉 宜

中之條印刷所へ

主倉 林 杏 平
電話 一一六番

吾妻印刷組合

印刷物の御用なら
中之條印刷所へ
主倉 林 杏 平
電話 一一六番

群馬県立図書館



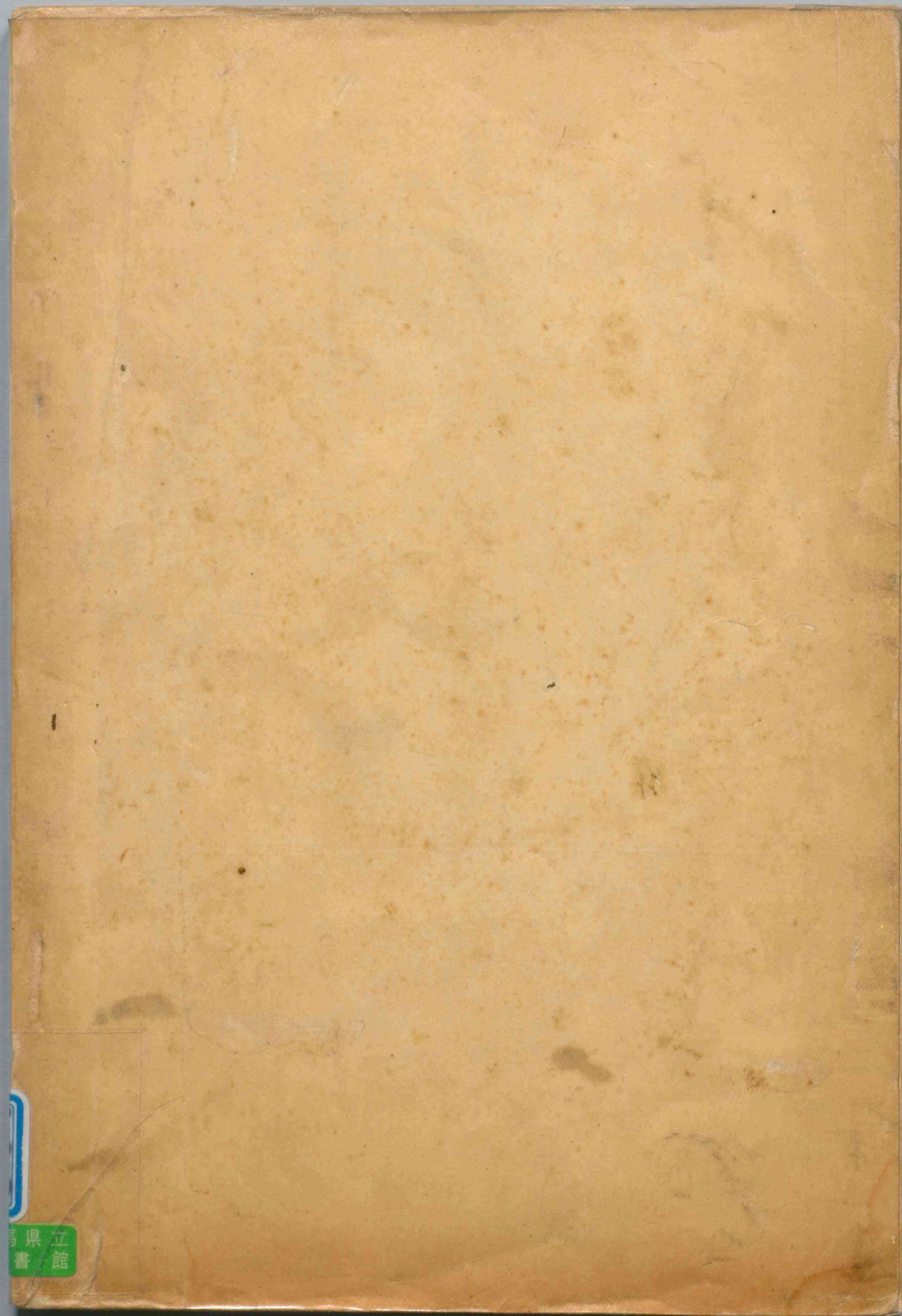
0238114-3

中

之

修

中



立館
書